

柿ノ木平遺跡 堰根遺跡

—浅岸地区区画整理事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅳ—

第1分冊 柿ノ木平遺跡 本文編

2008.3

盛岡市・盛岡市教育委員会

柿ノ木平遺跡 堰根遺跡

—浅岸地区区画整理事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅳ—

第1分冊 柿ノ木平遺跡 本文編

2008.3

盛岡市・盛岡市教育委員会

例 言

1. 本書は、盛岡市浅岸字柿木平、上村・堰根地内に所在する柿ノ木平・堰根遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本書は、浅岸地区区画整理事業に伴い実施した平成8～16年度の調査成果の報告書であるが、平成12年12月24日に発生した盛岡市教育委員会文化財収蔵施設火災による記録図面及び写真等の資料焼失のため、12年度以前の調査成果については、可能な限りの資料呈示に止まっている。本書は第1分冊－柿ノ木平遺跡本文編、第2分冊－柿ノ木平遺跡遺構編、第3分冊－柿ノ木平遺跡遺物編、第4分冊－堰根遺跡本文編、第5分冊－堰根遺跡遺構・遺物編の5分冊で構成される。なお、柿ノ木平遺跡における中近世の遺構については全体図に平面形を表示したのみで、上村屋敷遺跡発掘調査報告書（2007.3盛岡市教委）において出土遺物の一部を掲載している。
3. 本書は遺構および遺物の実測図などの資料呈示を意図して、編集は神原雄一郎、佐々木紀子、佐々木亮二、八木光則、千田和文、似内啓邦、室野秀文、津嶋知弘、三浦陽一、藤村茂克、今野公顕、花井正香、岩城志麻、安井千栄子、鈴木賢治が協議・執筆した（平成8～18年度）。
4. 遺構の平面位置は、平面直角座標X系を座標変換した調査座標で表示した。

$$\begin{array}{lcl} \text{調査座標原点} & X - 32,000,000 & = & R X \pm 0.000 \\ & Y + 30,000,000 & = & R Y \pm 0.000 \end{array}$$
5. 高さは標高値をそのまま使用している。
6. 土層図は堆積のあり方を重視し、線の太さを使いわけた。土層註記は層理ごとに本文でふれ、個々の層位については割愛した。なお、層相の観察にあたっては『新版標準土色帖』（1994小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業(株)発行）を参考にした。
7. 遺構記号は次のとおりである。なお、縄文・弥生時代の遺構番号は001～、奈良・平安時代の遺構番号は501～、中世及び近世の遺構番号は1001～としている。

	遺 構	記号	遺 構	記号	遺 構	記号	番 号
記 号	竪穴住居跡	R A	土 坑	R D	配石・集石	R H	縄文・弥生 001～
	建 物 跡	R B	竪 穴	R E	井 戸 跡	R I	古代（竪穴住居跡）0501～ 古代（土 坑）0501～
	柱 列 跡	R C	溝 跡	R G	遺物集中区	R P	中世・近世 1001～
	土取穴跡	R X					

8. 土器の区分は、縄文土器・弥生土器・続縄文土器・土師器・須恵器・あかやき土器にわけた。
9. 発掘調査に伴う出土遺物および諸記録は、盛岡市教育委員会で保管してある。
10. 浅岸地区区画整理事業関連遺跡発掘調査にかかる報告書は、次のとおりである。

$$\begin{array}{lcl} 1999.3 & \text{前野遺跡} & \text{—浅岸地区区画整理事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅰ—} \\ 2003.3 & \text{向田遺跡} & \text{—浅岸地区区画整理事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅱ—} \\ 2007.3 & \text{上村屋敷遺跡} & \text{—浅岸地区区画整理事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅲ—} \end{array}$$
11. 柿ノ木平遺跡全体図における調査回数や本文では旧回数を使用した。

目 次

例 言
目 次
表 目 次

I. 調査経過

1. 調査経過	1
2. 遺跡の地形・地質	4
3. 調査体制	7

II. 調査内容

1. 検出された遺構と遺物	8
(1) 縄文時代の竪穴住居跡	9
(2) 縄文時代の掘立柱建物跡	72
(3) 縄文時代の土坑	73
(4) 縄文時代の埋設土器	98
(5) 縄文時代の遺物包含層	101
(6) 平安時代の竪穴住居跡・土坑	102
(7) 中世の竪穴住居跡	106

III. 縄文時代の遺構と遺物について	107
---------------------------	-----

表 目 次

第1～16表 縄文時代土坑計測表	82～97
------------------------	-------

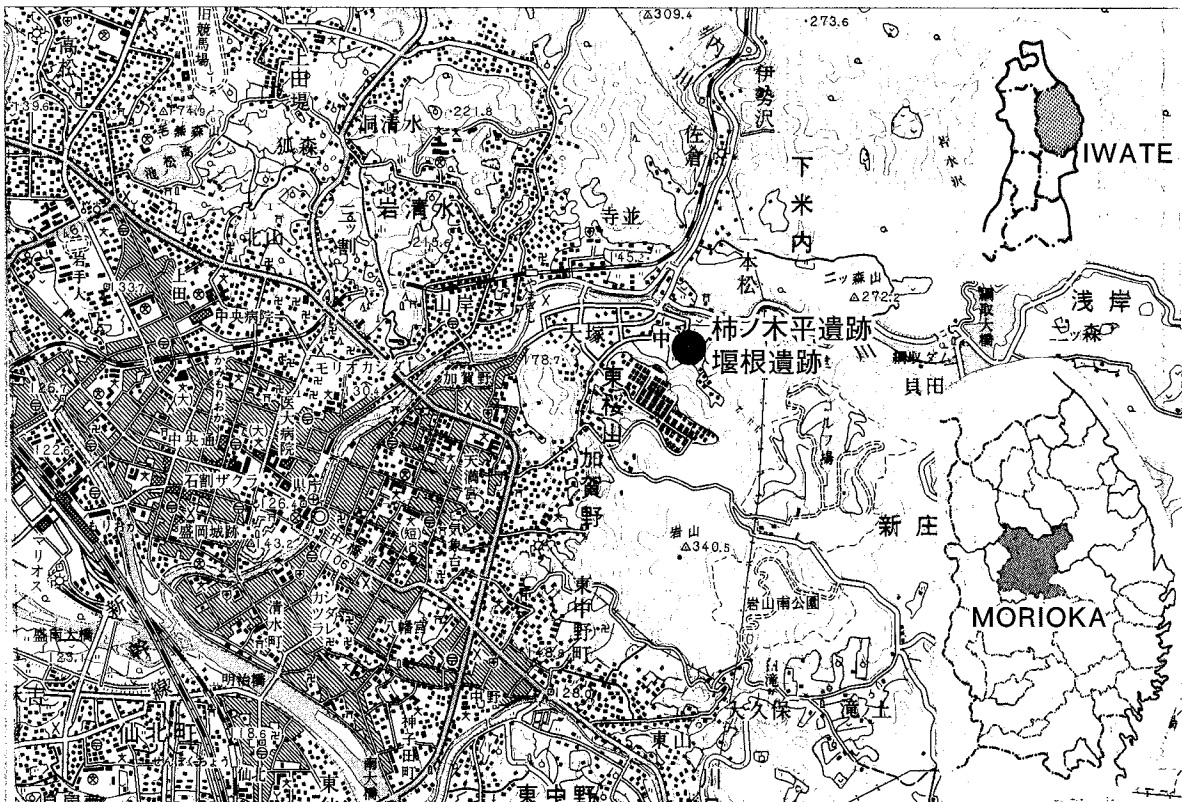
I. 調査経過

1. 調査経過

遺跡の位置 柿ノ木平遺跡は、盛岡市浅岸字柿木平15～54地内・上村1～43地内に所在する。

調査の概要 柿ノ木平・堰根遺跡のほぼ全域が浅岸地区区画整理事業造成区域内であるため、盛岡市都市整備部区画整理課と盛岡市教育委員会文化課との協議により、遺跡推定範囲の約51,000㎡が発掘調査を実施することとなり、遺構・遺物が確認された22,738㎡が調査対象となった。

遺跡範囲は、中津川東岸に発達する河岸段丘西半部（段丘Ⅱ）全域に及び、調査の結果、縄文時代中期後葉（大木8b～10式併行期）を主体とする地区¹（K2・3区、L1・2・3区、M1・2区）、縄文時代中期後葉～末葉（大木9～10式併行期）を主体とする地区（M3・4区、N3・4区）、縄文時代後期初頭（門前式併行期）を主体とする地区（N2区、O2区）が確認された。



第1図 遺跡の位置 (1:50,000)

過去の調査 柿ノ木平遺跡は昭和50年以降より宅地造成、個人住宅建設に伴う発掘調査が実施されており、以下は平成8年以前の調査期間及び面積である。

次数	旧次数	調査年月日	面積 (㎡)	備考
1	1	昭和50年4月14日～4月21日	670	
2	2	昭和50年5月6日～6月4日	112	
3	3	昭和50年11月1日～11月29日	1,468	
4	4	昭和51年6月17日～8月1日	1,860	
5	5	昭和57年5月31日～7月5日	98	
6	6	昭和57年6月15日～8月12日	310	現 上村屋敷遺跡
7	7	昭和59年5月28日～7月12日	235	
8	8	昭和62年11月6日～11月7日	5	現 堰根遺跡

浅岸地区区画整理事業に伴う発掘調査(第3図) 浅岸地区区画整理事業に伴う柿ノ木平遺跡の発掘調査は平成8年度より開始され、調査開始時において隣接する堰根遺跡・上村屋敷遺跡・向田遺跡の一部までを一括して柿ノ木平遺跡としていた。しかし、調査が進展した結果、微地形により現在の4遺跡に分割された経緯がある。そのため、柿ノ木平遺跡の調査次数を通し番号になるように変更することとした。しかし、遺構・遺物量が膨大あるため、整理作業時で混乱する恐れがあったことから本報告全て旧次数を使用することとした。

上村屋敷遺跡については中世に土地改変が行われた遺跡であることが確認され、中世以前の遺構・遺物は柿ノ木平遺跡から連続する同一の遺跡であったことから本報告に縄文時代の遺構・遺物を収録した。

平成8年度の調査 平成8年度は、第9次調査として遺跡北西部(L2区)1,100㎡を調査した。第9次調査区は昭和30年に縄文時代中期の伏甕が完形で発見された地点であるほか、地表面に多量の遺物が散布する地区であるため、多くの遺構検出が見込まれた。調査の結果、縄文時代の竪穴住居跡61棟、掘立柱建物跡1棟、土坑22基、中近世の溝跡1条が検出された。調査区全域に遺構が重複して検出され、調査区外にも遺構が数多く延びることから部分的に次調査に精査を行うように残した箇所もある。調査期間は6月10日から11月26日である。

平成9年度の調査 平成9年度は、第12次調査(K2区)336㎡、第13次調査(N2区)1,107㎡、第14次調査(L4区)432㎡、第15次調査(K4区)60㎡、第16次調査(L2区)353㎡、について本調査を実施した。その結果、K2区、L1・2区が設定された段丘北西部が縄文時代中期後葉～末葉の集落であることが明らかとなり、N2区が設定された段丘北辺には縄文時代後期初頭の竪穴住居跡・土坑群が確認されるなど、時代・時期により占地が異なることが明らかとなった。

平成10年度の調査 平成10年度は、第18次調査(L1・2区、K2区)1,950㎡、第20次調査(M2・3区、N2・3区)1,481㎡、第21次調査(L2・M2区)50㎡について本調査を実施した。第18次調査では、第5・9・10・14次調査で確認されていた中期後葉～末葉集落の北西端が土坑域であることが明らかにされた。第20次調査では縄文時代中期末葉の竪穴住居跡が多数確認され、段丘北西部の集落と時期が重なる別集落が存在することが確認された。

平成11年度の調査 平成11年度は、第20次調査(継続)628㎡、第21次調査(継続)150㎡、第24次調査(M3・4区)460㎡について本調査を実施した。その結果、縄文時代中期の竪穴住居跡、古

代の竪穴住居跡、中近世の竪穴建物跡が確認された。

平成12年度の調査 平成12年度は、第21次調査（継続）2,300㎡、第30次調査（M4・N4区）1,000㎡、第31次調査（M3・4区、N4区）400㎡、第32次調査（M3）500㎡、第33次調査（K2・3区、L2・3区）1,100㎡について本調査を実施した。その結果、段丘北西部の縄文中期集落の縁辺部を確認することができた。

平成13年度の調査 平成13年度は、第21次調査（継続）2,300㎡、第34次調査（K4・L4区）560㎡、第35次調査（M4・N4区）1,860㎡、第36次調査（M3・N3区）1,350㎡について本調査を実施した。

平成14年度の調査 平成14年度は、第36次調査1,350㎡、第37次調査（L4、M3・4区）1,480㎡、第38次調査（K4・5区、L4・5区）1,180㎡、第39次調査（K3・L3区）570㎡について本調査を実施した。

平成15年度の調査 平成15年度は、第40次調査（L3・M3区）815㎡について本調査を実施した。

次数	旧次数	調査年月日	面積（㎡）	備考
9	9	平成8年6月10日～11月26日	1,100	
10	12	平成9年4月15日～6月11日	336	
11	13	平成9年6月23日～9月30日	1,107	
12	14	平成9年6月18日～7月18日	432	
13	15	平成9年6月24日～7月17日	60	
14	16	平成9年10月1日～12月19日	353	
15	18	平成10年4月7日～11月24日	1,950	
16	20・20補	平成10年11月10日～12月11日 平成11年4月8日～12月10日	1,481	
17	21	平成10年11月24日～12月22日 平成11年4月8日～12月10日 平成12年6月8日～12月8日 平成13年4月16日～10月15日	2,300	
18	24	平成11年8月17日～10月22日	460	
19	30	平成12年7月4日～9月29日	1,000	
20	31	平成12年8月31日～11月9日	400	
21	32	平成12年9月26日～11月29日	500	
22	33	平成12年6月15日～6月19日	1,100	
23	34	平成13年6月8日～7月16日	560	
24	35	平成13年8月6日～10月19日	1,860	
25	36	平成13年8月28日～11月22日 平成14年4月15日～6月24日	1,350	
26	37	平成14年4月8日～7月26日	1,480	
27	38	平成14年7月26日～9月13日	1,180	
28	39	平成14年8月26日～10月25日	570	
29	40	平成15年7月7日～11月28日	815	

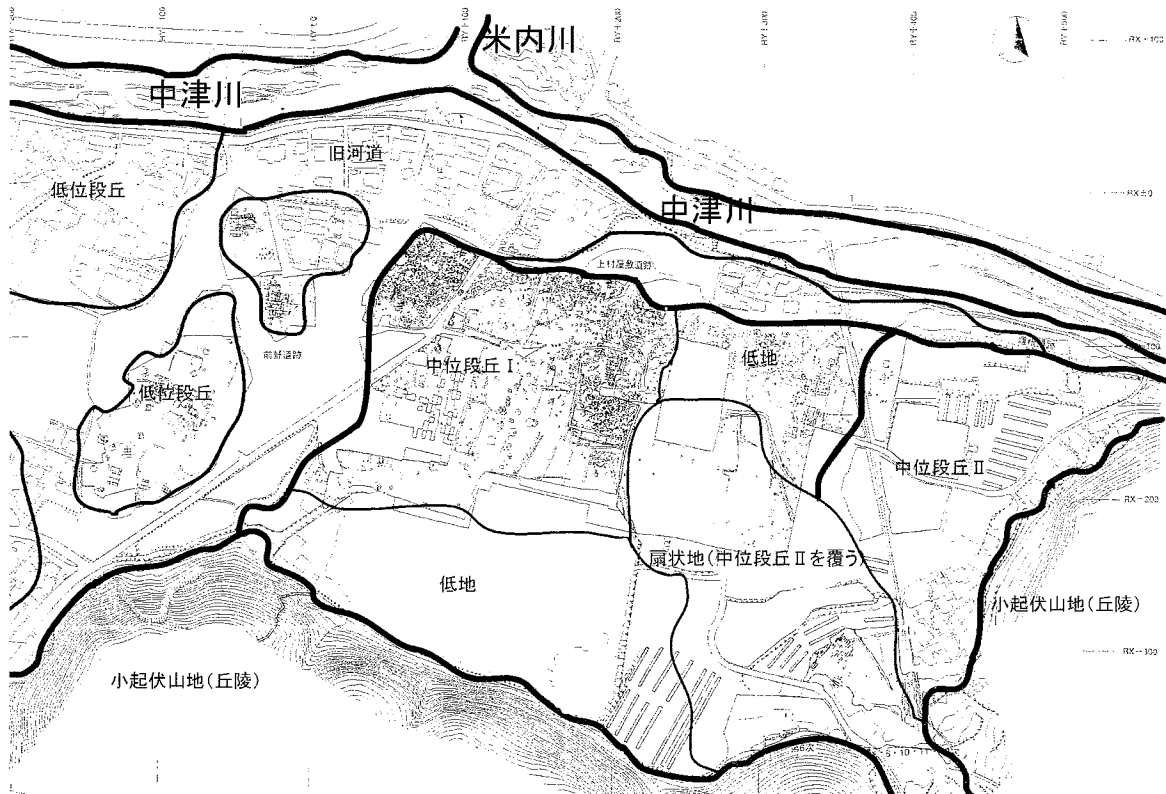
2. 遺跡周辺の地形・地質

地形・地質 盛岡市東部は地質構造上、北上山地の主要な境界となる早池峰構造体の西縁部にあたる。この山地は、高森山（626m）を中心とする高森山山地と、朝島山（607m）を中心とする朝島山山地の中起伏山地、さらに西に続く大日向山山地、岩山（341m）や大森山（381m）を含む建石山山地などの小起伏山地および四十四田丘陵で構成される。

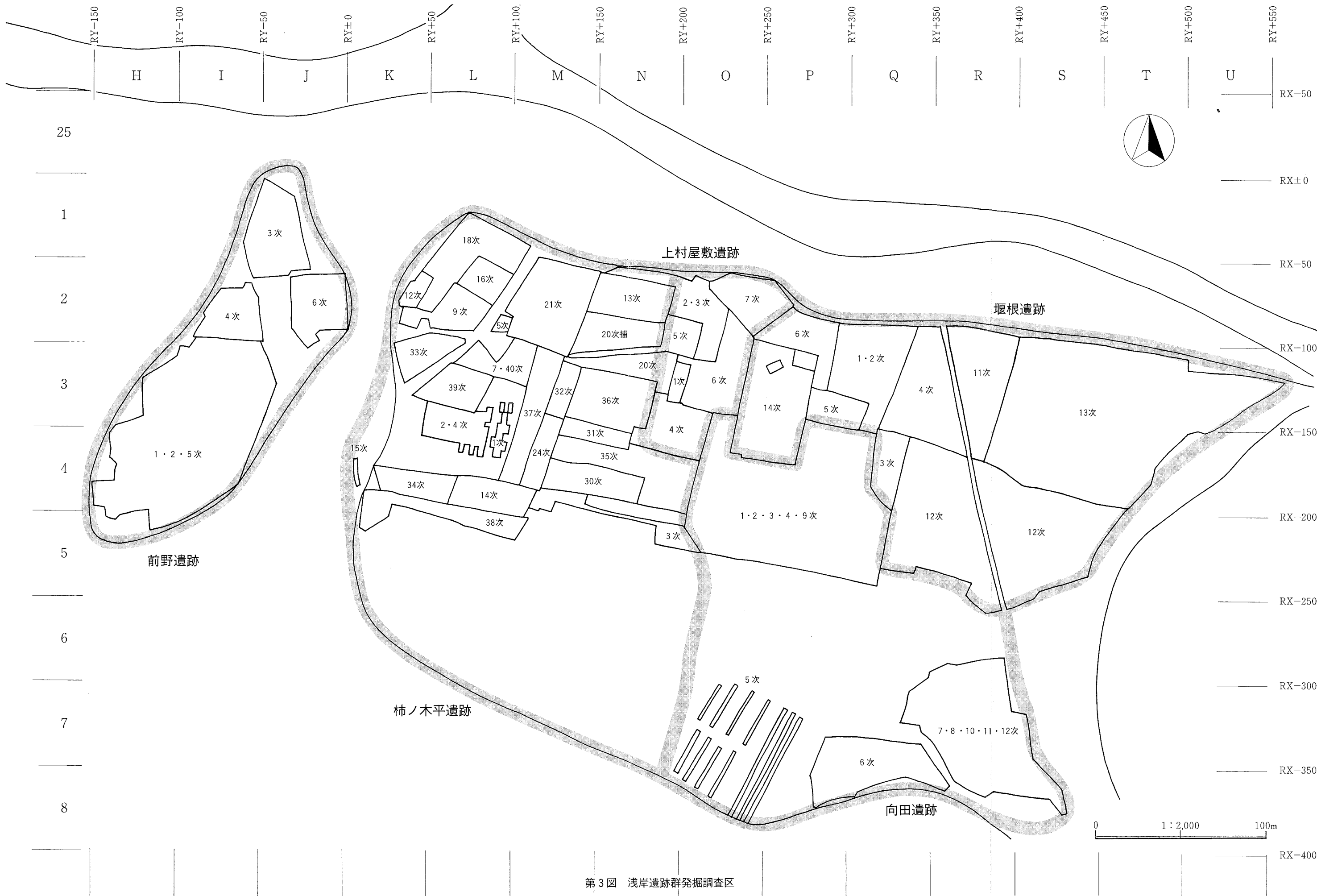
柿ノ木平・堰根遺跡が所在する浅岸地区は、建石山山地北部の東麓（小起伏山地）と四十四田丘陵南縁が入り組む氾濫平野を望む段丘面に位置する。平野部を流れる中津川は米内川と合流して水量を増し、中津川・米内川の合流点付近から北上川との合流点に至る下流域には狭い段丘が形成される。この段丘面は、基盤となる層が円礫など河川堆積物で構成され、礫層上にシルトが堆積し地表面に至る。段丘は大きく低位段丘、中位段丘Ⅰ・Ⅱの3面があり、最も古い面は洪積世末の火山灰層が堆積する中位段丘Ⅱである。堰根遺跡がのる段丘面（中位段丘Ⅱ）は下位より八戸火山灰、秋田駒ヶ岳噴出起源の火山灰（小岩井浮石）が黄褐色シルト層上に堆積し、柿ノ木平遺跡・上村屋敷遺跡がのる段丘面（中位段丘Ⅰ）では、上記した火山灰の堆積がなく、地山は褐色シルトと円礫層による互層となる。

中位段丘下には中津川の氾濫原が広がり、旧中津川に侵食された低位段丘が中州状となって分布する。これらの低位段丘面には平安時代以降の遺構・遺物が多い。

なお、前野遺跡では地表下約8mの地点より磨滅した縄文時代中期後半～末葉の土器片が多量に出土している。



第2図 浅岸地区地形区分図（1：6,000）



第3図 浅岸遺跡群発掘調査区

3. 調 査 体 制

調査体制 浅岸地区区画整理に関連する発掘調査事業は、盛岡市教育委員会文化課（現 歴史文化課）・区画整理課の両課で対応した。調査に関連する予算事務については区画整理課業務係、地権者交渉・調査日程の調整については同課補償係、調査と造成に係る工程の調整は同課工務係が文化課との協議を持って行い、埋蔵文化財発掘調査及び調査報告書の作成・刊行については文化課文化財係（平成8～15年度）、盛岡市遺跡の学び館（平成16～18年度）が担当した。

調査の実施及び整理にあたり下記の方々より多大な御援助と御協力を賜った。御芳名記して深く謝意を表する（五十音順、敬称略）。

<調査協力者>

阿部和平、上村喜蔵、上村平吉、上村靖彦、大森卓、小林博、小林興蔵、長岡文次郎、長岡秀夫、長岡守、長岡三雄、吉田博

<発掘調査> 池田正子、石井広行、石角奈緒子、井上志真子、岩根陽子、上村百合子、遠藤ユキエ、大鹿ミヨ子、大森サナ、大森祐子、岡本美知子、乙部佳寿代、片島智恵子、嘉糠和男、川上昌子、川島大典、川村明子、菊地泰乃、菊池美枝子、北口智里、久慈玲子、小林勢子、小林ヤヲ、小平信子、今田峰子、斎藤正二、佐々木幸子、佐々木千景、佐々木正行、佐藤和子、佐藤誠也、澤野むつ子、四戸孝丸、下河原潤一、白澤和子、鈴木ユウ子、高橋ツヤ、高橋弘子、高橋美恵子、立花武良、館野民子、種子孝三郎、玉井真由美、千葉ふさ子、千葉留里子、千葉美知、筒治悦子、栃澤等、長岡ミエ、中島京子、中田美奈子、長沼有紀子、新村勝雄、引木宇吉、日野杉節子、平野淑子、深野章、福田香乃、藤澤真奈江、細田省三、前島多栄子、三浦千鶴子、三浦亮太、村山伊津子、百岡峰子、八重樫信也、矢羽々妙子、山崎絹子、結城ひろみ、吉田貴美、吉田寿吉、米山徹、渡辺博子

〔北海学園大学学生〕松川光海 〔岩手大学学生〕門嶋知二、安藤稀環子、立花裕 〔富山大学学生〕佐々木亮二 〔岩手県立大学学生〕川上輝、富山武史、前田敏幸 〔盛岡大学学生〕竹内毅匡、増山光祐、〔早稲田大学学生〕丹野智之、〔茨城大学学生〕小原一成

<室内整理>（図面作成）小松愛子、藤田友子、伊藤敬子（遺物実測）鹿野奈保美、中嶋京子

（拓本・トレース）泉山紀代子、及川京子、川村久美子、佐藤美智子、竹花栄子、細田幸美

<業務委託> タックエンジニアリング株式会社（土器実測）、株式会社ラング（土器・石器実測）

<御指導・御助言>

相原康二（財団法人岩手県埋蔵文化財センター）、井上雅孝（滝沢村教育委員会）、市川健夫（東北大学）、小保内裕之（八戸市教育委員会）、鎌田勉（岩手県立博物館）、菅野智則（東北大学）、北村忠昭（財団法人岩手県埋蔵文化財センター）、日下和寿（白石市教育委員会）、佐々木務（岩手県立博物館）、新海和広（秋田県教育庁）、菅原哲文（財団法人山形県埋蔵文化財センター）、高木晃（財団法人岩手県埋蔵文化財センター）、武田良夫（日本考古学協会）、高瀬克範（明治大学）、中村良幸（花巻市教育委員会）、古田和誠（蔵王町教育委員会）、星雅之（財団法人岩手県埋蔵文化財センター）、三浦謙一（財団法人岩手県埋蔵文化財センター）、森田賢司（東北大学）

Ⅱ. 調査内容

1. 検出された遺構と遺物

検出状況 柿ノ木平・堰根遺跡が立地する沖積段丘は、東から流れる中津川が北から流れる米内川と合流し、水量を増した中津川の氾濫・侵食により形成された段丘である。段丘面（第2図）は大きく2面あり、中位段丘Ⅱとした面には堰根遺跡、段丘Ⅰとした面には柿ノ木平遺跡が立地する。地山となる褐色シルト層（段丘Ⅱ）、褐色火山灰層（段丘Ⅰ）より上位の基本層序は、表土及び耕作土（Ⅰa層）、黒褐色土（Ⅱa・b層）、漆黒に近い黒褐色土（Ⅲa・b層）、暗褐色土層（Ⅳ層）、褐色シルト層（Ⅴ層）、スコリアを多量に含む黄褐色土層（Ⅵ層）の6層に大別され、遺構検出は、Ⅱa層上面およびⅤ層で行われた。

縄文時代の竪穴住居跡・土坑跡はⅡa層上面で検出することが出来るが、黒褐色土内の為、調査が進行した後にⅤ層上面で再度検出作業を行っている。

古代の遺構については、縄文時代の遺構検出と同じくⅡa層上面で検出したが、表土直下のⅠ層内で平安時代の白色火山灰が見られたことから、本来の掘込面はⅡ層より上位の層であったと考えられる。

中・近世の遺構はⅡa層での遺構検出段階で縄文・古代の遺構と共に検出された。埋土が淡い黒褐色土やシルトとの混合土であることが多いため、他の時代との区別は比較的容易であった。しかし、近世遺構の埋土は耕作等による攪乱と大きな差がないため表土除去作業中に掘り抜いてしまったものもある。

検出遺構 検出された遺構は、縄文時代の竪穴住居跡258棟（R A 017～274）、土坑850基（R D 042～891）、平安時代の竪穴住居跡9棟（R A 0506～0514）、中世の竪穴建物跡（R E 0801）、溝跡7条、柱穴2,664口である。

縄文時代 縄文時代の遺構は、遺構・遺物は遺跡のほぼ全域から検出され、縄文時代中期後葉～末葉（大木8b～10式新段階）の竪穴住居跡は段丘北西部から中津川に面した段丘北縁に集中する（北西集落）。一方で中期後葉～末葉（大木9～10式新段階）にかけて短期間営まれたと考えられる集落が北西集落よりやや離れて南東に形成される（南東集落）。北西集落と南東集落は大木9～10式段階において対峙するような形で併存しており、近接していながら別集落が存在していたことが興味深い。中期末葉から後期初頭にかけては第13・20次調査区付近にR A 217・218・219？など数棟の竪穴住居跡と数多くのフラスコ状土坑で構成される集落になる。

平安時代 平安時代の遺構は遺跡西部を中心に検出されている。柿ノ木平遺跡では、過去に調査された竪穴住居跡を含めて14棟検出されている。特に昭和50・51年度に行われた第1～4次調査では5棟の竪穴住居跡が検出されていることから、平安時代においては第1～4次調査区周辺が中心的な地区であったことが考えられる。

(1) 縄文時代の竪穴住居跡 (第2分冊第1～85図)

検出状況 縄文時代の竪穴住居跡は全域より258棟検出された。特に段丘北西端付近に集中しており第9・12・16・18・21次調査区においては重複が激しく、さらに後世の攪乱等によりプランの検出が困難な状況であった。床面においても下層の住居跡との高低差がほとんどないものもあるなど本報告書に掲載した遺構・遺物について新旧や全体像を明らかにできたものは数少ない。住居によっては柱穴など住居の一部のみ残存している例が多々あるものと思われた。

掲載図版 本報告書では、調査時における検出順序と切合関係を重視した遺構図版を作成したが、床面における柱穴等のピットは帰属する住居跡が明らかでないものが多い。混乱が生じる可能性はあるが、プラン内の床面より検出されたピット等はプランに該当する住居の図版に掲載した。複式炉については住居の中央寄りの部分からⅠ・Ⅱ・Ⅲ…+前庭部とした。

RA017 竪穴住居跡 (第2分冊 第1図)

時期 大木9式併行期 **位置** K2区 **平面形** 不整楕円形?

規模 長軸上端4.05m以上・短軸 一、深さは削平のため不明

重複関係 RG1001溝跡に切られる。 **掘込面** 削平 **埋土** 削平

壁の状態 削平 **床面の状態** ほぼ平坦

石囲炉 中央? 東寄りの位置から複式炉が検出されている。炉は床面を0.18～20m程皿状に掘り抜かれ、石囲い部は長軸1.79～1.82m・短軸1.40m前後の長半円形を呈す。前庭部底面は固く締まる。炉内の埋土はA～C層に大別され、A・B層は3層に細別される。

遺物の出土状況 炉内の埋土より多量の土器が出土している。

出土遺物 (第3分冊 第1図1～第2図19) 1～18は深鉢で、1～10、13～16には隆沈線による文様が描かれる。1・2・13のように主要文様となる渦巻文が口縁部から体部上半に施され、渦巻文は他の渦巻文と直結して施される。体部下半は10・14のように渦巻文から垂下する懸垂文が施される。11は縦位の櫛目文が施される小形深鉢である。19は孔のある斧状土製品で、全面に無節縄文が施される。

RA018 竪穴住居跡 (第2分冊 第1図)

時期 大木8b-3式併行期 **位置** K2区 **平面形** 不整楕円形?

規模 一 **重複関係** RG1001に切られる。 **掘込面** 削平

埋土 削平 **壁の状態** 削平 **床面の状態** ほぼ平坦 **石囲炉** 一

伏壺 床面下より伏壺(第4図1)が1個体検出された。本来の埋設面は後世の削平によって破壊される。伏壺内部には暗褐色・黒褐色土が流入しており、埋土は固く締まる。

出土遺物 (第3分冊 第4図1～2) 1は伏壺に転用された深鉢で、体部下半から底部は後世の攪乱により削平される。口縁部は波状を呈し、口唇部に施された大小の渦巻文が連結し、その頂部が波頂部になる。波頂部下位には渦巻文が施され、小渦巻文を介しながら縦位に隆沈線を垂下させる。2は周溝埋土より出土した、体部が膨らむ小形深鉢である。器面には隆沈線による大小の渦巻文が施される。

R A 0 1 9 竪穴住居跡 (第2分冊 第1図)

時 期 大木9式併行期 位 置 K2区 平 面 形 不整楕円形?

規 模 — 重複関係 RG1001に切られる。 掘 込 面 削平

検 出 面 V層 埋 土 削平 壁の状態 削平

出土遺物 (第3分冊 第2図20) 1は把手のある小形樽形土器で、体部には沈線による逆U字文が描かれる。

R A 0 2 0 竪穴住居跡 (第2分冊 第2図)

時 期 大木9式併行期 位 置 L2区 平 面 形 不整楕円形?

規 模 — 重複関係 RG1001に切られる。 掘 込 面 削平

埋 土 A～H層に大別され、C層は炉、D～H層は周溝・柱穴埋土である。深さは削平のため不明。

壁の状態 削平 床面の状態 ほぼ平坦

複 式 炉 石囲部はI～Ⅲの3段あり、前庭部が最も掘り込みが深く、石囲部Ⅲと前庭部の境界より次第に浅くなる。前庭部底面より石棒 (第3分冊・第3図20) が出土している。長軸規模は2.86mをはかる。

出土遺物 (第3分冊 第2図21～第3図26) 21・23は地文のみが施される小形深鉢である。22は逆U字文が施される深鉢体部上半である。24は楕円区画文内に刺突・縄文が施される深鉢で、刺突が施される楕円区画は無文帯を挟み分割される。25は全面に縄文が施される斧状土製品で先端部・基部は欠損する。26は敲打整形による石棒である。

R A 0 2 1 竪穴住居跡 (第2分冊 第3図)

時 期 大木9式併行期 位 置 L2区 平 面 形 不整楕円形?

規 模 — 掘 込 面 削平 埋 土 A～E層に大別され、A層は炉、B～E層は周溝・柱穴埋土である。深さは削平のため不明である。 壁の状態 削平 床面の状態 ほぼ平坦?

複 式 炉 方形の石囲による燃焼部と袖状の石列を配する前庭部によって構成される。

伏 甕 炉の延長上で2個体の伏甕が検出された。伏甕1・2は共に埋設面が後世の削平により破壊されている。内部には黒褐色土が流入している。

出土遺物 (第3分冊 第5図1～3) 1・2は伏甕に転用された地文のみが施される深鉢で、2は口縁部を欠いた状態で伏せたものである。3は炉付近より出土した装飾把手付の小形の樽形土器である。装飾把手の奥には刺突が施され、把手下の器面には隆沈線による小渦巻を連結点とする文様が展開される。

R A 0 2 2 竪穴住居跡 (第2分冊 第4図)

時 期 大木8b-3式併行期 位 置 L2区 平 面 形 不整楕円形

規 模 長軸10.50m、短軸約9.0m 掘 込 面 削平

埋 土 A～E層に大別され、A・B層は2層に細別される。C～E層は周溝・柱穴埋土である。深さは削平のため不明である。 壁の状態 削平 床面の状態 ほぼ平坦

石 囲 炉 大部分が後世の攪乱により破壊されているが、残存する石組から本来は、方形の石組による

燃焼部であったことが考えられる。

伏 甕 炉の延長上で1個体の伏甕が検出された。伏甕が埋設された掘り込みの上部には他の柱穴等と同様の暗褐色土が堆積し、その下位に褐色シルトと暗褐色土の混合土が窪んだ状態で確認された(E₁層)。このE層とした土層は他のピットでも掘方の埋土として確認されており、人為による埋土である。そのことから本来はE層によって伏甕は覆われていたものが、底部が何らかの原因で破損し内部に土が流入したと考えることが出来る。そして、伏甕ピット底面からは破損した土器底部片が出土し、ほぼ完全に復元された。

出土遺物 (第3分冊 第6図1～第8図9) 1は伏甕に転用された大形深鉢で、隆沈線による4単位の大渦巻文は小渦巻文を介した2条1組の隆沈線により連結される。地文は縦位の撚糸文が施され、底部は穿孔される。2は住居南辺の床面より出土した石棒である。砂岩製で折れた状態で出土したものである。3～6は隆沈線による渦巻文が施される深鉢口縁部片である。7は器台底部で、接地部は平坦に整形される。7・9は頁岩製の削器である。

R A 0 2 3 竪穴住居跡 (第2分冊 第5図)

時 期 大木8b式併行期 **位 置** L2区 **平 面 形** — **規 模** —
重複関係 R A 0 2 3 - P 2 は R A 0 2 4 に 伴 う 可 能 性 が あ り 、 そ の 場 合 、 P 2 は R A 0 2 3 を 掘 り 込 む こ と か ら R A 0 2 4 より 古 い 時 期 で あ る こ と が 考 え ら れ る。 **掘込面** 削平
埋 土 A・C層に分かれ、A層は炉、C層は柱穴?埋土である。深さは削平のため不明である。
壁の状態 削平 **床面の状態** ほぼ平坦
石 罫 炉 大部分が攪乱によって失われているが、残存する石列から円形の炉であったことが考えられる。
出土遺物 図示していないが大木8b式の土器小片が出土している。

R A 0 2 4 竪穴住居跡 (第2分冊 第5図)

時 期 大木9式併行期 **位 置** L2区 **平 面 形** 不整円形
規 模 長軸約6.68m、短軸約6.20m、深さは削平のため不明 **重複関係** R A 0 2 3 を 切 る ?
掘込面 削平 **埋 土** A～E層に大別され、A～C層は炉、D・E層は周溝・柱穴埋土である。
壁の状態 削平 **床面の状態** ほぼ平坦
複 式 炉 石罫部はI・IIの2段あり、前庭部が最も掘り込みが深く、壁際はさらに掘り込まれる。
出土遺物 (第3分冊 第8図10～13) 10～13は隆沈線による逆U字文が施される深鉢体部上半である。11・13は口縁部が外反する。

R A 0 2 5 竪穴住居跡 (第2分冊 第6図)

時 期 大木10式併行期 **位 置** L2区 **平 面 形** 不整円形
規 模 長軸約5.60m、短軸約5.82m、深さは削平のため不明 **重複関係** R A 0 2 6 を 切 る ?
掘込面 削平 **埋 土** A～E層に大別され、A・B層は炉、C～E層は周溝・柱穴埋土である。
壁の状態 削平 **床面の状態** ほぼ平坦 **複 式 炉** 石組部はI・IIの2段あり、石罫部IIと前庭部が同一面で、石罫部IはIIと仕切られ段違いとなる。
出土遺物 (第3分冊 第8図14・15) 14・15は沈線による逆U字文が描かれる深鉢で、U字文内には縄文が充填施文される。

RA026 竪穴住居跡 (第2分冊 第6図)

時期 不明 位置 L2区 平面形 不整円形? 規模 一
重複関係 RA025に切られる? 掘込面 削平 埋土 A層は柱穴埋土である。
壁の状態 外傾する。 床面の状態 ほぼ平坦 炉 削平
遺物 図示していないが、埋土より縄文土器小片が出土している。

RA027 竪穴住居跡 (第2分冊 第7図)

時期 大木10式併行期 位置 L2区 平面形 隅丸多角形
規模 長軸約7.28m、短軸約6.70m、深さは削平・攪乱のため不明
重複関係 RA026を切る。 掘込面 削平 検出面 V層(地山)
埋土 A～E層に大別され、A・B層は炉、C～E層は周溝・柱穴埋土である。
壁の状態 削平 床面の状態 ほぼ平坦
複式炉 石囲部はI・IIの2段あり、石囲部IIと前庭部が同一面で、石囲部IはIIと仕切れ段違いとなる。石囲部Iには口縁部を欠く深鉢(第9図1)が正位で埋設される。土器内部には黒褐色土が堆積しており、焼土・灰等は確認されなかった。

出土遺物(第3分冊 第9図1～第10図15) 1は石囲部Iに正位埋設された深鉢である。口縁部は人為的に壊される。器面には単節縄文が縦位に施される。2は沈線による逆U字文が描かれる小形深鉢である。3は深鉢口縁部で地文が施される。4・5は隆線によるS字状(横)文を施す深鉢で、5の文様区画内には刺突が施される。6は沈線によるS字状(横)文を描く小形深鉢である。7～9は逆U字状文が描かれる深鉢口縁部で、文様内には縄文が充填施文される。10は隆線によるC字状(横)、11は沈線による波状またはS字状(横)文が描かれる深鉢体部片である。12は沈線によるS字状(横)文が描かれる深鉢である。13～15はP21より出土した斧状土製品で、基部側面に孔を穿ち、基部の頂部に凹みを持つものである。13の両面には逆U字状文、14・15には縄文が施される。

RA028 竪穴住居跡 (第2分冊 第8図)

時期 大木9式併行期 位置 L2区 平面形 不整円形
規模 長軸6.80m以上、短軸7.52m以上、深さは削平・攪乱のため不明
重複関係 RA027に切られ、RA022を切る。 掘込面 削平
埋土 A～F層に大別され、A層は炉、B～F層は周溝・柱穴埋土である。 壁の状態 削平
床面の状態 ほぼ平坦 複式炉 石囲部と前庭部で構成され、平面形は隅丸三角形を呈する。しかし、石囲部延長上に埋設土器があることから削平以前は石囲部が2段であったことが考えられる。

出土遺物(第3分冊 第11図1～4) 1は石囲部の延長上に正位埋設された深鉢である。口縁部と体部下半は人為的に壊される。器面には単節縄文が縦位に施される。2・3は同一個体で、隆沈線による小渦巻文が描かれる深鉢である。4は三角形を呈する土製品で6箇所孔を穿つ。

RA029 竪穴住居跡 (第2分冊 第9図)

時期 大木10式併行期 位置 L2区 平面形 不整楕円形

規 模 長軸5.56m、短軸4.98m、深さ0.14m以上
重複関係 R G 001に切られ、R A 030を切る。 **掘込面** 削平
埋 土 A～F層に大別される。A～C層は竪穴埋土で、E・Fは柱穴埋土である。
壁の状態 外傾して立ち上がる。 **床面の状態** ほぼ平坦 **複式炉** 石囲部Iのみ残存し、その他は後世の攪乱により削平される。石囲部には第3分冊第11図5の深鉢が正位で埋設される。
出土遺物 (第3分冊 第11図5～17) 5は石囲部に正位埋設された深鉢で、口縁部は人為的に壊される。器面には単節縄文が縦位に施される。6は吊手状把手を持つ小形樽型土器で、連結するC字状文が描かれる。7は逆U字状文が描かれる小形深鉢で、口縁部は波状を呈する。8はU字状文が描かれる深鉢体部片である。9は石鏃、10は石錐、11・13・16・17は側縁に剥離を施す削器、14は搔器、12・15は石鏃の未成品である。

R A 0 3 0 竪穴住居跡 (第2分冊 第10図)

時 期 大木9式併行期 **位 置** L 2区 **平面形** 不整楕円形
規 模 長軸6.86m以上、短軸2.00m以上、深さ0.18m以上
重複関係 R A 027・029に切られる。 **掘込面** 削平
埋 土 A～E層に大別される。A～C層は竪穴埋土で、D・E層は柱穴埋土である。
壁の状態 外傾して立ち上がる。 **床面の状態** ほぼ平坦
複式炉 方形の石囲部と火床面が残存し、その他は後世の攪乱により削平される。
出土遺物 (第3分冊 第12図1～5) 1は双口の小形土器で、側面には沈線によるU字状文が描かれる。2・3は隆沈線による渦巻文が描かれる深鉢体部片である。4は石錐、5は両面より剥離が施される抉入石器である。

R A 0 3 1 竪穴住居跡 (第2分冊 第11図)

時 期 大木8b-3～9式併行期 **位 置** L 2区 **平面形** 不整楕円形
規 模 長軸5.86m以上、短軸4.50m以上
重複関係 R A 032に切られる。しかし、東辺の壁と周溝の位置が不整合なため、壁・炉等を失った住居が住居と重複している可能性が高く、出土遺物についてもR A 032竪穴住居跡出土遺物と確実に分離できる状況ではなかった。
掘込面 削平 **埋 土** B・C層に大別される。B・C層は柱穴埋土である。
壁の状態 北・東壁が残存する。 **床面の状態** ほぼ平坦 **炉** 削平
出土遺物 (第3分冊 第12図6～第13図7～18) 6は大波状口縁を持つ大形深鉢で、口唇下に隆沈線による大渦巻文が施され、大渦巻文はさらに小渦巻文を介して連結される。7・8は口唇下に小渦巻文を施す深鉢で、渦巻文からは2条1組の隆沈線が垂下する。9は逆U字状文と楕円文が施される深鉢で、文様区画内に単節縄文を充填施文するものである。10～13・15は側縁に調整剥離を施す削器、14は石鏃、16・17は磨製石斧である。18は基部に円文と孔を持つ斧状土製品である。

R A 0 3 2 竪穴住居跡 (第2分冊 第11図)

時 期 大木9式併行期 **位 置** L 2区 **平面形** 不整円形

規 模 長軸5.88m、短軸4.70m以上 重複関係 RA031を切る。 掘込面 削平
 埋 土 A～D層に大別される。A層は炉埋土、B・C層は柱穴埋土である。
 壁の状態 北・東壁が残存する。 床面の状態 ほぼ平坦 炉 中央部に石囲炉があるが耕作による攪乱で南半分が破壊されている。
 出土遺物(第3分冊 第14図1～14) 1～4は逆U字状文を描く深鉢である。5～7・9・13は削器、8は石核、10・12は石鏃の未成品、11は石錐、14は石鏃である。

RA033 竪穴住居跡(第2分冊 第12図)

時 期 不明 位 置 L2区 平面形 不明
 規 模 長軸0.40m以上、短軸3.20m以上 重複関係 RA034に切られる。
 掘込面 削平 壁の状態 北・東壁が残存する。 床面の状態 ほぼ平坦 炉 削平
 出土遺物 図示していないが縄文時代中期の土器小片が出土している。

RA034 竪穴住居跡(第2分冊 第12図)

時 期 大木9式併行期 位 置 L2区 平面形 不整楕円形
 規 模 長軸2.26m以上、短軸4.24m以上、深さ 0.27m
 重複関係 RA033・035を切る。 掘込面 削平
 埋 土 A～D・J層に大別される。A～C層は竪穴埋土、D層は柱穴埋土、J層は炉埋土である。
 壁の状態 北・東壁が残存する。 床面の状態 ほぼ平坦 石囲炉 円形
 出土遺物(第3分冊 第15図1～10) 1は口縁部が波状を呈する小形深鉢である。口唇下に狭い無文帯を持ち小、隆沈線による小渦巻文と懸垂文を施す。2は逆U字状文と楕円文を施す深鉢である。3は口唇部に渦巻文のある突起を基点に対となる渦巻文を施し、その下位に小渦巻文を連結させるものである。4は大渦巻文と小渦巻文が平行線状の隆沈線を介して連結する文様が描かれる深鉢である。5・10は削器、6～8は石鏃、9は石錐である。

RA036 竪穴跡(第2分冊 第12図)

時 期 大木8b-3式併行期 位 置 L2区 平面形 不整円形
 規 模 3.00m×1.94m以上 重複関係 なし 掘込面 削平
 埋 土 A～C層に大別される。C層は周溝埋土である。 壁の状態 東壁が残存する。
 床面の状態 ほぼ平坦。中央にピットが掘り込まれる。 炉 なし
 出土遺物(第3分冊 第19図1・2) 1は隆沈線による渦巻文が施される深鉢口縁部片、2は体部片である。

RA035 竪穴住居跡(第2分冊 第13図)

時 期 大木8b-3～大木9式併行期 位 置 L2区 平面形 不整長楕円形
 規 模 長軸8.18m以上、短軸5.30m以上、深さ 0.09m
 重複関係 RA033・035を切る。 掘込面 削平
 埋 土 A～F層に大別される。A～C層は炉埋土、D～F層はピット埋土である。
 壁の状態 北壁が残存する。 床面の状態 ほぼ平坦

複式炉 石囲部は台形状を呈し、前庭部の西縁に0.84mの棒状自然礫が置かれる。前庭部南端に伏甕（伏甕1）が埋設される。発掘当初、R A035構築以前の伏甕とも考えられたが、掘込面が炉前庭部と同時であることが確認された。また、壁に沿い南側にも伏甕（伏甕2）が埋設される。

出土遺物（第3分冊 第16図1～第18図15） 1は伏甕に転用された大形深鉢である。口縁部は緩やかに内傾し、体部には縦位の撚糸文が施される。2～4は口唇部に渦巻文がある突起を持つ深鉢口縁部である。文様は隆沈線による逆U字状の区画内に小渦巻文を取めるものである。5（伏甕2）は体部下半から底部を欠く深鉢で、伏甕に転用されたものである。6・7はラッパ状に口縁部が開く小形深鉢である。8・10は浅鉢口縁部、9・11は深鉢口縁部片である。12は縦位の撚糸文を施す深鉢体部片である。13は両面両側縁に調整剥離が施される剥片で、14は礫皮面を残す剥片である。15は両端に打撃痕を残す石棒で片方にリング状の窪みが研磨形成される。

R A 0 3 7 竪穴住居跡（第2分冊 第14図）

時期 大木8b-3～大木9式併行期 **位置** L2区 **平面形** 不明

規模 不明 **重複関係** R A038・039・052に切られる。

掘込面 削平 **床面の状態** ほぼ平坦

出土遺物（第3分冊 第19図3～6） 3は3つの突起を持つ深鉢である。文様は隆沈線による渦巻文を上下に交互配置し、隆沈線で連結させるものである。主体となる文様は口縁部～体部上半に描かれる。4はラッパ状に口縁部が開く小形深鉢である。口縁部は人為的に破壊され、割口は研磨される。体部下半には孔を穿つなど焼成後の加工が顕著な土器である。5は石核、6は両面全周縁より押圧剥離が施される搔器である。

R A 0 3 8 竪穴住居跡（第2分冊 第14図）

時期 大木8b-3～大木9式併行期 **位置** L2区 **平面形** 不整円形

規模 5.60m×4.10m以上、深さ0.09m

重複関係 R A032・039に切れ、R A037を切る。 **掘込面** 削平

床面の状態 ほぼ平坦 **石囲炉** 中央部付近より南西寄りに構築される。石組部は半楕円形を呈する。

伏甕 1基検出。炉の長軸延長上に逆位埋設される。

出土遺物（第3分冊 第20図1～第21図9） 1は伏甕に転用された深鉢で、口縁部が緩やかに内傾し、最大径を体部上半に持つ。器面には縦位の櫛目が密に施される。2は体部に緩やかな膨らみを持つ深鉢で、器面には附加条縄文が縦位に施される。3・4・7は抉り入りの石鏃で5は有茎の石鏃である。6は横長の石匙、8は削器である。9は両面両側面に無節縄文を施す斧状土製品である。

R A 0 3 9 竪穴住居跡（第2分冊 第14図）

時期 大木8b-3～大木9式併行期 **位置** L2区 **平面形** 不整楕円形

規模 長軸5.21m・短軸4.40m、深さ0.39m

重複関係 R A037・038を切り、R A052・054に切られる。

掘込面 削平 **床面の状態** ほぼ平坦

複式炉 中央部付近より南寄りに構築される。石囲部に接して浅い掘り込みがある。

出土遺物（第3分冊 第22図1～17） 1は直線的に口縁部が外反する深鉢で、口縁部の突起下には横位

の渦巻文が施される。2・3は大波状口縁を持つ深鉢である。4は口縁が外反する深鉢で、小渦巻文が施される。5・6は逆U字状文が施される深鉢口縁部である。7は大波状口縁を呈す小形深鉢で器面には縦位の縄文が施される。8は縦位に縄文が施される深鉢口縁部片である。9は口縁部の突起部に横位の渦巻文を施し、渦巻文より隆沈線による懸垂文を施す深鉢口縁部片である。11～13は小形深鉢の口縁部片で、11・12には逆U字文、13には小渦巻文が描かれる。14は口縁部が外反する小形深鉢で、体部には沈線による有棘渦巻文と連結する渦巻基調の文様が描かれる。15は石鏃、16は削器である。17は突起のある三角形土製品である。

RA040 竪穴住居跡（第2分冊 第15図）

時期 大木8b-3式～大木9式併行期 位置 L2区 平面形 不整楕円形
 規模 長軸約9.24m・短軸約4.84m 重複関係 RA039に切られる。掘込面 削平
 床面の状態 攪乱により凹凸が激しいがほぼ平坦 炉 中央部付近より南西寄りに構築される。石囲部は方形を呈する。

伏 甕 石囲炉の延長上に伏甕が2基検出された。伏甕1は扁平な礫によって蓋をされており、礫下から伏甕の底部穿孔部まで幅5cm程の空洞が認められた。伏甕内部はほぼ空洞で、僅かに穿孔部より流入した褐色シルトが観察されただけであった。伏甕内面には周囲から浸透したシルトが膜のように付着していたが、取り上げた際に剥がれ落ちた。伏甕2は耕作等の攪乱により底部が破損していたが、内部に耕作土と思われる締まりのない土が流入していたことから本来は空洞なのであろう。

出土遺物（第3分冊 第23図1～第26図26） 1は伏甕に転用された大形深鉢である（伏甕1）。口縁部は緩やかに内傾し、器面には白色の粘土を使用した隆沈線による大渦巻と連結する小渦巻文が描かれる。器高53.1cm、最大径40.1cmをはかる。2は伏甕1の蓋として床面に置かれていたものである。表面には耕作時における傷が見られることから、耕作時においてこの蓋となった礫が耕作の障害となり下にある伏甕が保護されたものと考えられる。材質は凝灰質砂岩である。3は伏甕に転用された大形深鉢である（伏甕2）。口縁部は大きく内傾し、口唇下に横位の隆帯が施される。体部には単節縄文が縦位に施される。4は波状口縁を持つ深鉢で、大渦巻文を中心に小渦巻文を連結させる。5は口縁部に隆沈線による横位の文様を描く浅鉢である。6は体部が屈曲する小形深鉢で、器面には小渦巻を包括する懸垂文が描かれる。7は2単位の波状口縁を持つ小形深鉢で、器面には沈線によるY字状の懸垂文が描かれる。8は頸部が屈曲し肩部が膨らむ小形深鉢で、器面には蕨手状の懸垂文が描かれる。9は口縁部が大きく外反する深鉢で、隆沈線による小渦巻文と連結文が描かれる。10は石錐、12は再整形された磨製石斧、13・19は石匙で13は縦刃、19は横刃である。15・20は石鏃で15には浅い抉りが入る。11・14は微細剥離が見られる剥片で、16・17・21・23は搔器である。18・22・24・25は側縁が刃部となる削器である。26は足付の石皿で、材質は凝灰質砂岩による。

RA041 竪穴住居跡（第2分冊 第15図）

時期 大木8b-3式併行期 位置 L2区 平面形 不整楕円形？
 規模 長軸4.14m以上・短軸3.50m以上 重複関係 不明 掘込面 削平
 床面の状態 平坦 炉 中央部付近に構築される。石囲部は方形を呈する。

伏 甕 石囲炉の延長上に伏甕が1基検出された。底部は住居の重複や耕作により破壊されている。伏甕内部には土層の堆積が観察され、伏甕中央付近が凸状に層が堆積することから穿孔部より土が流入していたことが明らかである。伏甕2は伏甕1より東に1.4m離れた位置より検出された。耕作により底部は破壊されているが伏甕内部に耕作土が流入していたことから、攪乱以前は空洞であったことが考えられる。

出土遺物 (第3分冊 第27図1～第29図16) 1は伏甕に転用された大形深鉢で(伏甕2)、口縁部に狭い無文帯が設けられ、横位の隆帯を境に体部には縦位の撚糸文が施される。2は伏甕に転用された大形深鉢で(伏甕1)、口縁部に狭い無文帯が設けられ、横位の隆帯を境に体部には縦位の単節縄文が施される。3は口縁部が大きく外反する深鉢で口縁は波状を呈する。口唇部に沿って横位の連結する渦巻文が施され、頸部から下位には、隆沈線による小渦巻文を介した連結文が描かれる。4は頸部が屈曲する小形深鉢で、隆沈線による渦巻文が描かれる。5～8は隆沈線による文様が描かれる深鉢である。9・10・15は磨製石斧、11～14は削器、16は全面に単節縄文が施される斧状土製品である。

RA042 竪穴住居跡 (第2分冊 第15図)

時 期 大木8b-3式併行期 **位 置** L2区 **平 面 形** 不明
規 模 不明 **重複関係** 不明 **掘込面** 削平
床面の状態 平坦 **炉** 中央部付近に構築される。石囲炉は方形を呈する。

出土遺物 (第3分冊 第30図1～5) 1は小形浅鉢の口縁部片で、口唇下には隆線による横位の文様帯が描かれる。2・3は深鉢口縁部片、4は沈線による渦巻文が描かれる深鉢体部片である。5は石錐である。

RA043 竪穴住居跡 (第2分冊 第16図)

時 期 大木8b-3～大木9式併行期 **位 置** L2区 **平 面 形** 不整長楕円形
規 模 長軸7.42m以上、短軸2.72m以上、深さ 0.18m
重複関係 RA044・045に切られる。 **掘込面** 削平
埋 土 A～E層に大別される。A～C層は竪穴埋土、D・E層はピット埋土である。
壁の状態 外傾して立ち上がる。 **床面の状態** ほぼ平坦 **炉** 不明

出土遺物 (第3分冊 第30図6～15) 6は口縁部が波状を呈する深鉢口縁部片である。波頂部には孔が施される。7～10・12は隆沈線による文様が描かれる深鉢口縁部片で、7・8・12は口唇下に小渦巻文が施される。13は剥片端部を機能部とした石錐である。14・15は磨製石斧である。

RA044 竪穴住居跡 (第2分冊 第16図)

時 期 大木8b-3～大木9式併行期 **位 置** L2区 **平 面 形** 不整楕円形?
規 模 一、深さ 0.11m **重複関係** RA043を切り、RA045に切られる。
掘込面 削平 **埋 土** A層は竪穴埋土で、さらに3層に細分される。
壁の状態 外傾して立ち上がる。 **床面の状態** ほぼ平坦 **炉** 不明

出土遺物 (第3分冊 第30図16) 16は深鉢口縁部片で、口唇下に隆沈線による小渦巻文と小渦巻文から垂下する懸垂文が施される。

R A 0 4 5 竪穴住居跡 (第2分冊 第16図)

時 期 大木9式併行期 位 置 L2区 平 面 形 隅丸多角形
規 模 長軸5.92m・短軸3.53m以上、深さ0.43m 重複関係 R A 043・044を切る。
掘 込 面 削平 床面の状態 ほぼ平坦
複 式 炉 中央部付近より西寄りに構築される。西壁に接する浅い掘り込みがある。

出土遺物 (第3分冊 第31図1～第33図31) 1は口縁部が外反し、波状を呈する深鉢である。体部には隆沈線による大渦巻文と小渦巻文が連結する文様が描かれる。2・3・5～11・13・14・16～23は隆沈線による文様が描かれる深鉢口縁部で、10のように小渦巻文が簡略化されたような円文を施す例もある。また、全体的に大木8b式の渦巻文に特有な有棘文が20で見られる他はなく、19・21のように本来は有棘部であった箇所が他の文様と連結させる文様に変化しているようである。4は器台形を呈する土器で、高台部には孔が設けられる。15は深鉢底部、もしくは器台と思われる土器で、文様が底部を上へ施文したものである。24は石皿で、溶岩質安山岩を素材としたものである。25・26は基部に抉りのある石鏃で、27は有茎の石鏃である。27・29は削器、30は刃部が欠損する磨製石斧である。31は土器片を加工した三角形土製品である。

R A 0 4 6 竪穴住居跡 (第2分冊 第17図)

時 期 大木9式～大木10式併行期 位 置 L2区 平 面 形 隅丸多角形？
規 模 長軸4.58m以上・短軸4.36m以上、深さ0.11m 重複関係 不明
掘 込 面 削平 床面の状態 ほぼ平坦
複 式 炉 中央部付近より南寄りに構築される。石囲部Iに深鉢が埋設される(正位)。

出土遺物 (第3分冊 第33図32・33) 32は複式炉の石囲部Iに埋設された深鉢で、口縁部・底部を欠く。器面には単節縄文が縦位に施される。33は逆U字状文が描かれる深鉢体部片である。

R A 0 4 7 竪穴住居跡 (第2分冊 第18図)

時 期 大木9式～大木10式併行期 位 置 L2区 平 面 形 隅丸多角形？
規 模 長軸3.00m以上・短軸3.70m以上、深さ不明 重複関係 不明 掘 込 面 削平
床面の状態 ほぼ平坦 複 式 炉 中央部付近より西に寄った位置に構築される。
出土遺物 図示していないが、縄文時代中期の土器小片が出土している。

R A 0 4 8 竪穴住居跡 (第2分冊 第18図)

時 期 大木10式併行期 位 置 L2区 平 面 形 隅丸多角形？
規 模 長軸3.02m以上・短軸1.98m以上、深さ不明 重複関係 不明 掘 込 面 削平
床面の状態 ほぼ平坦 複 式 炉 中央部付近より南東寄りに構築される。

出土遺物 (第3分冊 第33図34・35) 34は逆U字状文が描かれる深鉢口縁部で、35は横S字状の文様を描く深鉢体部片である。

R A 0 4 9 竪穴住居跡 (第2分冊 第19図)

時 期 大木10式併行期 位 置 L2区 平 面 形 不整円形
規 模 長軸5.88m以上・短軸5.50m以上、深さ0.46m

重複関係 RA050を切る。 **掘込面** 削平

埋土 A～F層に大別される。A～C層は竪穴埋土、D～F層はピット埋土である。

床面の状態 ほぼ平坦 **複式炉** 中央部付近より北に寄った位置に構築される。

出土遺物 (第3分冊 第34図1～第35図37) 1・3・4・5は深鉢口縁部片で、5には逆U字状文が描かれる。2は隆線による横S字状文が描かれる深鉢体部片である。6は器台形を呈した土器で、脚部上部に横位の刺突列が施される。7は背面右側縁に調整剥離を施す削器である。8・9は縁辺に剥離が施される剥片である。10～12・17は基部に抉りのある石鏃で、16は有茎の石鏃である。13・19～22は石錐である。14・15・23・24・27・28・32・34は削器、25・26・29は側縁を抉る削器である。33・35は搔器、36は刃部が欠損する磨製石斧である。37は逆U字状文が描かれるミニチュア土器である。

RA050 竪穴住居跡 (第2分冊 第20図)

時期 大木9式併行期 **位置** L2区 **平面形** 不整楕円形

規模 長軸9.46m・短軸6.40m以上、深さ0.40m

重複関係 RA049・108・110に切られ、RA051を切る。 **掘込面** 削平

埋土 A～F層に大別される。A～B層は竪穴埋土、C層は炉埋土、D～F層はピット埋土である。竪穴埋土A層は黒褐色土を中心とした層で、B層は暗褐色土を主体とする層である。

床面の状態 ほぼ平坦

複式炉 中央部付近より西に寄った位置に構築される。石囲部はアーチ状を呈する。

出土遺物 (第3分冊 第36図1～第42図88) 1はP53に埋設されていた把手付壺形深鉢である。出土状況は逆位で潰れて検出された。破片は1個体分発見されたが、保存状態が極めて悪く、土器片が層状に破損・脆いことから図示された分だけ復元された。肩部には把手状の装飾が施され、口縁部は無文、体部には隆沈線による蕨手状の大渦巻文・楕円文・懸垂文が連結して施される。2は1と同様の器形を呈した小形の把手付壺形土器である。体部には隆沈線によるY字状の懸垂文と蕨手状の文様が描かれる。また、器面の内外には朱塗痕が観察される。3～5・7・8は隆沈線による蕨手状の文様が描かれる深鉢で、6はP34より正位で埋設された深鉢底部である。9は隆沈線による小渦巻文を連結点とし楕円区画文を描く深鉢である。10～14は深鉢口縁部で、10～12は隆沈線による小渦巻文を、14・21は蕨手状の文様を描く。15は渦巻状の突起を持つ深鉢口縁部片である。16は沈線による円文・逆U字状文を描く小形深鉢である。17・19は逆U字状文を描く深鉢で、18・20は楕円区画文を描く深鉢である。22～24は同一個体によるもので、渦巻状の突起を持つ深鉢である。渦巻文より隆沈線を垂下させて逆U字状の文様を表出し、文様内に刺突を充填施文する。25は楕円区画文内に刺突を充填施文する深鉢口縁部片である。26は横S字状文を描く深鉢体部片である。27は渦巻突起、28は孔のある突起を持つ深鉢口縁部片である。29は波状口縁を持つキャリパー形深鉢の口縁部片で、30～36は逆U字状文・アルファベット状文が描かれる深鉢片である。

37は基部に抉りのある石鏃で、38は基部が欠損する石鏃である。39・40は削器で、40の腹面右側縁には丁寧な押圧剥離が施される。41・42は石錐である。43は背面右側縁、44は両側縁に調整剥離を施す削器である。45は背面右側縁に調整剥離が施される削器である。46～49は基部に抉りのある石鏃である。50は製品加工途中の剥片と思われる。51は石錐で、52・53は先端部

が尖る削器である。54は背面左側縁に丁寧な押圧剥離を施す搔器で、55は腹面2側縁に押圧剥離を施す削器である。56は両面調整石器で57は刃部が緩やかなカーブを描く搔器である。58は平基の石鏃である。60～62は1側縁が剥離調整される削器である。63・64は端部を剥離調整する削器である。65・66・69は1側縁が剥離調整される削器である。67・68は抉りのある石鏃である。70～72・76・77は先端部が尖る削器である。73・74は全周縁に剥離が施される小形の削器と思われる。75はクサビ形を呈した石器である。78は切断面または折面に剥離を施す小形の削器と思われる。79は刃部に押圧剥離を施す搔器である。80は刃部を再調整する磨製石斧で、81は小形磨製石斧の未成品と思われる。82・83は土器破片を加工した土製円盤、84・85は斧状土製品である。86は耳飾?と考えられる土製品で、87は鳥類などを思わせる土製品、88は孔のある土製円盤である。

R A 0 5 1 竪穴住居跡 (第2分冊 第21図)

時 期 大木9式併行期 **位 置** L2区 **平 面 形** 不明 **規 模** 不明
重複関係 部分的にしか残存していないため新旧は不明。また、出土遺物についても明らかに住居に伴うものはない。 **掘込面** 削平
埋 土 竪穴埋土は図示していないがA～D層に大別される(焼失)。A層は竪穴埋土、B～D層はピット埋土である。竪穴埋土A層は黒褐色土を中心とした層で、B～D層は暗褐色土・シルトの混合土を主体とする層である。
床面の状態 ほぼ平坦 **複式炉** 中央部付近に構築される。石囲部は円形を呈する。
出土遺物 (第3分冊 第42図89～103) 89は体部に膨らみを持つ深鉢で、器面には縦位の単節縄文が施される。90は渦巻状の突起を持つ深鉢口縁部で、渦巻文より垂下する隆沈線により区画文が表出される。91は口縁部が内湾する小形深鉢で、口唇下に渦巻文が施される。92～95・97・98は隆沈線による渦巻文が描かれる深鉢、96・99・100は逆U字状文が描かれる深鉢である。101は両面全周縁に押圧剥離による調整を施す搔器、102は石錐、103は3側縁に剥離調整が施される削器?である。

R A 0 5 2 竪穴住居跡 (第2分冊 第21図)

時 期 大木8b-3式併行期 **位 置** L2区 **平 面 形** 不明
規 模 不明 **重複関係** R A 039・051・054に切られる。 **掘込面** 削平
埋 土 竪穴埋土は図示していないがA～C層に大別され(焼失)、ピット埋土についてもA・B層に大別した。 **床面の状態** ほぼ平坦 **炉** 削平
出土遺物 (第3分冊 第43図1～4) 1・2は渦巻状の突起を持つ深鉢口縁部片で、3・4は口縁部が外反する小形深鉢口縁部である。

R A 0 5 3 竪穴住居跡 (第2分冊 第21図)

時 期 大木8b-3式?併行期 **位 置** L2区 **平 面 形** 不明
規 模 不明 **重複関係** R A 039・051・054に切られる。 **掘込面** 削平
埋 土 竪穴埋土は図示していないがA～C層に大別され(焼失)、ピット埋土についてもA・B層に大別した。 **床面の状態** ほぼ平坦 **炉** 削平

出土遺物 図示していないが磨滅した土器片が出土している。

R A 0 5 4 竪穴住居跡 (第2分冊 第22図)

時 期 大木8b-3式~大木9式併行期 位 置 L2区 平面形 不明
規 模 不明 掘込面 削平
重複関係 R A 055に切られ、R A 039・040・051・052・053を切る。
埋 土 竪穴埋土は図示していないがA~C層に大別される(焼失)。 床面の状態 ほぼ平坦
複式炉 中央部より南西寄りに構築される。石囲部は不整長方形を呈する。石囲部に接して浅い掘り込みがあり、壁寄りにピットが掘り込まれる。
伏 甕 住居跡中央付近、長軸より西に寄る箇所より伏甕が1基検出された。伏甕穿孔部より住居床面に伸びる孔は長さ12cmをはかり、内部には締まりのないシルトと黒褐色土がスポンジ状の空間を挟みながら詰まり(A層)、伏甕内部はほぼ空洞であった。掘方上部は粘質黄褐色シルトで固められ(B層)、B層下には黒褐色・暗褐色・シルトの混合土(C層)、伏甕を囲むように砂(1~3mm)が充填されていた(D層)。伏甕の接地面には粘質押褐色シルト(E層)があり、地山面(礫層)に伏甕が接しないように配慮した可能性が考えられた。

出土遺物(第3分冊 第43図5~第45図25) 5は伏甕に転用された深鉢である(伏甕1)。底部には直径約7cmの穿孔が施される。器面には縦位の単節縄文が施される。

R A 0 5 5 竪穴住居跡 (第2分冊 第21図)

時 期 大木8b-3~大木9式併行期 位 置 L2区 平面形 楕円形?
規 模 長軸4.18m以上・短軸4.10m以上、深さ0.22m
重複関係 R B 103に切られ、R A 051・054・063を切る。 掘込面 削平
埋 土 A~F層に大別される。A~C層は竪穴埋土、D層は周溝埋土、F層はピット埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 炉 削平

出土遺物(第3分冊 第46図1~第47図36) 1は口縁部が緩やかに内傾する小形深鉢で、体部には沈線による逆U字状文が描かれる。2は口縁部が直線的に外反し、波状を呈する深鉢である。体部には隆沈線による楕円文・懸垂文が連結して施され、区画文内には撚糸文が縦位に充填施文される。3~17は隆沈線による渦巻文が施される深鉢片である。18~21・25基部に抉りのある石鏃で、26は平基の石鏃である。22は楔形石器で両面に剥離が施される。23・24・28~31・33・34は削器である。23は背面下端、24・28・29・31は背面右側縁、30は背面上端、33は腹面右側縁に調整剥離が施される。34は屈曲をもつ削器で、両面に入念な調整剥離が施される。27・32は板状の石錐で、両面に入念な押圧剥離が施される。35は磨製石斧で、表面には2条の明瞭な稜線が見られる。36は深鉢の土器片を剥離調整した土製円盤である。

R A 0 5 6 竪穴住居跡 (第2分冊 第23図)

時 期 大木9式古段階 位 置 L2区 平面形 不整楕円形
規 模 長軸5.60m以上・短軸5.36m以上、深さ0.14m 重複関係 なし 掘込面 削平
埋 土 A~E層に大別される。A・B層は竪穴埋土、C層は周溝埋土、D・F層はピット埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 複式炉 石囲部はI・IIの2段あり、石囲部Iに深鉢が埋設される(正位)。

出土遺物(第3分冊 第48図1) 1は複式炉の石囲部に埋設された緩やかな屈曲を持つ深鉢で、口縁部・底部を欠く。器面には単節縄文が縦位に施される。

R A 0 5 7 竪穴住居跡(第2分冊 第23図)

時期 大木9式併行期 位置 L2区 平面形 不整円形?
規模 長軸・短軸不明、深さ0.22m 重複関係 RA067・136を切る。 掘込面 削平
埋土 A～G層に大別される。A～C層は竪穴埋土、D・E層は周溝、F・G層はピット埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 複式炉 石囲部はI・IIの2段ある。石囲部に接して浅い掘り込みがあり、壁寄りにピットが掘り込まれる。

出土遺物(第3分冊 第48図2～6) 2～4は口縁部が緩やかに内湾する小形深鉢の口縁部片で、体部には沈線による楕円文・逆U字状文が施される。6は口縁部が外反し、波状を呈する小形深鉢で、体部には隆沈線による蕨手状の小渦巻文が施される。

R A 0 5 8 竪穴住居跡(第2分冊 第24図)

時期 大木10式併行期 位置 L2区 平面形 楕円形?
規模 不明 重複関係 RA049に切られる。 掘込面 削平
埋土 A～E層に大別される。A層は炉埋土、B・C層は周溝埋土、D・E層はピット埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 複式炉 中央部付近の北寄りに構築される。石囲部は台形状を呈し、石囲部に接して2段の浅い掘り込みがある。

出土遺物(第3分冊 第48図7・8) 7は隆線によるS字状文(横)が施される深鉢体部片で、8は口縁部が外反し、波状を呈する深鉢の口縁部片である。体部には沈線によるS字状(横)文が展開し、文様区画内には刺突が充填施文される。

R A 0 5 9 竪穴住居跡(第2分冊 第25図)

時期 大木10式併行期 位置 L2区 平面形 不整円形? 規模 不明
重複関係 RA060～063を切り、RA050・051に切られる。 掘込面 削平
埋土 A～E層に大別される。A・B層は竪穴埋土、C層は周溝埋土、D・E層はピット埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 複式炉 石囲部はI・IIの2段ある。石囲部に接して浅い掘り込みがあり、壁寄りにピットが掘り込まれる。

出土遺物(第3分冊 第49図1～第51図49) 1・2・4は口唇部が平坦に調整された深鉢で、器面には縦位の単節縄文が施される。3・15は楕円文・逆U字状文が描かれる深鉢体部片である。5～13・16は深鉢片で、器面には沈線による横S字状文が展開し、文様区画内には刺突・単節縄文が充填施文される。6・8・10・11は口縁部が波状を呈し、6は口唇部に刺突列が横位に施される。14は深鉢体部片で、2条の刺突列の下に単節縄文が施される。17～25は石鏃である。17・18・21～23・25は平基、19・20は基部に抉りのある石鏃、24は木葉形の石鏃であり、いずれも両面に入念な押圧剥離が施される。26・29～36・38～41は削器である。26・34は背面右側縁、29は背面左側縁、30は背面全周縁および腹面右側縁、31・36は腹面左側縁、32・40は腹面下端、33・41は背面右側縁および腹面下端、35は腹面右側縁、に調整剥離が施される。27は楔形石器で、両面に調整が施される。28・42は石匙である。縦長剥片を加工したもので、28はつまみ部

および背面全周縁に入念な押圧剥離が施され、腹面右側縁には刃部調整剥離が施される。42はつまみ部および両面下端に押圧剥離が施されるが、つまみ部の抉れはさほど顕著ではない。37は搔器で、両面全周縁に刃部調整剥離が施される。43～46は深鉢の土器片を剥離調整した土製円盤である。47は無文のミニチュア土器である。48・49は土版で、沈線による渦巻文が両面に描かれ、それぞれ穿孔が認められる。

RA060 竪穴住居跡 (第2分冊 第25図)

時期 大木10式併行期 位置 L2区 平面形 不明
規模 不明 重複関係 RA059に切られる?
掘込面 削平 埋土 A～D層に大別される。A・B層は炉埋土、C・D層はピット埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 石囲炉 中央部付近より北寄りに構築される。石組部は方形を呈する。
出土遺物 (第3分冊 第51図50～58) 50は沈線による横S字状文が体部上半に展開する深鉢である。51・52は深鉢体部片で、逆U字状文の文様区画内には複節縄文が充填施文される。53は無文のミニチュア土器である。54は板状の石錐で、錐部にかけて入念な押圧剥離が施される。55～57は削器である。55は腹面右側縁および下端、56は背面右側縁、57は腹面左側縁および下端に調整剥離が施される。58は平基の石鏃で、両面に入念な押圧剥離が施される。

RA063 竪穴住居跡 (第2分冊 第26図)

時期 大木8b-3～大木9式併行期 位置 L2区 平面形 不整楕円形
規模 長軸6.10m以上・短軸4.18m以上、深さ0.16m
重複関係 RA051・054・055・059・060に切られる。 掘込面 削平
埋土 A～D層に大別される。A・B層は竪穴埋土、C・D層はピット埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 複式炉 石囲部はI・IIの2段あり、石囲部に接して浅い掘り込みがある。
出土遺物 (第3分冊 第52図1～7) 1は大波状口縁を呈し、体部が屈曲する小形深鉢である。器面には隆沈線による小渦巻文と懸垂文が連結して施される。2は小形深鉢口縁部片で、器面には沈線による逆U字状文が描かれる。3は逆U字状文が施される深鉢体部片である。4・5は深鉢口縁部片で、4は波状口縁を呈し突起部には隆線による逆U字状文が施される。6は基部に抉りのある石鏃で、先端部は欠損している。7は削器で、両面上端に調整剥離が施される。

RA064 竪穴住居跡 (第2分冊 第27図)

時期 大木8b-2式併行期 位置 L1区 平面形 不整円形
規模 長軸3.52m・短軸2.98m、深さ0.35m 重複関係 なし 掘込面 削平
埋土 A～E層に大別される。A～C層は竪穴埋土、D・E層はピット埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 炉 なし
出土遺物 (第3分冊 第52図8) 8はキャリパー形深鉢の体部片で、器面には隆沈線による渦巻文・懸垂文が連結して施される。

RA065 竪穴住居跡 (第2分冊 第28図)

時期 不明 位置 L2区 平面形 不明

規 模 不明 重複関係 RA066・067・068に切られる。 掘込面 削平
埋 土 A・B層に大別される。A層は周溝埋土、B層はピット埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 石囲炉 中央部付近より北東寄りに構築される。石組部は円形を呈する。
出土遺物 図示していないが縄文土器小片が出土している。

RA066 竪穴住居跡（第2分冊 第28図）

時 期 大木9式併行期 位 置 L2区 平面形 楕円形？
規 模 長軸4.40m以上・短軸2.70m以上、深さ0.12m
重複関係 RA067・506に切られ、RA065を切る。 掘込面 削平
埋 土 A～D層に大別される。A層は竪穴埋土、B層は周溝埋土、C・D層はピット埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 炉 なし
出土遺物（第3分冊第52図9） 9は器面に沈線による逆U字状文が描かれる深鉢の体部片である。

RA067 竪穴住居跡（第2分冊 第29図）

時 期 大木9式併行期 位 置 L2区 平面形 不明 規 模 不明
重複関係 RA057・068に切られ、RA065・066を切る。 掘込面 削平
埋 土 A～F層に大別される。A～C層は竪穴埋土、D層は周溝埋土、E・F層はピット埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 石囲炉 中央部付近より南寄りに構築される。石組部は方形を呈する。
出土遺物（第3分冊 第52図10） 10は口縁部が直線的に外反し、波状を呈する深鉢口縁部片である。器面には、沈線による楕円文・逆U字状文が描かれ、文様区画内には単節縄文が充填施文される。

RA068 竪穴住居跡（第2分冊 第29図）

時 期 不明 位 置 L2区 平面形 不整円形？
規 模 長軸6.97m以上・短軸6.44m、深さ不明
重複関係 RA069に切られ、RA065・067を切る。 掘込面 削平
埋 土 A～C層に大別される。A層は周溝埋土、B・C層はピット埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 石囲炉 中央部付近より西寄りに構築される。石組部は楕円形を呈する。
出土遺物 図示していないが縄文土器小片が出土している。

RA069 竪穴住居跡（第2分冊 第30図）

時 期 大木9式併行期 位 置 L2・M2区 平面形 不明
規 模 不明 重複関係 RA068を切る。 掘込面 削平
埋 土 A～D層に大別される。A・B層は周溝埋土、C・D層はピット埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 石囲炉 中央部付近より南寄りに構築される。石組部は方形を呈する。
出土遺物（第3分冊 第53図1～13） 1は口縁部まで内湾気味に外傾する浅鉢で、器面には地文を磨り消して沈線による逆U字状文が描かれる。2・5は波状口縁を呈する小形深鉢の口縁部片で、器面には隆線による逆U字状文が描かれ、文様区画内には刺突が充填施文される。4は橋状把手をもつ深鉢体部片である。3・7は平縁の深鉢で、器面には逆U字状文が施され、地文は3が磨消、7は区画内充填による。6・9は屈曲部をもつ深鉢体部片で6は隆線、9は沈線によ

るU字状文が描かれる。8は沈線による楕円文が描かれる深鉢口縁部片で、10は逆U字状文が施される小形深鉢である。11・12は口縁部が外反する深鉢である。

RA070 竪穴住居跡（第2分冊 第31図）

時期 大木9式併行期 位置 L2区 平面形 不明
規模 長軸3.60m・短軸1.39m以上、深さ不明
重複関係 RA071に切られる。掘込面 削平
埋土 A～E層に大別される。A・B層は炉埋土、C層は周溝埋土、D・E層はピット埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 複式炉 中央部付近より西寄りに構築される。石組部は形状不明。
出土遺物（第3分冊 第54図1・2） 1は波状口縁を呈し、体部が屈曲する器形をもつ小形深鉢である。器面には隆沈線による小渦巻文・懸垂文が連結して施される。2は口縁部に渦巻状の突起をもち、体部が屈曲する器形の深鉢である。屈曲部は無文帯となり、器面には隆沈線による小渦巻文・懸垂文が連結して施される。

RA071 竪穴住居跡（第2分冊 第31図）

時期 大木9式併行期 位置 L2区 平面形 不整円形？
規模 長軸3.42m以上・短軸4.24m、深さ不明 重複関係 RA070・138を切る。
埋土 A～G層に大別される。A～D層は竪穴埋土、E・F層は周溝、F・G層はピット埋土である。
掘込面 削平 床面の状態 ほぼ平坦 複式炉 中心部付近より北西寄りに構築され、石囲部に接して浅い掘り込みがある。
出土遺物（第3分冊 第54図3～第55図12） 3・4・6・10は沈線による楕円文・逆U字状文が描かれる深鉢の口縁部片で、3・10は波状口縁を呈す。5は波状口縁を呈す深鉢の口縁部片で、口頸部には横位の平行沈線間に円形刺突列が施される。7は沈線による逆U字状文が施される深鉢口縁部片で、文様区画内には単節縄文が残される。8は隆沈線による小渦巻文・懸垂文が連結して施される小形深鉢である。9は波状口縁を呈し、口頸部に屈曲をもつ器形の深鉢である。沈線による楕円文・逆U字状文が描かれ、楕円文区画内には刺突文が充填される。11は土器片を加工した三角形土製品で、背面に刺突文が施される。12は擦痕・磨面をもつ台石である。

RA072 竪穴住居跡（第2分冊 第32図）

時期 大木9式併行期 位置 L2区 平面形 不整円形
規模 長軸3.49m以上・短軸3.39m、深さ0.24m 重複関係 なし 掘込面 削平
埋土 A～D層に大別される。A・B層は竪穴埋土、C・D層はピット埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 石囲炉 中央部付近より北東寄りに構築される。石組部は楕円形を呈する。
出土遺物（第3分冊 第56図1～4） 1は体部に膨らみをもつ器形の深鉢で、口頸部には1条の刺突列が横位に施される。器面には横S字状文・逆U字状文が施され、口縁部下には円形刺突が横位に施される。2は体部に屈曲をもつ器形の深鉢体部片で、隆沈線による小渦巻文・懸垂文が連結して施される。3・4は同一個体の深鉢片で、沈線による楕円文が描かれる。

RA073 竪穴住居跡 (第2分冊 第32図)

時期 不明 位置 M2区 平面形 不整円形?
規模 長軸4.70m以上・短軸2.20m以上、深さ不明 重複関係 RA074に切られる。
掘込面 削平 埋土 A～C層に大別される。A層は周溝埋土、B・C層はピット埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 炉 不明 出土遺物 図示していないが縄文土器小片が出土している。

RA074 竪穴住居跡 (第2分冊 第32図)

時期 大木8b-3式併行期 位置 M2区 平面形 不整円形?
規模 長軸3.10m以上・短軸1.12m以上、深さ0.19m 重複関係 RA073を切る。
掘込面 削平 埋土 A～D層に大別される。A～C層は竪穴埋土、D層はピット埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 石囲炉 不明
出土遺物 (第3分冊 第56図5・6) 5は隆沈線による小渦巻文・懸垂文が連結して施される深鉢体部片である。6は深鉢口縁部片で、沈線による小渦巻文・懸垂文が連結して施される。

RA075 竪穴住居跡 (第2分冊 第33図)

時期 大木8b-3式～9式併行期 位置 K2区 平面形 不明
規模 不明 重複関係 不明 掘込面 削平 埋土 不明
床面の状態 ほぼ平坦 石囲炉 石組部は方形を呈し、深鉢が埋設される(正位)。
出土遺物 (第3分冊 第56図7) 7は石囲炉に正位埋設された深鉢である。口縁部は人為的に壊される。器面には隆沈線による有棘小渦巻文と懸垂文が連結して施される。

RA076 竪穴住居跡 (第2分冊 第33図)

時期 大木10式併行期 位置 L2区 平面形 不明
規模 不明 重複関係 不明 掘込面 削平 埋土 A層は炉埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 石囲炉 石組部は楕円形を呈し、深鉢が埋設される(正位)。
出土遺物 (第3分冊 第56図8) 8は石囲炉に正位埋設された深鉢である。口縁部と体部下半は人為的に壊される。器面には沈線による横S字状文が施され、文様区画内には単節縄文が残される。

RA077 竪穴住居跡 (第2分冊 第33図)

時期 大木9式併行期 位置 L2区 平面形 不明
規模 不明 重複関係 不明 掘込面 削平 埋土 A層は炉埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 石囲炉 石組部は半楕円形を呈する。
出土遺物 (第3分冊 第56図9～11) 9は深鉢体部片で、隆沈線による小渦巻文と懸垂文が連結して施される。10は波状口縁を呈する深鉢口縁部片で、沈線による渦巻文・逆U字状文が連結して施され、文様区画内には単節縄文が充填施文される。

RA078 竪穴住居跡 (第2分冊 第33図)

時期 大木10式併行期 位置 L2区 平面形 不明
規模 不明 重複関係 不明 掘込面 削平 埋土 A層は炉埋土である。

床面の状態 ほぼ平坦 地床炉 深鉢が埋設される（正位）。

出土遺物（第3分冊 第56図12） 12は地床炉に正位埋設された深鉢で、体部下半は人為的に壊される。器面には隆線による横S字状文が展開し、文様区画内には縦位に単節縄文が充填施文される。

R A 0 7 9 竪穴住居跡（第2分冊 第33図）

時 期 不明 位 置 L2区 平 面 形 不明 規 模 不明
重複関係 不明 掘込面 削平 埋 土 不明 床面の状態 ほぼ平坦
石 囲 炉 石組部は方形を呈する。 出土遺物 図示していないが縄文土器小片が出土している。

R A 0 8 0 竪穴住居跡（第2分冊 第33図）

時 期 不明 位 置 L2区 平 面 形 不明 規 模 不明
重複関係 R A 0 2 8 を切る。 掘込面 削平 埋 土 A層は炉埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 石 囲 炉 形状不明
出土遺物 図示していないが縄文土器小片が出土している。

R A 0 8 1 竪穴住居跡（第2分冊 第33図）

時 期 大木8b-3式併行期 位 置 L2区 平 面 形 不明 規 模 不明
重複関係 不明 掘込面 削平 埋 土 A・B層に大別され、ともに炉埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 石 囲 炉 石囲炉は楕円形を呈する。
出土遺物（第3分冊 第57図1） 1は口縁部が外反し、波状口縁を呈する小形深鉢で底部を欠く。口縁部に無文帯を設け、器面には隆沈線による小渦巻文と懸垂文が連結して施される。

R A 0 8 2 竪穴住居跡（第2分冊 第33図）

時 期 不明 位 置 L2区 平 面 形 不明 規 模 不明
重複関係 不明 掘込面 削平 埋 土 不明 床面の状態 ほぼ平坦
石 囲 炉 形状不明 出土遺物 図示していないが縄文土器小片が出土している。

R A 0 8 3 竪穴住居跡（第2分冊 第33図）

時 期 大木10式併行期 位 置 L1区 平 面 形 不明
規 模 不明 重複関係 R D 1 1 3 ・ 1 1 4 土坑に切られる。 掘込面 削平
埋 土 A～D層に大別される。A・B層は竪穴埋土、D層は炉埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 複 式 炉 石囲部はI・IIの2段あり、石囲部Iに深鉢が埋設される（正位）。
出土遺物（第3分冊 第57図2） 2は石囲炉Iに正位埋設された深鉢である。口縁部と体部下半は人為的に壊される。器面には沈線による横S字状文が展開し、文様区画内には単節縄文が充填施文される。

R A 0 8 4 竪穴住居跡（第2分冊 第33図）

時 期 大木10式併行期 位 置 L1区 平 面 形 不明 規 模 不明
重複関係 不明 掘込面 削平 埋 土 A・B層に大別され、ともに炉埋土である。

床面の状態 ほぼ平坦 石囲炉 形状不明

出土遺物(第3分冊 第57図3) 3は沈線による横S字状文が展開する深鉢体部片である。

RA085 竪穴住居跡(第2分冊 第34図)

時期 大木9式併行期 位置 L1区 平面形 不明

規模 不明 重複関係 不明 掘込面 削平 埋土 A層は炉埋土である。

床面の状態 ほぼ平坦 石囲炉 石囲炉は不整円形を呈する。

出土遺物(第3分冊 第57図4・5) 4は沈線による楕円文・逆U字状文が施される深鉢口縁部片である。5は基部および刃部欠損の斧状土製品で、全面に複節縄文が施される。

RA086 竪穴住居跡(第2分冊 第34図)

時期 大木9式併行期 位置 L2区 平面形 不明

規模 不明 重複関係 不明 掘込面 削平

埋土 A・B層に大別され、A層は竪穴埋土、B層は炉埋土である。 床面の状態 ほぼ平坦

複式炉 石囲部はI・IIの2段あり、石囲部に接して浅い掘り込みがある。

出土遺物(第3分冊 第57図6) 6は口縁部が外反し、口頸部に屈曲をもつ器形の小型深鉢で、体部下半を欠く。器面には隆線による楕円文と懸垂文が施される。

RA087 竪穴住居跡(第2分冊 第34図)

時期 大木10式併行期 位置 L2区 平面形 不明 規模 不明

重複関係 不明 掘込面 削平 埋土 A・B層に大別され、ともに炉埋土である。

床面の状態 ほぼ平坦 複式炉 石囲部はI・IIの2段あり、石囲部Iに深鉢が埋設される(正位)。

出土遺物(第3分冊 第57図7~9) 7は石囲部Iに正位埋設された深鉢である。体部下半は人為的に壊される。口縁部が外反し、器面には隆線による横S字状文が展開し、文様内には単節縄文が充填施文される。8・9は沈線による楕円文・逆U字状文が描かれる深鉢口縁部片である。

RA088 竪穴住居跡(第2分冊 第34図)

時期 不明 位置 L2区 平面形 不明

規模 不明 重複関係 不明 掘込面 削平 埋土 A層は炉埋土である。

床面の状態 ほぼ平坦 石囲炉 石囲部は方形を呈する。 出土遺物 なし

RA089 竪穴住居跡(第2分冊 第34図)

時期 大木9式併行期 位置 L2区 平面形 不明

規模 不明 重複関係 不明 掘込面 削平 埋土 A層は炉埋土である。

床面の状態 ほぼ平坦 石囲炉 石囲部は楕円形を呈する。

出土遺物(第3分冊 第58図1~7) 1は口縁部が外反し、波状口縁を呈する深鉢口縁部片である。器面には沈線による楕円文・逆U字状文が施され、文様区画内には刺突文・単節縄文が充填施文される。2~5は口縁部が内湾する器形の深鉢口縁部片である。器面には隆沈線による渦巻文と懸垂文が連結して展開し、3・5には横位の刺突列が施される。6・7は抉りのある石鏃である。

RA090 竪穴住居跡 (第2分冊 第34図)

時期 大木9式併行期 位置 L2区 平面形 不明
規模 不明 重複関係 不明 掘込面 削平 埋土 A層は炉埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 石囲炉 石囲部は円形を呈する。
出土遺物 (第3分冊 第58図8) 8は沈線による逆U字状文が描かれる深鉢体部片である。

RA091 竪穴住居跡 (第2分冊 第34図)

時期 不明 位置 L2区 平面形 不明 規模 不明
重複関係 不明 掘込面 削平 埋土 不明 床面の状態 平坦
石囲炉 形状不明 出土遺物 図示していないが縄文土器小片が出土している。

RA092 竪穴住居跡 (第2分冊 第34図)

時期 不明 位置 L2区 平面形 不明 規模 不明
重複関係 不明 掘込面 削平 埋土 不明 床面の状態 ほぼ平坦
石囲炉 石囲炉は方形を呈する。 出土遺物 図示していないが縄文土器小片が出土している。

RA093 竪穴住居跡 (第2分冊 第34図)

時期 不明 位置 L2区 平面形 不明 規模 不明
重複関係 不明 掘込面 削平 埋土 A・B層に大別され、ともに炉埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 石囲炉 石囲炉は楕円形を呈する。
出土遺物 図示していないが縄文土器小片が出土している。

RA094 竪穴住居跡 (第2分冊 第34図)

時期 不明 位置 L2区 平面形 不明
規模 不明 重複関係 不明 掘込面 削平 埋土 不明
床面の状態 ほぼ平坦 石囲炉 形状不明 出土遺物 なし

RA095 竪穴住居跡 (第2分冊 第34図)

時期 不明 位置 L2区 平面形 不明 規模 不明
重複関係 不明 掘込面 削平 埋土 A・B層に大別され、ともに炉埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 石囲炉 石囲炉は楕円形を呈する。 出土遺物 なし

RA096 竪穴住居跡 (第2分冊 第34図)

時期 不明 位置 L2区 平面形 不明
規模 不明 重複関係 RG001・RA029に切られる。 掘込面 削平
埋土 A・B層に大別され、ともに炉埋土である。 床面の状態 ほぼ平坦
複式炉 石囲部に接して浅い掘り込みがある。 出土遺物 なし

RA097 竪穴住居跡 (第2分冊 第34図)

時期 不明 位置 L2区 平面形 不明 規模 不明
重複関係 不明 掘込面 削平 埋土 A層は炉埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 石囲炉 石囲部は不整円形を呈する。 出土遺物 なし

RA098 竪穴住居跡 (第2分冊 第35図)

時期 大木9式併行期 位置 L2区 平面形 不明 規模 不明
重複関係 不明 掘込面 削平 埋土 A層は炉埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 石囲炉 石囲部は方形を呈する。
出土遺物 (第3分冊 第58図9) 9は口縁部が外傾し、波状口縁を呈する深鉢口縁部片である。器面には沈線による小渦巻文・円文・逆U字状文が連結して描かれる。

RA099 竪穴住居跡 (第2分冊 第35図)

時期 大木9式併行期 位置 L2区 平面形 不明 規模 不明
重複関係 不明 掘込面 削平 埋土 A層は炉埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 石囲炉 形状不明
出土遺物 (第3分冊 第58図10・11) 10・11は隆沈線による渦巻文と懸垂文が連結して描かれる深鉢体部片である。

RA100 竪穴住居跡 (第2分冊 第35図)

時期 不明 位置 L2区 平面形 不明
規模 不明 重複関係 不明 掘込面 削平 埋土 不明
床面の状態 ほぼ平坦 石囲炉 石囲部は円形を呈する。 出土遺物 なし

RA101 竪穴住居跡 (第2分冊 第35図)

時期 不明 位置 L2区 平面形 不明
規模 不明 重複関係 不明 掘込面 削平 埋土 A層は炉埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 石囲炉 形状不明
出土遺物 (第3分冊 第58図12・13) 12は削器で、背面左側縁および上端、腹面右側縁に調整剥離が施される。13は有茎の石鏃で、基部を欠く。両面に入念な押圧剥離が施される。

RA102 竪穴住居跡 (第2分冊 第35図)

時期 不明 位置 L2区 平面形 不明 規模 不明
重複関係 不明 掘込面 削平 埋土 A～C層に大別され、いずれも炉埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 石囲炉 石囲部は円形を呈する。 出土遺物 なし

RA103 竪穴住居跡 (第2分冊 第35図)

時期 不明 位置 L2区 平面形 不明
規模 不明 重複関係 不明 掘込面 削平 埋土 A層は炉埋土である。

床面の状態 ほぼ平坦 石囲炉 石囲部は半円形を呈する。 出土遺物 なし

R A 1 0 4 竪穴住居跡 (第2分冊 第35図)

時 期 不明 位 置 L 2 区 平 面 形 不明 規 模 不明

重複関係 不明 掘込面 削平 埋 土 A・B層に大別され、ともに炉埋土である。

床面の状態 ほぼ平坦 複式炉 石囲部はI・IIの2段あり、石囲部Iに深鉢が埋設される(正位)。

出土遺物 (第3分冊 第58図14・15) 14・15ともに石囲炉Iに正位埋設されていた深鉢である。14の口縁部および体部下半は人為的に壊され、器面には隆線による横S字状文が施される。15は口縁部にかけて直線的に外傾する深鉢で、体部下半は人為的に壊される。器面には縦位の縄文を地文に、その上から横S字状に縄文を施す。

R A 1 0 5 竪穴住居跡 (第2分冊 第35図)

時 期 不明 位 置 L 2 区 平 面 形 不明

規 模 不明 重複関係 不明 掘込面 削平 埋 土 J層は炉埋土である。

床面の状態 ほぼ平坦 石囲炉 石囲部は方形を呈する。 出土遺物 図示していないが縄文土器小片が出土している。

R A 1 0 6 竪穴住居跡 (第2分冊 第35図)

時 期 大木10式併行期 位 置 L 2 区 平 面 形 不明

規 模 不明 重複関係 不明 掘込面 削平 埋 土 A層は炉埋土である。

床面の状態 ほぼ平坦 石囲炉 石囲部は形状不明であるが、南寄りに深鉢が埋設される(正位)。

出土遺物 (第3分冊 第59図1) 1は石囲炉に正位埋設されていた深鉢である。口縁部にかけて外傾する深鉢で、口縁部および体部下半は人為的に壊される。器面には沈線による横S字状文が描かれ、文様区画内には複節縄文が残される。

R A 1 0 7 竪穴住居跡 (第2分冊 第35図)

時 期 不明 位 置 L 2 区 平 面 形 不明

規 模 不明 重複関係 不明 掘込面 削平 埋 土 A層は炉埋土である。

床面の状態 ほぼ平坦 石囲炉 石囲部は半楕円形を呈し、深鉢が埋設される(正位)。

出土遺物 (第3分冊 第59図2) 2は石囲炉に正位埋設されていた深鉢である。口縁部および体部上半は人為的に壊され、器面には縦位の単節縄文が施される。

R A 1 0 8 竪穴住居跡 (第2分冊 第35図)

時 期 不明 位 置 L 2 区 平 面 形 不明 規 模 不明

重複関係 不明 掘込面 削平 埋 土 A層は炉埋土である。

床面の状態 ほぼ平坦 複式炉 石囲部はI・IIの2段あり、石囲部に接して浅い掘り込みがある。

出土遺物 図示していないが縄文土器小片が出土している。

RA109 竪穴住居跡 (第2分冊 第35図)

時期 大木10式併行期 位置 L2区 平面形 不明 規模 不明
重複関係 不明 掘込面 削平 埋土 A・C層に大別され、いずれも炉埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 複式炉 石囲部はI・IIの2段あり、石囲部Iに深鉢が埋設される(正位)。
石囲部に接して浅い掘り込みがある。

出土遺物(第3分冊 第59図3) 3は石囲炉Iに正位埋設されていた深鉢で、口縁部は人為的に壊される。器面には沈線による横S字状文が描かれ、地文には複節縄文が施される。

RA110 竪穴住居跡 (第2分冊 第35図)

時期 大木10式併行期 位置 L2区 平面形 不明 規模 不明
重複関係 不明 掘込面 削平 埋土 B・C層に大別され、いずれも炉埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 複式炉 石囲部はI・IIの2段あり、石囲部Iに深鉢が埋設される(正位)。
石囲部に接して浅い掘り込みがある。

出土遺物(第3分冊 第60図1) 1は石囲炉Iに正位埋設されていた深鉢である。口縁部にかけて外傾し、大波状口縁を呈する。器面には沈線による逆U字状文が施され、文様区画内には単節縄文が残される。

RA111 竪穴住居跡 (第2分冊 第35図)

時期 大木9式併行期 位置 L2区 平面形 不明
規模 不明 重複関係 不明 掘込面 削平
埋土 A・B層に大別される。A層は竪穴埋土、B層はピット埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 石囲炉 形状不明

出土遺物(第3分冊 第60図2・3) 2は波状口縁を呈する小形深鉢である。地文には縦位の単節縄文が施される。3は体部が屈曲し、注口をもつ小形深鉢である。体部上半に無文帯を設け、体部下半には隆沈線による懸垂文が描かれる。

RA112 竪穴住居跡 (第2分冊 第35図)

時期 不明 位置 L2区 平面形 不明 規模 不明
重複関係 不明 掘込面 削平 埋土 不明 床面の状態 ほぼ平坦
石囲炉 方形を呈する。 出土遺物 図示していないが縄文土器小片が出土している。

RA113 竪穴住居跡 (第2分冊 第36図)

時期 大木10式併行期 位置 L2区 平面形 不明
規模 不明 重複関係 不明 掘込面 削平
埋土 A～C層に大別される。A・B層は竪穴埋土、C層は炉埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 複式炉 石囲部はI・IIの2段あり、石囲部に接して浅い掘り込みがある。
出土遺物(第3分冊 第60図4～10) 4は口縁部にかけて内湾する小形深鉢である。地文には単節縄文が施される。5・6は沈線による楕円文・逆U字状文が描かれる深鉢体部片である。7は口縁部にかけて外反する器形の深鉢口縁部片で、器面には沈線による横S字状文が描かれる。8・

10は削器である。8は背面左側縁、10は腹面左側縁に調整剥離が施される。9は楔形石器で両面に調整剥離が施される。

R A 1 1 4 竪穴住居跡 (第2分冊 第36図)

時 期 不明 位 置 L 2 区 平 面 形 不明
規 模 不明 重 複 関 係 不明 掘 込 面 削平 埋 土 A層は炉埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 石 囲 炉 形状不明 出 土 遺 物 なし

R A 1 1 5 竪穴住居跡 (第2分冊 第36図)

時 期 不明 位 置 L 2 区 平 面 形 不明 規 模 不明
重 複 関 係 不明 掘 込 面 削平 埋 土 A層は炉埋土である。
石 囲 炉 円形を呈する。 出 土 遺 物 図示していないが縄文土器小片が出土している。

R A 1 1 6 竪穴住居跡 (第2分冊 第36図)

時 期 不明 位 置 L 2 区 平 面 形 不明
規 模 不明 重 複 関 係 不明 掘 込 面 削平 埋 土 A層は炉埋土である。
石 囲 炉 方形を呈する。 出 土 遺 物 図示していないが縄文土器小片が出土している。

R A 1 1 7 竪穴住居跡 (第2分冊 第36図)

時 期 大木10式併行期 位 置 L 2 区 平 面 形 不明
規 模 不明 重 複 関 係 不明 掘 込 面 削平 埋 土 不明
床面の状態 ほぼ平坦 石 囲 炉 石囲部は方形を呈し、深鉢が埋設される(正位)。
出 土 遺 物 (第3分冊 第61図1・2) 1は石囲炉に正位埋設された深鉢である。口縁部および体部下
半は人為的に壊される。器面には沈線による横S字状文が展開し、地文には縦位の単節縄文が施
される。2は沈線による区画文が描かれる深鉢体部片である。

R A 1 1 8 竪穴住居跡 (第2分冊 第36図)

時 期 不明 位 置 L 2 区 平 面 形 不明 規 模 不明
重 複 関 係 不明 掘 込 面 削平 埋 土 不明 石 囲 炉 石囲部は円形を呈する。
出 土 遺 物 (第3分冊 第61図3) 3は挟りのある削器で、背面周縁および腹面左側縁に調整剥離が施される。

R A 1 1 9 竪穴住居跡 (第2分冊 第36図)

時 期 不明 位 置 L 2 区 平 面 形 不明 規 模 不明
重 複 関 係 不明 掘 込 面 削平 埋 土 不明 石 囲 炉 石囲部は方形を呈する。
出 土 遺 物 なし

R A 1 2 0 竪穴住居跡 (第2分冊 第36図)

時 期 不明 位 置 L 2 区 平 面 形 不明 規 模 不明
重 複 関 係 不明 掘 込 面 削平 埋 土 不明 石 囲 炉 形状不明

出土遺物 なし

R A 1 2 1 竪穴住居跡 (第2分冊 第36図)

時 期 大木9式併行期 位 置 L2区 平 面 形 不明 規 模 不明

重複関係 不明 掘込面 削平 埋 土 不明 石 囲 炉 方形を呈する。

出土遺物 (第3分冊 第61図4・5) 4は隆沈線による渦巻文が描かれる深鉢口縁部片である。5は沈線による区画文が描かれる深鉢体部片である。

R A 1 2 2 竪穴住居跡 (第2分冊 第36図)

時 期 大木8b-3式併行期 位 置 L2区 平 面 形 不明 規 模 不明

重複関係 不明 掘込面 削平 埋 土 不明 石 囲 炉 楕円形を呈する。

出土遺物 (第3分冊 第61図6~12) 6~11は隆沈線による小渦巻文と懸垂文が連結して描かれる深鉢片で、6・8は波状口縁を呈する。12は口縁部にかけて内湾する浅鉢体部片で、口縁部文様帯には隆線による円文・楕円区画文が施文される。

R A 1 2 3 竪穴住居跡 (第2分冊 第36図)

時 期 大木9式?併行期 位 置 M1区 平 面 形 不明 規 模 不明

重複関係 不明 掘込面 削平 埋 土 A層は炉埋土である。複式炉 石囲部が削平される。

出土遺物 (第3分冊 第61図13・14) 13は口縁部が内湾する深鉢口縁部片で、口縁部下には1条の隆帯が施される。14は基部側面に孔を持つ斧状土製品で、全面に単節縄文が施される。

R A 1 2 4 竪穴住居跡 (第2分冊 第36図)

時 期 大木9式併行期 位 置 M1区 平 面 形 不明 規 模 不明

重複関係 不明 掘込面 削平 埋 土 A層は炉埋土である。石 囲 炉 形状不明

出土遺物 (第3分冊 第61図15) 15は沈線による区画文が描かれる深鉢体部片である。

R A 1 2 5 竪穴住居跡 (第2分冊 第36図)

時 期 大木9式併行期 位 置 M1区 平 面 形 不明

規 模 長軸・短軸不明、深さ0.03m 重複関係 不明 掘込面 削平

埋 土 A~C層に大別される。A層は炉埋土、B・C層はピット埋土である。

床面の状態 不明 複式炉 石囲部は方形を呈し、長軸約0.6mの掘り込みをもつ。

出土遺物 (第3分冊 第61図16) 16は口縁部が内湾し、波状口縁を呈する深鉢口縁部片である。器面には沈線による逆U字状文が描かれ、文様区画内には刺突文が施文される。

R A 1 2 6 竪穴住居跡 (第2分冊 第36図)

時 期 不明 位 置 M1区 平 面 形 不明 規 模 不明

重複関係 不明 掘込面 削平 埋 土 不明 石 囲 炉 形状不明

出土遺物 なし

R A 1 2 7 竪穴住居跡 (第2分冊 第36図)

時 期 大木9式併行期 位 置 L1区 平 面 形 不明 規 模 不明
重復関係 不明 掘 込 面 削平 埋 土 A層は炉埋土である。 床面の状態 不明
石 囲 炉 楕円形を呈する。
出土遺物 (第3分冊 第61図17・18) 17・18は沈線による楕円文・逆U字状文が描かれる深鉢片である。

R A 1 2 8 竪穴住居跡 (第2分冊 第37図)

時 期 大木10式併行期 位 置 L2・M2区 平 面 形 不明 規 模 不明
重復関係 不明 掘 込 面 削平 埋 土 A・B層に大別され、ともに炉埋土である。
床面の状態 不明 石 囲 炉 石囲部は楕円形を呈し、深鉢が埋設される (正位)。
出土遺物 (第3分冊 第62図1～3) 1は石囲炉に正位埋設された深鉢である。口縁部および体部下半は人為的に壊される。器面には連結しない横S字状文が施され、文様区画内には単節縄文が充填施文される。2・3は沈線による区画文が描かれる深鉢口縁部片である。

R A 1 2 9 竪穴住居跡 (第2分冊 第37図)

時 期 大木10式併行期 位 置 M2区 平 面 形 不明 規 模 不明
重復関係 不明 掘 込 面 削平 埋 土 A～C層に大別され、いずれも炉埋土である。
床面の状態 不明 複 式 炉 石囲部はI・IIの2段あり、石囲部Iに深鉢が埋設される (正位)。
石囲部に接して浅い掘り込みがある。
出土遺物 (第3分冊 第62図4) 4は石囲炉Iに正位埋設された深鉢である。体部下半は人為的に壊され、器面には縦位の単節縄文のみが施される。

R A 1 3 0 竪穴住居跡 (第2分冊 第37図)

時 期 不明 位 置 L2区 平 面 形 不明
規 模 不明 重復関係 不明 掘 込 面 削平 埋 土 不明
床面の状態 不明 石 囲 炉 石囲部は楕円形を呈する。 出土遺物 なし

R A 1 3 1 竪穴住居跡 (第2分冊 第37図)

時 期 大木9式併行期 位 置 L2区 平 面 形 不明
規 模 不明 重復関係 不明 掘 込 面 削平 埋 土 A層は炉埋土である。
床面の状態 不明 石 囲 炉 石囲部は円形を呈する。
出土遺物 (第3分冊 第62図5) 5は隆沈線による渦巻文と懸垂文が連結して描かれる深鉢体部片である。

R A 1 3 2 竪穴住居跡 (第2分冊 第37図)

時 期 不明 位 置 L2区 平 面 形 不明 規 模 不明
重復関係 不明 掘 込 面 削平 埋 土 A層は炉埋土である。
床面の状態 不明 石 囲 炉 石囲部は円形を呈する。 出土遺物 図示していないが縄文土器小片が出土している。

RA133 竪穴住居跡 (第2分冊 第37図)

時期 大木9式併行期 位置 L2区 平面形 不明
規模 不明 重複関係 不明 掘込面 削平 埋土 不明
床面の状態 不明 石囲炉 石囲部は楕円形を呈する。

出土遺物 (第3分冊 第62図6~8) 6~8は沈線による逆U字状文が描かれる深鉢口縁部片である。
6は橋状把手をもち、7・8は波状口縁を呈する。

RA134 竪穴住居跡 (第2分冊 第37図)

時期 不明 位置 L2区 平面形 不明 規模 不明
重複関係 不明 掘込面 削平 埋土 不明 床面の状態 不明
石囲炉 石囲部は楕円形を呈する。 出土遺物 図示していないが縄文土器小片が出土している。

RA135 竪穴住居跡 (第2分冊 第37図)

時期 不明 位置 L2区 平面形 不明 規模 不明
重複関係 不明 掘込面 削平 埋土 A層は炉埋土である。
床面の状態 不明 複式炉 石囲部はI・IIの2段あり、石囲部に接して浅い掘り込みがある。
出土遺物 図示していないが縄文土器小片が出土している。

RA136 竪穴住居跡 (第2分冊 第37図)

時期 大木9式併行期 位置 L2区 平面形 不明 規模 不明
重複関係 不明 掘込面 削平 埋土 A~C層に大別され、いずれも炉埋土である。
床面の状態 不明 複式炉 石囲部はI・IIの2段あり、石囲部に接して浅い掘り込みがある。
出土遺物 (第3分冊 第62図9・10) 9・10は逆U字状文が描かれる深鉢片で、9は波状口縁を呈する。

RA137 竪穴住居跡 (第2分冊 第37図)

時期 大木9式併行期 位置 L2区 平面形 不明
規模 不明 重複関係 不明 掘込面 削平 埋土 A層は炉埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 複式炉 石囲部はI・IIの2段あり、石囲部に接して浅い掘り込みがある。
出土遺物 (第3分冊 第62図11~13) 11~13は渦巻文と懸垂文が連結して描かれる深鉢片である。

RA138 竪穴住居跡 (第2分冊 第37図)

時期 不明 位置 L2区 平面形 不明 規模 不明
重複関係 不明 掘込面 削平 埋土 A・B層に大別され、ともに炉埋土である。
床面の状態 不明 石囲炉 形状不明 出土遺物 図示していないが縄文土器小片が出土している。

RA139 竪穴住居跡 (第2分冊 第37図)

時期 不明 位置 L2区 平面形 不明 規模 不明
重複関係 不明 掘込面 削平 埋土 A層は炉埋土である。 床面の状態 不明

石 罎 炉 形状不明 出土遺物 図示していないが縄文土器小片が出土している。

R A 1 4 0 竪穴住居跡 (第2分冊 第37図)

時 期 不明 位 置 L 2 区 平 面 形 不明 規 模 不明
重複関係 不明 掘 込 面 削平 埋 土 A層は炉埋土である。 床面の状態 不明
石 罎 炉 石罎部は方形を呈する。 出土遺物 図示していないが縄文土器小片が出土している。

R A 1 4 1 竪穴住居跡 (第2分冊 第37図)

時 期 不明 位 置 L 2 区 平 面 形 不明 規 模 不明
重複関係 不明 掘 込 面 削平 埋 土 不明 石 罎 炉 形状不明
出土遺物 図示していないが縄文土器小片が出土している。

R A 1 4 2 竪穴住居跡 (第2分冊 第38図)

時 期 不明 位 置 M 2 区 平 面 形 不明 規 模 不明
重複関係 R A 146に切られ、R A 149を切る。 掘 込 面 削平
埋 土 A・B層に大別され、ともに竪穴埋土である。 炉 不明
出土遺物 図示していないが縄文土器小片が出土している。

R A 1 4 3 竪穴住居跡 (第2分冊 第38図)

時 期 不明 位 置 M 2 区 平 面 形 不明 規 模 不明
重複関係 不明 掘 込 面 削平 埋 土 A層は竪穴埋土である。 炉 不明
出土遺物 図示していないが縄文土器小片が出土している。

R A 1 4 4 竪穴住居跡 (第2分冊 第38図)

時 期 不明 位 置 M 2 区 平 面 形 不明 規 模 不明
重複関係 R A 142・146に切られ、R A 147を切る。 掘 込 面 削平
埋 土 C層は竪穴埋土である。 炉 不明 出土遺物 図示していないが縄文土器小片が
出土している。

R A 1 4 5 竪穴住居跡 (第2分冊 第38図)

時 期 大木8b-3式併行期 位 置 M 2 区 平 面 形 不明 規 模 不明
重複関係 R D 299を切り、R A 146・147に切られる。 掘 込 面 削平
埋 土 A・B層に大別され、ともに竪穴埋土である。 炉 不明
出土遺物 (第3分冊 第63図1) 1は体部上半を欠く深鉢で、体部に屈曲をもつ。器面には隆沈線による渦巻文と懸垂文が連結して描かれ、地文には縦位の単節縄文が施される。

R A 1 4 6 竪穴住居跡 (第2分冊 第38図)

時 期 大木8b-3式併行期 位 置 M 2 区 平 面 形 不明 規 模 不明
重複関係 R A 142・144・145・R D 299を切る。 掘 込 面 削平

埋 土 A～E層に大別される。A～C層は竪穴埋土、D・E層はピット埋土である。

床面の状態 ほぼ平坦 炉 不明

出土遺物(第3分冊 第63図2) 2は口縁部が内湾する深鉢で、体部下半を欠く。口縁部は平坦に調整され、口縁部下には1条の刺突列が施される。体部上半には隆沈線による大渦巻文を中心に小渦巻文が連結して描かれ、下半には上部文様帯から垂下する懸垂文が施される。地文には複節縄文が縦位に施文される。

RA147 竪穴住居跡(第2分冊 第38図)

時 期 不明 位 置 M2区 平面形 不明 規 模 不明

重複関係 RA144に切られ、RA145を切る。 掘込面 削平

埋 土 A・B層に大別され、ともに竪穴埋土である。

床面の状態 ほぼ平坦 炉 不明 出土遺物 図示していないが縄文土器小片が出土している。

RA148 竪穴住居跡(第2分冊 第38図)

時 期 不明 位 置 M2区 平面形 不明 規 模 不明

重複関係 不明 掘込面 削平 埋 土 不明 床面の状態 ほぼ平坦

石 囲 炉 不明 出土遺物 図示していないが縄文土器小片が出土している。

RA149 竪穴住居跡(第2分冊 第38図)

時 期 不明 位 置 M2区 平面形 不明 規 模 不明

重複関係 RA142・146に切られる。 掘込面 削平

埋 土 A・B層に大別され、ともに竪穴埋土である。 石 囲 炉 不明

出土遺物 図示していないが縄文土器小片が出土している。

RA150 竪穴住居跡(第2分冊 第39図)

時 期 大木8b-3式併行期 位 置 L2区 平面形 不明

規 模 長軸・短軸不明、深さ0.13m 重複関係 不明 掘込面 削平

埋 土 A～C層に大別される。A・B層は竪穴埋土、C層はピット埋土である。

床面の状態 ほぼ平坦 石 囲 炉 石囲部は円形を呈する。

出土遺物(第3分冊 第63図3) 3は隆沈線による渦巻文と懸垂文が連結して施される深鉢体部片である。

RA151 竪穴住居跡(第2分冊 第39図)

時 期 大木9式併行期 位 置 M2区 平面形 不明

規 模 長軸・短軸不明、深さ0.02m 重複関係 不明 掘込面 削平

埋 土 A～C層に大別される。A層は竪穴埋土、B・C層はピット埋土である。

床面の状態 ほぼ平坦 石 囲 炉 不明

出土遺物(第3分冊 第63図5) 5は口縁部が波状を呈する深鉢口縁部片で、波頂部には孔が施される。口縁部下には1条の刺突列が施され、体部には隆沈線による円文と懸垂文が連結して描かれる。

R A 1 5 2 竪穴住居跡 (第2分冊 第40図)

時 期 大木10式併行期 **位 置** M2区 **平面形** 楕円形
規 模 長軸4.85m以上・短軸3.50m以上、深さ0.31m **重複関係** R A 153・154を切る。
掘込面 削平 **埋 土** A～E層に大別される。A～C層は竪穴埋土、D・E層はピット埋土である。

床面の状態 ほぼ平坦 **複式炉** 石囲部はⅠ・Ⅱの2段あり、石囲部Ⅰに深鉢が埋設される(正位)。石囲部に接して浅い掘り込みがある。

出土遺物 (第3分冊 第64図1～5) 1は石囲炉Ⅰに正位埋設された深鉢である。口縁部は人為的に壊され、器面には単節縄文のみが縦位に施される。2は体部が丸みをもって内湾する小形深鉢である。器面には3条1組の平行沈線と円文が連結して描かれ、地文には無節縄文が施される。3・4は沈線による横S字状文が施される深鉢口縁部片で、波状口縁を呈する。5は沈線による区画文が描かれる深鉢体部片である。

R A 1 5 3 竪穴住居跡 (第2分冊 第41図)

時 期 大木8b-3式併行期 **位 置** M2区 **平面形** 楕円形
規 模 長軸4.40m以上・短軸2.62m以上、深さ0.59m **重複関係** R A 152に切られ、R A 154を切る。

埋 土 A～G層に大別される。A～C層は竪穴埋土、D・E層は周溝、F・G層はピット埋土である。

掘込面 削平 **床面の状態** ほぼ平坦 **炉** 不明

伏 甕 中心部付近の床面下より伏甕(第66図1)が1個体検出された。床面伏甕の底部穿孔部上には板状の炭化材があり、炭化材下から底部穿孔部まで空洞が認められ、伏甕内部もわずかに穿孔部より流入した土が観察されただけでは空洞である。掘方埋土F層とした土層は他の柱穴でも掘方の埋土として確認されており、人為による埋土である。なお、炭化材については平成12年12月に発生した火災により罹災した。

出土遺物 (第3分冊 第66図1～第67図12) 1は伏甕に転用された深鉢である。波状口縁を呈し、波頂部には孔が施される。器面には隆沈線による大渦巻文を中心に小渦巻文・懸垂文が連結して描かれ、地文に単節縄文が縦位に施される。2は口縁部が外反し、大波状口縁を呈する小形深鉢である。隆沈線による小渦巻文と懸垂文が連結して描かれ、地文には複節縄文が横位に施される。3～8は隆沈線による渦巻文と懸垂文が連結して描かれる深鉢口縁部片である。3・6・8は波状口縁を呈し、3・6の波頂部には渦巻文が施される。9は波状口縁を呈し、波頂部下に把手をもつ小形深鉢である。地文には単節縄文が縦位に施される。10は刺突文が施される土製円盤である。11は刃部欠損の斧状土製品で、基部側面に孔をもつ。沈線による楕円文が描かれ、文様区画内には単節縄文が充填施文される。12は住居東辺の床面より出土した石棒である。

R A 1 5 4 竪穴住居跡 (第2分冊 第38図)

時 期 大木8b-3式併行期 **位 置** M2区 **平面形** 楕円形

規 模 長軸6.84m以上・短軸2.46m以上、深さ0.14m

重複関係 R A 152・153・155、R D 300・302に切られ、R D 301・303を切る。

埋 土 A～C層に大別される。A・B層は竪穴埋土、C層は周溝・ピット埋土である。

掘込面 削平 床面の状態 ほぼ平坦 炉 不明

出土遺物(第3分冊 第68図1～8) 1～4は口縁部がラッパ状に開く小形深鉢である。波状口縁を呈し、1の波頂部には孔が施される。器面には隆沈線による小渦巻文と懸垂文が連結して施される。5～7は隆沈線による大渦巻文を中心に小渦巻文・懸垂文が連結して描かれる深鉢片である。5は波状口縁の波頂部に孔が施される。8は深鉢の土器片を剥離加工した土製円盤である。

RA155 竪穴住居跡(第2分冊 第42図)

時期 大木10式併行期 位置 M2区 平面形 楕円形

規模 長軸5.80m以上・短軸5.96m以上、深さ0.26m

重複関係 RA154・156・157を切る。 掘込面 削平

埋土 A～G層に大別される。A～C層は竪穴埋土、D層は周溝、E～G層は炉・ピット埋土である。

床面の状態 ほぼ平坦 複式炉 石囲部はI・IIの2段あり、石囲部Iに深鉢が埋設される(正位)。石囲部に接して浅い掘り込みがある。

出土遺物(第3分冊 第69図1～第70図18) 1は石囲部Iに正位埋設された深鉢である。口縁部と体部下半は人為的に壊され、器面には複節縄文のみが縦位に施される。2はC字状文が施される深鉢で、地文には単節縄文が縦位に施される。3・4・7～9は沈線による横S字状文が描かれる深鉢片である。5・6は沈線による逆U字状文が描かれる深鉢口縁部片で、文様区画内には刺突文が施される。10・11は斧状土製品で、全面に単節縄文が施される。10は基部欠損、11は刃部欠損で、基部に孔が施される。12・13はミニチュア土器である。14は土製円盤である。15・16は磨製石斧である。15は刃部欠損で、表面に2条のくっきりした稜線が見られる。16は全面に敲打痕が、体部に衝撃剥離が見られる。17は石棒である。18は角皿状に整形された脚付石皿の一部である。表裏面ともに使用されており条痕が見られる。

RA156 竪穴住居跡(第2分冊 第42図)

時期 大木8b-3式併行期 位置 M2区 平面形 不明

規模 長軸4.31m・短軸不明、深さ0.03m 重複関係 RA155切られる。

掘込面 削平 埋土 A・B層に大別される。A層は竪穴埋土、B層はピット埋土である。

床面の状態 ほぼ平坦 石囲炉 円形?

出土遺物(第3分冊 第71図1) 1は口縁部に段をもつ深鉢である。波状口縁を呈し、器面には隆沈線による大渦巻文を中心に有棘渦巻文を連結して描き、下半には大渦巻文から垂下する懸垂文が施される。地文には複節縄文が縦位に施文される。

RA157 竪穴住居跡(第2分冊 第43図)

時期 大木8b-3式併行期 位置 M2区 平面形 不明

規模 長軸不明・短軸0.62m以上、深さ0.18m 重複関係 RA155に切られる。

掘込面 削平 埋土 A～C層に大別される。A・B層は竪穴埋土、C層はピット埋土である。

床面の状態 ほぼ平坦 石囲炉 不明

出土遺物(第3分冊 第71図2～4) 2・4は隆沈線による渦巻文と懸垂文が連結して描かれる深鉢口縁部片である。3は体部上半を欠く深鉢で、器面には結束のある単節斜縄文のみが縦位に施される。

R A 1 5 8 竪穴住居跡 (第2分冊 第44図)

時 期 大木9式併行期 **位 置** M2区 **平面形** 楕円形
規 模 長軸3.66m以上・短軸3.59m、深さ0.36m
重複関係 R A 159・162を切る。 **掘込面** 削平
埋 土 A～D層に大別される。A～D層は竪穴埋土、D層はピット埋土である。

床面の状態 ほぼ平坦。部分的に床構築土（貼床）が認められる。 **石 囲 炉** 方形？

出土遺物 (第3分冊 第72図1～9) 1・4は沈線による楕円文・逆U字状文が描かれる小形深鉢である。文様区画内には地文の単節縄文が残る。2は隆沈線による渦巻文と懸垂文が連結して描かれる深鉢口縁部片で、波状口縁を呈する。3は波状口縁を呈する小形深鉢で、波頂下と体部の小渦巻文が連結して描かれる。地文には複節縄文が縦位に施される。5は地文に単節縄文が施される小形浅鉢である。6～8は沈線による逆U字状文が描かれる深鉢片である。9は体部下半欠損の深鉢で、器面には地文のみが施される。

R A 1 5 9 竪穴住居跡 (第2分冊 第44図)

時 期 大木8b-3式併行期 **位 置** M2区 **平面形** 楕円形？
規 模 長軸6.70m以上・短軸1.92m、深さ0.42m
重複関係 R A 158・160・161に切られる。 **掘込面** 削平
埋 土 A～D層に大別される。A・B層は竪穴埋土、C層は周溝埋土、D層はピット埋土である。

床面の状態 ほぼ平坦

出土遺物 (第3分冊 第73図1～9) 1は体部下半欠損のキャリパー形深鉢である。口縁部文様帯には隆沈線による渦巻文と楕円文が横位に連結して描かれる。頸部の無文帯を挟み体部には大渦巻文を中心に小渦巻文・楕円文が連結して描かれ、地文には複節縄文が縦位に施される。2～4は口縁部がラップ状に開く小形深鉢で、器面には隆沈線による渦巻文と懸垂文が連結して描かれる。5・6は口縁部が内湾する深鉢口縁部片で、口縁部文様帯には隆沈線による渦巻文・円文・楕円文が連結して横位に施される。6の文様区画内には刺突文が充填施文される。7・8は隆沈線による渦巻文と懸垂文が連結して描かれる深鉢体部片である。9は体部下半欠損の深鉢で、波状口縁を呈する。器面には隆沈線による渦巻文と懸垂文が施され、地文には複節縄文が縦位に施文される。

R A 1 6 0 竪穴住居跡 (第2分冊 第45図)

時 期 大木9式併行期 **位 置** M2区 **平面形** 楕円形？
規 模 長軸2.09m以上・短軸2.50m、深さ0.36m
重複関係 R A 165に切られ、R A 159・161・162を切る。 **掘込面** 削平
埋 土 A～D層に大別される。A～C層は竪穴埋土、D層はピット埋土である。

床面の状態 ほぼ平坦 **石 囲 炉** 中央部付近より南寄りに構築される。石組部は楕円形を呈する。

出土遺物 (第3分冊 第74図1～10) 1は隆沈線による有棘渦巻文と懸垂文が連結して描かれる深鉢口縁部片である。2・4・5・7は沈線による楕円文・逆U字状文が描かれる深鉢である。2は地文に複節縄文が縦位に施され、4・5の文様区画内には単節縄文が、7には複節縄文が施文される。3は肩部に橋状の把手をもつ壺形土器である。器面には隆沈線による渦巻文と懸垂文が

連結して描かれ、地文には単節縄文が縦位に施される。6・9・10は沈線による渦巻文・楕円文・逆U字状文が描かれる深鉢片である。8・9は隆沈線による渦巻文と懸垂文が連結して描かれる深鉢体部片で、波状口縁を呈する。

R A 1 6 1 竪穴住居跡（第2分冊 第45図）

時 期 不明 位 置 M2区 平面形 不明 規 模 不明
 重複関係 R A 160に切られる。 掘込面 削平 埋 土 不明
 床面の状態 ほぼ平坦 炉 不明 出土遺物 なし

R A 1 6 2 竪穴住居跡（第2分冊 第46図）

時 期 大木8b-2式併行期 位 置 M2区 平面形 楕円形
 規 模 長軸8.28m・短軸6.94m以上、深さ0.38m 重複関係 R A 158~160・164・169・170に切られる。

埋 土 A~F層に大別される。A~C層は竪穴埋土、D層は周溝埋土、E・F層はピット埋土である。

掘込面 削平 床面の状態 ほぼ平坦。部分的に床構築土（貼床）が認められる。

石 囲 炉 中央部付近より東寄りに構築される。石組部は方形を呈する。

伏 甕 中心部付近の床面下より伏甕1~4が検出された。伏甕1~3は貼床下から伏甕の底部穿孔部まで空洞が認められ、伏甕4は穿孔部まで土が流入していた。伏甕内部は穿孔部より流入したE・F層が観察されたほかは空洞であった。伏甕埋土E・F層は炭化物片を含む暗褐色・黒褐色土の混合土で、軟らかく締まりのない土である。伏甕1~3は埋設面が貼床土によって覆われていたことから住居建設時・建替の際に埋設した可能性がある。しかし、床面と底部穿孔部まで孔が通された状態であるため、完全に伏甕と生活空間が遮断されたものではないと考えられる。

出土遺物（第3分冊 第75図1~第81図24） 1~3・5は伏甕に転用された深鉢である。1は波状口縁を呈する深鉢で、波頂部には渦巻文が施される。体部上半には隆沈線による大渦巻文を中心に有棘渦巻文が連結して施され、下半には上部文様帯から垂下する懸垂文が描かれる。地文には複節縄文が縦位に施文される。2は口縁部下に1条の隆帯が円文と連結して施される深鉢で、地文には単節縄文が縦位に施文される。3は大形のキャリパー形深鉢で、口縁部文様帯には隆沈線による有棘渦巻文と渦巻文を配した波状文が連結して横位に施される。体部器面は小渦巻文を起点とする懸垂文により大きく4単位に分割される。分割されたキャンパス内には大渦巻文を中心とする文様が大胆に描かれるが、各キャンパスで描かれる文様展開は異なる。5は波状口縁を呈する深鉢で、波頂部には孔が施される。体部上半には有棘大渦巻文を中心に渦巻文が連結して展開し、下半には上部文様帯から垂下する懸垂文・波状文が描かれる。地文には複節縄文が縦位に施される。6・8・15~18は口縁部がラッパ状に開く小形深鉢で、16以外は2単位の波状口縁を呈する。6・15・16・18は平行沈線による渦巻文・懸垂文、8・17は隆沈線による渦巻文・懸垂文が施される。7・10・13・19~22は隆沈線による渦巻文と懸垂文が連結して描かれる深鉢片である。9は壺形深鉢の体部片である。肩部に無文帯を持ち、体部には隆沈線による渦巻文と懸垂文が連結して施される。11はキャリパー形深鉢の体部片である。器面には渦巻文と懸垂文が連結して描かれ、地文には複節縄文が施文される。12・14は平行沈線に

よる区画文が描かれる深鉢体部片である。17は波状口縁を呈する小形深鉢で、器面には隆沈線による渦巻文と懸垂文が連結して描かれる。地文には単節縄文が縦位に施される。16は4単位の波状口縁を呈する深鉢である。器面には沈線による有棘渦巻文と懸垂文が連結して描かれ、地文には単節縄文が横位に施される。23・24はミニチュア土器である。

RA163 竪穴住居跡 (第2分冊 第43図)

時期 大木8b-3～大木9式併行期 **位置** M2区 **平面形** 不明
規模 長軸・短軸不明、深さ0.12m **重複関係** RA162・163を切る。
掘込面 削平 **埋土** 表土下より炉跡が検出され、床面は耕作土と接する。A層は炉埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦であるが耕作による攪乱で凹凸が多い。 **石囲炉** 形状不明
遺物の出土状況 床面・炉跡検出時において第82図1～5の土器が出土した。埋土が薄いため多くが床面遺物であることが考えられた。
出土遺物 (第3分冊 第82図1～5) 1・2は口縁部がラップ状に広がる深鉢である。口縁部は大波状を呈し、頸部から下位に隆沈線による渦巻文と懸垂文が連結して描かれる。3・4は隆沈線による文様が描かれる深鉢口縁部片である。4は波状口縁を呈し、波頂部には渦巻文が施される。5は口縁部がやや内湾する深鉢で、2単位の波状口縁を持つ。口縁下に小渦巻文を配し、小渦巻文より懸垂文が連結して描かれ、地文には複節縄文が縦位に施文される。

RA164 竪穴住居跡 (第2分冊 第43図)

時期 不明 **位置** M2区 **平面形** 不明 **規模** 長軸不明・短軸3.91m
以上、深さ0.09m **重複関係** RA163に切られ、RA162を切る。 **掘込面** 削平
埋土 A・B層に大別され、A層は2層に細別される。 **床面の状態** ほぼ平坦
石囲炉 中央部付近より南寄りに構築される。石組部は方形を呈する。
出土遺物 (第3分冊 第82図6) 6は地文に単節縄文が施される小形浅鉢である。

RA165 竪穴住居跡 (第2分冊 第45図)

時期 大木9式併行期 **位置** M2区 **平面形** 不整楕円形?
規模 長軸4.00以上・短軸不明、深さ0.22m **重複関係** RA160・166に切られる。
掘込面 削平
埋土 A～G層に大別される。A～C層は竪穴埋土でA・C層は各2層に細別される。E層は周溝埋土、F・G層はピット埋土である。 **掘込面** 削平 **床面の状態** ほぼ平坦
石囲炉 中央部付近より南寄りに構築される。石組部は方形を呈する。
出土遺物 (第3分冊 第82図7～13) 7は円文・逆U字状文が描かれる深鉢で、地文には複節縄文が縦位に施文される。8・9は地文に単節縄文のみが縦位に施される壺形を呈した土器である。10～12は沈線による区画文が描かれる深鉢片である。13は口縁部下に1条の隆帯が施され、地文には縦位の櫛目文が密に施文される。

RA166 竪穴住居跡 (第2分冊 第45図)

時期 大木8b-3式併行期 **位置** M2区 **平面形** 不明

規 模 不明 重複関係 RA165を切る。 掘込面 削平 埋 土 不明

床面の状態 ほぼ平坦 炉 不明

出土遺物(第3分冊 第83図1) 1は隆沈線による渦巻文と懸垂文が連結して描かれる深鉢体部片である。

RA167 竪穴住居跡(第2分冊 第45図)

時 期 不明 位 置 M2区 平 面 形 不明

規 模 不明 重複関係 不明 掘込面 削平 埋 土 不明

床面の状態 ほぼ平坦 炉 不明 出土遺物 図示していないが縄文土器小片が出土している。

RA168 竪穴住居跡(第2分冊 第47図)

時 期 大木8b-3~9式?併行期 位 置 M2区 平 面 形 不整楕円形?

規 模 長軸4.99m・短軸2.98m以上、深さ0.42m 重複関係 RA176を切る。

掘込面 削平 埋 土 A~D層に大別される。A層は2層、B層は3層~C層は7層に細別される。A~C3層は竪穴埋土、C4~D層はピット埋土である。 床面の状態 ほぼ平坦

複式炉 中央部付近より西寄りに構築され、西壁に接する浅い掘り込みがある。

出土遺物(第3分冊 第83図2~5) 2~5は隆沈線による渦巻文と懸垂文が連結して描かれる深鉢片である。3・4は波状口縁を呈する。

RA169 竪穴住居跡(第2分冊 第48図)

時 期 大木9式併行期 位 置 M2区 平 面 形 不整円形?

規 模 長軸4.60m以上・短軸4.17m、深さ0.21m 重複関係 RA162・170を切る。

掘込面 削平 埋 土 A~E層に大別され、A・B層は2層に細別される。D・E層はピット埋土である。 床面の状態 ほぼ平坦 複式炉 石囲部は方形を呈し、北西壁に接する浅い掘り込みがある。

出土遺物(第3分冊 第83図6~第84図15) 6は隆線による蕨手文と逆U字状文が描かれる深鉢口縁部片である。地文は縦位の単節縄文が施される。7は沈線による楕円文・逆U字状文が描かれる深鉢で、波状口縁を呈する。地文は複節縄文が縦位に施されるものである。8は沈線による横S字状文が描かれる深鉢体部片である。9は口頸部が窄まり、口縁部が無文帯となる深鉢である。体部には隆沈線による逆U字状文が施され、地文には縦位の単節縄文が施される。10は口縁部、体部下半に対となる把手状の突起を持つ小形壺形土器で、器面には沈線による楕円区画文が描かれる。11は肩部に把手状の突起を持つ小形壺形土器で、器面には沈線による楕円・円・C字状の区画文が描かれる。12は波状口縁を呈する深鉢で、波頂部には渦巻文が施される。器面には隆沈線による渦巻文と懸垂文が連結して描かれ、地文は複節縄文が縦位に施される。13は沈線による逆U字状文が描かれる深鉢口縁部片で、文様区画内には刺突列が施される。14は隆沈線による渦巻文・区画紋が描かれる深鉢体部片である。15は削器で、腹面右側縁に調整剥離が施される。

RA170 竪穴住居跡(第2分冊 第48図)

時 期 大木8b-3式併行期 位 置 M2区 平 面 形 不整円形?

規 模 長軸1.99m以上・短軸4.18m、深さ0.18m **重複関係** R A169に切られる。
埋 土 A～E層に大別される。A・B層は竪穴埋土、C層は周溝埋土、D・E層はピット埋土である。
掘込面 削平 **床面の状態** ほぼ平坦 **炉** 不明
出土遺物 (第3分冊 第85図1～8) 1は口縁部がラッパ状に開く小形深鉢で、波状口縁を呈する。器面には沈線による渦巻文と懸垂文が連結して描かれ、地文には単節縄文が縦位に施される。2～7は隆沈線による渦巻文・楕円文が懸垂文と連結して描かれる深鉢口縁部片である。8は基部欠損の斧状土製品である。

R A 1 7 1 竪穴住居跡 (第2分冊 第49図)

時 期 大木8b-3式併行期 **位 置** M2区 **平面形** 不明
規 模 長軸不明・短軸1.60m、深さ0.09m
重複関係 R A170・172・174に切られる。 **掘込面** 削平 **埋 土** 不明
床面の状態 ほぼ平坦 **炉** 不明
出土遺物 (第3分冊 第85図9) 9は口縁部がラッパ状に開く小形深鉢で、波状口縁を呈する。器面には隆沈線による小渦巻文と懸垂文が連結して描かれ、一部の沈線上には刺突文が施される。地文には単節縄文が縦位に施文される。

R A 1 7 2 竪穴住居跡 (第2分冊 第49図)

時 期 大木8b-3式併行期 **位 置** M2区 **平面形** 不整楕円形
規 模 長軸4.02m・短軸3.49m、深さ0.42m
重複関係 R A170・177・178に切られ、R A174を切る。 **掘込面** 削平
埋 土 A～E層に大別される。A～C層は竪穴埋土、D・E層はピット埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 **石 囲 炉** 中央部付近より西寄りに構築される。石組部は円形を呈する。
出土遺物 (第3分冊 第85図10～第86図25) 10～14は口縁部がラッパ状に開く小形深鉢である。10～12は沈線による渦巻文と懸垂文が連結して描かれる。13は隆沈線による渦巻文と懸垂文が連結して描かれ、地文には複節縄文が縦位に施される。14は複節縄文のみが縦位に施文される。15は体部が屈曲する深鉢で、隆沈線による渦巻文と懸垂文が連結して描かれる。16～19・22・23は隆沈線による渦巻文・楕円文が懸垂文と連結して描かれる深鉢片である。18・19・23は波状口縁を呈し、18は波頂部に孔が施される。20・21は同一個体の深鉢口縁部片で、口縁部下には刺突文が施される。24は基部欠損の斧状土製品である。25は有孔土製品で、表裏側面に沈線文が施される。

R A 1 7 3 竪穴住居跡 (第2分冊 第49図)

時 期 大木8b-3式併行期 **位 置** M2区 **平面形** 不明
規 模 長軸・短軸不明、深さ0.17m **重複関係** R A172に切られる。
掘込面 削平 **埋 土** A～C層に大別される。A層は竪穴埋土、B・C層はピット埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 **炉** 不明
出土遺物 (第3分冊 第87図1・2) 1・2は隆沈線による渦巻文と懸垂文が連結して描かれる深鉢片である。

RA174 竪穴住居跡 (第2分冊 第50図)

時期 大木8b式併行期 **位置** M2区 **平面形** 不整楕円形
規模 長軸5.82m・短軸5.02m、深さ0.43m
重複関係 RA171・172・175に切られる。 **掘込面** 削平
埋土 A～F層に大別される。A～C層は竪穴埋土、D層は周溝埋土、E・F層はピット埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 **石囲炉** 中央部付近より西寄りに構築される。石組部は楕円形を呈する。
出土遺物 (第3分冊 第87図3～9) 3は体部下半に最大径を持つ小形深鉢である。器面には隆沈線による小渦巻文と懸垂文が連結して描かれる。4は口縁部がラッパ状に開く小形深鉢で、波状口縁を呈する。沈線による懸垂文・波状文が描かれ、地文は単節縄文が縦位に施される。5は口縁部に文様帯を持つ浅鉢で、隆沈線による渦巻文が連結して描かれ、地文には複節縄文が横位に施される。6は波状口縁を呈する深鉢で、波頂部には渦巻文が施される。体部には隆沈線による有棘渦巻文・波状文・懸垂文が連結して描かれ、地文には単節縄文が施される。7は波状口縁を呈する小形深鉢で、地文には複節縄文が縦位に施される。8は隆沈線による渦巻文と懸垂文が連結して描かれる深鉢口縁部片である。9は管状の土製品で、長軸側に貫通孔を持つ。

RA175 竪穴住居跡 (第2分冊 第50図)

時期 大木8b式併行期 **位置** M2区 **平面形** 不整円形
規模 長軸2.84m・短軸2.46m、深さ0.17m **重複関係** RA174を切る。
掘込面 削平 **埋土** A・B層に大別される。A層は竪穴埋土、B層は周溝埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 **炉** 不明
出土遺物 (第3分冊 第87図10～12) 10は波状口縁を呈する小形深鉢で、口縁部下には1条の刺突列が施される。器面には隆沈線による渦巻文と懸垂文が連結して描かれ、地文には無節縄文が縦位に施される。11は体部下半が欠損する小形深鉢で、口縁部は波状を呈する。体部には沈線による渦巻文と懸垂文が連結して描かれ、地文は単節縄文が縦位に施される。12は三角形土製品である。湾曲した表面には、各辺および中央に刺突文が施され、地文には単節縄文が施文される。

RA176 竪穴住居跡 (第2分冊 第51図)

時期 大木8b式併行期 **位置** M2区 **平面形** 不明
規模 長軸2.50m以上・短軸1.42m以上、深さ0.27m
重複関係 RA177を切る。 **掘込面** 削平
埋土 A・B層に大別される。A層は竪穴埋土、B層はピット埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 **炉** 不明
出土遺物 (第3分冊 第87図13) 13は波状口縁を呈する深鉢体部片で、隆沈線による渦巻文と懸垂文が連結して描かれる。

RA177 竪穴住居跡 (第2分冊 第51図)

時期 大木9式併行期 **位置** M2区 **平面形** 不整楕円形
規模 長軸6.10m以上・短軸3.82m、深さ0.35m
重複関係 RA176・178・185に切られ、RA172を切る。 **掘込面** 削平

埋 土 A～E層に大別される。A・B層は竪穴埋土、C層は周溝埋土、D・E層はピット埋土である。

床面の状態 ほぼ平坦 **石 囲 炉** 中央部付近より北西寄りに構築される。石組部は円形を呈する。

出土遺物 (第3分冊 第88図1～第89図15) 1は波状口縁を呈する深鉢で、器面には隆沈線によるy字状の文様が渦巻文を連結点として描かれる。地文は単節縄文が縦位に施される。2は対となる大波状口縁を持つ小形深鉢である。体部には沈線による逆U字状文が描かれる。3は屈曲部に把手状の突起を持つ小形深鉢で、小渦巻文を連結点とする楕円区画文が描かれる。4は口縁部がやや内湾する小形深鉢で、沈線によるh字状の文様が施される。5は口縁部が内湾する深鉢で波頂部に小渦巻文が配され、体部に大渦巻文を連結点とする楕円区画文が器面全体に描かれる。6・8は隆沈線による渦巻文と懸垂文が連結して描かれる深鉢体部片である。7は口縁部が内湾し、波状を呈する深鉢である。器面には大渦巻文を連結点とした文様が展開する。9・10は口縁部が内湾する深鉢口縁部片である。9は沈線による区画文が描かれ、10は隆沈線による弧状文が施され弧状文の両端には小渦巻文と懸垂文が付加される。11～13は地文に撚糸文が施される深鉢片である。11・13は隆沈線、12は沈線による渦巻文と懸垂文が連結して描かれる。14・15は隆沈線による懸垂文が施される深鉢で、部分では14で見られるように逆U字状の文様となるものもある。

RA178 竪穴住居跡 (第2分冊 第51図)

時 期 大木9式併行期 **位 置** M2区 **平面形** 不整楕円形

規 模 長軸3.60m以上・短軸2.72m以上、深さ0.37m **重複関係** RA177を切る。

埋 土 A～E層に大別される。A・B層は竪穴埋土、C層は周溝埋土、D・E層はピット埋土である。

掘込面 削平 **床面の状態** ほぼ平坦

複式炉 中央部付近より北寄りに構築され、北西壁に接する浅い掘り込みがある。

出土遺物 (第3分冊 第89図16～21) 16・18は地文に単節縄文が施される深鉢である。17は沈線による逆U字状文が施される深鉢体部片である。19・20は石錐である。19は棒状、20は板状を呈し、錐部にかけて入念な押圧剥離が施される。21は削器で、背面左側縁および腹面両側縁に調整剥離が施される。

RA179 竪穴住居跡 (第2分冊 第52図)

時 期 大木8b-1式併行期 **位 置** M2区 **平面形** 不整円形

規 模 長軸3.62m・短軸3.34m、深さ0.29m

重複関係 RD315に切られる。 **掘込面** 削平

埋 土 A～E層に大別される。A～C層は竪穴埋土、D・E層はピット埋土である。

床面の状態 ほぼ平坦 **地床炉** 中央部付近に認められ、深鉢(第90図1)が埋設される(正位)。

出土遺物 (第3分冊 第90図1～9) 1は地床炉に正位埋設された深鉢である。口縁部と体部下半は人為的に壊され、器面には地文の単節縄文が縦位に施される。2は体部上半に沈線による渦巻文と懸垂文が連結して描かれる深鉢で、地文には単節縄文が施される。3は体部下半が欠損するキャリパー形深鉢である。口縁部文様帯には隆沈線による渦巻文と波状文が連結して横位に施され、地文には複節縄文が施される。4は波状口縁を呈し、頸部に屈曲を持つ器形の深鉢で、体部下半を欠く。器面には平行沈線による渦巻文と懸垂文が描かれ、地文には複節縄文が縦位

に施される。5～8は隆沈線による渦巻文と懸垂文が連結して描かれる深鉢片である。5・6はキャリパー形深鉢、7は波状口縁を呈する深鉢口縁部片である。9は波状口縁を呈する深鉢口縁部片で、波頂部には渦巻文が施される。器面には3条1組の平行沈線による渦巻文と懸垂文が連結して描かれる。

R E 1 8 0 竪穴跡 (第2分冊 第52図)

時 期 大木8b式併行期 **位 置** M2区 **平面形** 円形
規 模 長軸1.98m以上・短軸2.82m、深さ0.68m
重複関係 R E 181を切る。 **掘込面** 削平
埋 土 A・B層に大別され、ともに竪穴埋土である。 **床面の状態** ほぼ平坦
出土遺物 (第3分冊 第91図1～3) 1・2は隆沈線による渦巻文と懸垂文が連結して描かれる深鉢口縁部片である。口縁部が内湾する器形を持ち、1は波状口縁を呈する。3は口縁部が外傾する深鉢口縁部片で、器面には3条1組の平行沈線による渦巻文と懸垂文が連結して描かれる。

R E 1 8 1 竪穴跡 (第2分冊 第52図)

時 期 大木8b式併行期 **位 置** M2区 **平面形** 不整円形 **規 模** 長軸3.69m・短軸3.48m、深さ0.32m **重複関係** R E 180に切られる。 **掘込面** 削平
埋 土 A・B層に大別され、ともに竪穴埋土である。 **床面の状態** ほぼ平坦
出土遺物 (第3分冊 第91図4～7) 4は波状口縁を呈する深鉢で、波頂部には渦巻文が施される。器面には3条1組の平行沈線と波状文が描かれ、地文には単節縄文が縦位に施される。5・7はキャリパー形深鉢の口縁部片である。5は波状口縁を呈し、口縁部文様帯には隆沈線による有棘渦巻文と懸垂文が連結して描かれる。7は口縁部文様帯に2条1組の隆沈線による波状文が横位に施される。6は2条1組の平行沈線・波状文が描かれる深鉢体部片である。

R A 1 8 2 竪穴住居跡 (第2分冊 第47図)

時 期 大木9式併行期 **位 置** M2区 **平面形** 不整楕円形?
規 模 長軸4.39m以上・短軸2.37m以上、深さ0.12m
重複関係 R A 185に切られ、R A 183・184を切る。 **掘込面** 削平
埋 土 A～D層に大別される。A層は竪穴埋土、B～D層はピット埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 **炉** 不明
出土遺物 (第3分冊 第91図8) 8は隆沈線による渦巻文と懸垂文が施される深鉢口縁部片である。

R A 1 8 3 竪穴住居跡 (第2分冊 第47図)

時 期 大木8b式併行期 **位 置** M2区 **平面形** 不明
規 模 長軸2.35m以上・短軸1.72m以上、深さ0.08m
重複関係 R A 182・184に切られる。 **掘込面** 削平
埋 土 A～E層に大別される。A層は竪穴埋土、B～E層はピット埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 **炉** 不明
出土遺物 (第3分冊 第91図9) 9は口縁部が内湾する深鉢口縁部片で、隆沈線による楕円文・弧状文

が連結して描かれる。

R A 1 8 4 竪穴住居跡 (第2分冊 第53図)

時 期 大木8b-3~大木9式併行期 位 置 M2区 平 面 形 不明
規 模 長軸・短軸不明、深さ0.21m
重複関係 R A 182・185に切られ、R A 183を切る。 掘込面 削平
埋 土 A~E層に大別される。A・B層は竪穴埋土、C層は周溝埋土、D・E層はピット埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 石 囲 炉 石組部は楕円形を呈する。

出土遺物 (第3分冊 第92図1~7) 1は口縁部下に橋状の把手を持つ樽形土器である。器面には隆沈線による小渦巻文と懸垂文が連結して描かれ、地文には複節縄文が施される。2は口縁部が内湾しながら口唇部が外反する深鉢である。器面には小渦巻文を連結点とする楕円区画文が施される。3~5は隆沈線による渦巻文と懸垂文が連結して描かれる深鉢である。6は浅鉢口縁部片である。口縁部文様帯には隆沈線による楕円文が横位に展開し、体部には櫛目が密に施される。7は斧状土製品の刃部で、全面に単節縄文が施される。

R A 1 8 5 竪穴住居跡 (第2分冊 第53図)

時 期 大木9式併行期 位 置 M2区 平 面 形 方形
規 模 長軸4.17m・短軸3.35m、深さ0.42m
重複関係 R A 176・177・182・184を切る。 掘込面 削平
埋 土 A~F層に大別される。A~C層は竪穴埋土、D層は周溝埋土、E・F層はピット埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 石 囲 炉 中央部付近より西寄りに構築される。石組部は楕円形を呈する。

出土遺物 (第3分冊 第93図1~27) 1~3・6~14・16~18・20~24・26・27は隆沈線による渦巻文と懸垂文が連結して描かれる深鉢片である。4・5・15・19は沈線による楕円文・逆U字状文が描かれる深鉢である。4・5は波状口縁を呈し、地文には単節縄文が縦位に施される。25は沈線による渦巻文と懸垂文が連結して描かれる小形深鉢で、体部上半を欠く。

R A 1 8 6 竪穴住居跡 (第2分冊 第54図)

時 期 不明 位 置 M2区 平 面 形 不明
規 模 長軸不明・短軸1.38m以上、深さ0.15m 重複関係 R A 188を切る。
掘込面 削平 埋 土 A層は竪穴埋土である。 床面の状態 ほぼ平坦 炉 不明
出土遺物 図示していないが縄文土器小片が出土している。

R A 1 8 7 竪穴住居跡 (第2分冊 第54図)

時 期 大木9式併行期 位 置 M2区 平 面 形 楕円形?
規 模 長軸3.40m以上・短軸3.90m以上、深さ不明 重複関係 不明 掘込面 削平
埋 土 A層は炉埋土である。 床面の状態 ほぼ平坦
複式炉 中央部付近より北西寄りに構築され、石囲部に接して浅い掘り込みがある。
出土遺物 (第3分冊 第94図1~14) 1は体部下半が欠損する深鉢である。器面には単節縄文のみが縦位に施文される。2は波状口縁を呈する深鉢口縁部片で、口縁部下には沈線上に1条の刺突列

が横位に施される。器面には隆沈線による渦巻文と懸垂文が連結して施され、地文には複節縄文が縦位に施される。3～10は沈線による楕円文・逆U字状文が描かれる深鉢片である。8・10は波状口縁を呈し、波頂部には渦巻文が施される。11は沈線による渦巻文と懸垂文が連結して描かれる深鉢口縁部片で、口縁部下には1条の刺突列が横位に施される。12は体部上半欠損の小形深鉢である。隆沈線による渦巻文と懸垂文が連結して描かれ、地文には単節縄文が縦位に施される。13は三角形土製品で、表面には平行沈線と刺突文が施される。14は深鉢の土器片を剥離加工した土製円盤である。

R A 1 8 8 竪穴住居跡 (第2分冊 第54図)

時 期 大木8b-1式併行期 位 置 M2区 平面形 楕円形

規 模 長軸4.20m以上・短軸2.75m以上、深さ0.18m

重複関係 R A 186・189・191に切られる。 掘込面 削平

埋 土 D・E層に大別され、ともにピット埋土である。

床面の状態 ほぼ平坦 石囲炉 中央部付近より西寄りに構築され、石囲部は方形を呈する。

伏 甕 石囲炉の延長上で伏甕が1基検出された(第95図1)。床面から伏甕の底部穿孔部までしまりのない軟らかい黒褐色土がスポンジ状に堆積しており、伏甕内部はほぼ空洞で、底面に僅かな黒褐色土が見られたのみである。

出土遺物(第3分冊 第95図1～第96図7) 1は伏甕に転用された深鉢である。口縁部は緩やかに内湾し、波状口縁を呈する。波頂下には隆沈線による横S字状文が施され、体部器面は隆沈線による懸垂文により縦割区画され、区画内には有棘大渦巻文・懸垂文・縦位波状文が描かれる。地文には単節縄文が縦位に施される。2は口縁部が平縁を呈し、頸部が屈曲する深鉢である。頸部には3条1組の平行沈線が2段施され、体部には頸部文様帯より垂下する懸垂文が描かれる。地文には単節縄文が縦位に施される。3は波状口縁を呈するキャリパー形深鉢である。口縁部文様帯には沈線による有棘渦巻文描かれ、地文は単節縄文を横位に施文する。屈曲部には3条1組の平行沈線が2段施され、体部下半には上部文様帯より垂下する懸垂文が描かれる。体部地文は単節縄文を縦位に施すものである。4は隆沈線による渦巻文と懸垂文を施す深鉢体部片である。5～7は沈線による有棘渦巻文と懸垂文を施す深鉢体部片で、7の屈曲部には列点文が横位に施される。

R A 1 8 9 竪穴住居跡 (第2分冊 第55図)

時 期 大木9式併行期 位 置 M2区 平面形 不整円形

規 模 長軸5.17m・短軸4.59m、深さ0.28m 重複関係 R A 177・188・189を切る。

掘込面 削平 埋 土 A～E層に大別され、A～C層は竪穴埋土、D・E層はピット埋土である。

床面の状態 ほぼ平坦 石囲炉 中央部付近に構築され、石囲部は方形を呈する。

出土遺物(第3分冊 第97図1～13) 1～5は沈線による楕円文・逆U字状文などの区画文が描かれる深鉢片で、2は波状口縁を呈する。6は沈線による渦巻文や区画文が描かれる深鉢口縁部片である。7は地文のみ施される小形深鉢で、単節縄文が縦位に施文される。8は孔をもつ球状土製品で、表面には沈線による円文を中心として楕円文が環状に施される。9は土偶の腕部であ

る。上下方向に貫通孔を持ち、表面には刺突文が施される。10・11は深鉢の土器片を剥離加工した土製円盤である。12は平基の石鏃で、両面に入念な押圧剥離が施される。13は削器で、両側縁に調整剥離が施される。

R A 1 9 0 竪穴住居跡 (第2分冊 第54図)

時 期 大木8b式併行期 位 置 M2区 平面形 不明
規 模 長軸・短軸不明、深さ0.24m 重複関係 RA188を切り、RA191に切られる。
埋 土 A～F層に大別される。A・B層は竪穴埋土、C層は周溝埋土、D～F層はピット埋土である。
掘込面 削平 床面の状態 ほぼ平坦 炉 不明
出土遺物 (第3分冊 第98図1～4) 1は口縁部が内湾する深鉢で、口縁部下には隆沈線による円文・楕円区画文が交互に横位連結して施される。体部には単節縄文が施される。2・4は隆沈線による有棘渦巻文と懸垂文が連結して描かれる深鉢で、地文には単節縄文が縦位に施される。4は波状口縁を呈し、屈曲部の沈線上には刺突文が施される。3は台部に孔をもつ器台で、隆線による横S字状文が施される。

R A 1 9 1 竪穴住居跡 (第2分冊 第54図)

時 期 大木8b-3～大木9式併行期 位 置 M2区 平面形 不整形
規 模 長軸2.80m以上・短軸2.82m、深さ0.32m
重複関係 RA189に切られ、RA188・190を切る。 掘込面 削平
埋 土 A～C層に大別される。A・B層は竪穴埋土、C層はピット埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 複式炉 中央部付近より西寄りに構築される。石囲部に接して浅い掘り込みがあり、壁寄りにピットが掘り込まれる。
出土遺物 (第3分冊 第97図14～16) 14～16は隆沈線による渦巻文と懸垂文が連結して描かれる深鉢である。14・16は波状口縁を呈し、地文には14が複節縄文、16には単節縄文がそれぞれ縦位に施される。

R A 1 9 2 竪穴住居跡 (第2分冊 第55図)

時 期 不明 位 置 M2区 平面形 不明
規 模 長軸・短軸不明、深さ0.08m 重複関係 RA189に切られる。 掘込面 削平
埋 土 A～C層に大別される。A・B層は竪穴埋土、C層は周溝埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 炉 不明 出土遺物 図示していないが縄文土器小片が出土している。

R A 1 9 3 竪穴住居跡 (第2分冊 第56図)

時 期 大木8b式併行期 位 置 M2区 平面形 不整形
規 模 長軸3.32m・短軸2.12m以上、深さ0.15m 重複関係 RD323に切られる。
掘込面 削平 埋 土 A～C層に大別される。A・B層は竪穴埋土、C層は周溝埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 炉 不明
出土遺物 (第3分冊 第97図17・18) 17・18は同一個体の深鉢片で、波状口縁を呈する。器面には沈線による渦巻文と懸垂文が連結して描かれる。

R A 1 9 4 (I 期) 竪穴住居跡 (第 2 分冊 第57図)

時 期 大木 8 b 式併行期 位 置 M 2 区 平 面 形 不整円形?
規 模 長軸4.01m・短軸3.57m以上、深さ0.11m
重複関係 R A 194 II 期・194 III 期に切られる。 掘 込 面 削平
埋 土 A・B層に大別される。A～C層は竪穴埋土、D層は周溝埋土、E～G層はピット埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦。部分的に床構築土(貼床)が認められる。
地 床 炉 中央部付近より西寄りに認められる。 出 土 遺 物 なし

R A 1 9 4 (II 期) 竪穴住居跡 (第 2 分冊 第57図)

時 期 大木 8 b 式 位 置 M 2 区 平 面 形 不整円形?
規 模 長軸5.28m以上・短軸4.52m以上、深さ0.08m 掘 込 面 削平
重複関係 R A 194 III 期に切られ、R A 194 I 期を切る。 床面の状態 ほぼ平坦
埋 土 A層は竪穴埋土、C層は周溝埋土、D・E層はピット埋土である。
石 囲 炉 中央部付近より西よりに構築される。石組部は方形を呈する。 出 土 遺 物 なし

R A 1 9 4 (III 期) 竪穴住居跡 (第 2 分冊 第58図)

時 期 大木 8 b—3 式併行期 位 置 M 2 区 平 面 形 楕円形
規 模 長軸8.82m・短軸6.35m、深さ0.87m
重複関係 R A 194 I 期・194 II 期を切る。 掘 込 面 削平
埋 土 A～G層に大別される。A～D層は竪穴埋土、E層は周溝埋土、F・G層はピット埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 石 囲 炉 中央部付近より西寄りに構築される。石組部は楕円形を呈する。
伏 甕 炉の延長上で伏甕が2個体検出された。伏甕1は底部が壊れ、伏甕内部にはG層が堆積している。伏甕2は床面から伏甕の底部穿孔部まで空洞が認められ、伏甕内部は穿孔部より流入したG層が観察されたほかは空洞であった。

出土遺物(第3分冊 第99図1～第105図45) 1・2は伏甕に転用された深鉢である。1は口縁部が内湾する深鉢で、口縁部は平坦に調整される。地文には単節縄文が縦位に施される。2は口縁部が外反する深鉢で、口縁部下には沈線文が横位に施され、体部には口縁部文様帯より垂下する懸垂文が描かれる。地文には複節縄文が縦位に施される。3は屈曲部に橋状把手をもつ小形樽形土器で、口縁部を欠く。器面には隆沈線による大渦巻文を中心に渦巻文・懸垂文が連結して描かれる。4は口縁部がラッパ状に開く小形深鉢で、波状口縁を呈する。隆沈線による有棘渦巻文と懸垂文が施され、地文には複節縄文が縦位に施される。5はキャリパー形深鉢で、底部に孔が穿たれる。波状口縁を呈し、口縁部文様帯には隆沈線による渦巻文と楕円文が連結して横位に展開する。頸部に無文帯を持ち、体部には沈線による渦巻文と懸垂文が連結して描かれる。地文には複節縄文が施される。6～11は口縁部がラッパ状に開く深鉢で、波状口縁を呈する。6・7は沈線による渦巻文・円文が懸垂文と連結して描かれ、地文には6が複節縄文、7には単節縄文が縦位に施される。8～10は隆沈線による有棘渦巻文が懸垂文と連結して施される。9の波頂部には孔が施され、地文には単節縄文が縦位に施文される。8・10は地文に複節縄文が縦位に施される。11は隆沈線によるY字状の懸垂文が施され、地文には複節縄文が縦位に施文される。12・23は体部無文の浅鉢で、12は体部下半を欠く。口縁部文様帯には渦巻文・

楕円文・弧状文が連結して施され、文様区画内には複節縄文が充填施文される。13～17・20～22は隆沈線による有棘渦巻文・渦巻文・円文と懸垂文が連結して施される深鉢である。13～15は波状口縁を呈し、13・16の地文には複節縄文が縦位に施される。17の文様区画内には3条の刺突列が充填施文される。18は口縁部下の2条の隆線間に波状文が施される深鉢口縁部片である。19は無文の小形深鉢で、沈線による波状文が描かれる。24は口縁部文様帯に隆沈線による渦巻文と懸垂文が連結して施される浅鉢である。25～27は隆沈線による渦巻文と懸垂文が連結して描かれる深鉢口縁部片である。25は波状口縁を呈し、波頂部には孔が施される。26・27はキャリパー形深鉢である。28～30・40は口縁部がラッパ状に開く深鉢で、29・30は体部上半を欠く。28・40は波状口縁を呈し、器面には隆沈線または沈線による有棘渦巻文・波状文・懸垂文が連結して施される。地文には複節縄文が縦位に施される。29は沈線による渦巻文と懸垂文が連結して描かれ、地文には複節縄文が縦位に施される。30は隆沈線による渦巻文と懸垂文が連結して施され、地文には単節縄文が縦位に施される。31は無文の把手付の鉢である。32・33・35は隆沈線による渦巻文が懸垂文と連結して施される深鉢口縁部片で、34・36～38は深鉢体部片である。39・41は波状口縁を呈し、波頂部には孔が施される深鉢で、隆沈線による有棘渦巻文・渦巻文・円文が懸垂文と連結して施される。42は浅鉢で、口縁部文様帯には隆沈線による渦巻文・円文・長楕円文が連結して横位に施される。43は三角形土製品で、頂部および中央に刺突文が施される。44は刃部欠損の斧状土製品である。基部に孔が施され、全面に複節縄文が縦位に施文される。45は体部下半欠損の土偶で、四角い頭部と肩部が認められる。臍を表現した凹み持ち、全面に刺突列が施される。

RA195 竪穴住居跡 (第2分冊 第56図)

時期 後期初頭 位置 M2区 平面形 不整円形
 規模 長軸3.70m以上・短軸3.69m、深さ0.25m 重複関係 不明
 掘込面 削平 埋土 A～C層に大別される。A・B層は竪穴埋土、C層はピット埋土である。
 床面の状態 ほぼ平坦 石囲炉 ほぼ中心部付近に構築され、石組部は円形を呈する。

出土遺物 (第3分冊 第106図1～9) 1は体部上半欠損の深鉢で、地文には単節縄文が縦位に施される。2は口唇部が平坦に調整される深鉢口縁部片である。口縁部の無文帯下には連鎖状隆線が横位に施される。3は2条1組の連鎖状隆線による幾何学的モチーフが展開する深鉢口縁部片で、屈曲部にはボタン状の貼付文が施される。4は波状口縁を呈する深鉢口縁部片で、口縁部下には縄文で加飾された3条1組の隆線による幾何学的な文様が施される。5は口縁部から垂下する隆帯に刺突文を施す深鉢口縁部片である。6は口縁部下に無文帯をもつ深鉢口縁部片で、体部との境には刺突文で加飾される隆線が横位に施される。7は人面様の装飾をもつ深鉢口縁部片である。8・9は基部に抉りのある石鏃で、両面に入念な押圧剥離が施される。

RA196 竪穴住居跡 (第2分冊 第59図)

時期 後期初頭 位置 N2区 平面形 楕円形?
 規模 長軸5.69m以上・短軸4.15m以上、深さ0.22m
 重複関係 RA197を切る。 掘込面 削平
 埋土 A～D層に大別される。A・B層は竪穴埋土、C・D層はピット埋土である。

床面の状態 ほぼ平坦 **地床炉** 中心部付近より西寄りに認められ、深鉢が埋設される（斜位）。
出土遺物（第3分冊 第106図10～13） 10は口唇部が平坦に調整される深鉢で、器面には地文のみが施される。11は地床炉に斜位に据えられた埋設土器である。体部上半は人為的に壊され、器面には単節縄文のみが施される。12は全面に刺突文が施される棒状土製品で、土偶の腕部か。13は滑車状土製品の一部で、表面には隆線に区画された刺突が施される。

R A 1 9 7 竪穴住居跡（第2分冊 第59図）

時期 後期初頭 **位置** N2区 **平面形** 不明
規模 長軸2.18m以上・短軸3.17m以上、深さ0.15m **重複関係** R A 196に切られる。
掘込面 削平 **埋土** A・B層に大別される。A層は竪穴埋土、B層はピット埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 **石囲炉** 中心部付近より南寄りに構築され、石囲部は円形を呈する。
埋設土器 中心部付近より北西寄りに埋設される（正位）。
出土遺物（第3分冊 第106図14） 1は埋設土器で、地文には撚糸文のみが施される。

R A 1 9 8 竪穴住居跡（第2分冊 第60図）

時期 大木10式併行期 **位置** M2区 **平面形** 不明
規模 長軸5.25m以上・短軸4.32m以上、深さ0.17m
重複関係 R A 199に切られる。 **掘込面** 削平
埋土 A～G層に大別される。A～D層は竪穴埋土、E層は周溝埋土、F・G層はピット埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 **複式炉** 石囲部はⅠ・Ⅱ・Ⅲの3段あり、石囲部Ⅰ・Ⅱに深鉢が埋設される（正位）。石囲部に接して浅い掘り込みがある。
出土遺物（第3分冊 第107図1～第108図4） 1・2は石囲炉に正位埋設された深鉢である。1の体部上半、2の体部上半および下半は人為的に壊され、地文にはともに単節縄文が縦位に施される。3は石棒である。4は角皿状に整形された脚付石皿の一部である。

R A 1 9 9 竪穴住居跡（第2分冊 第60図）

時期 不明 **位置** M2区 **平面形** 不明
規模 長軸・短軸不明、深さ0.29m **重複関係** R A 198を切る。 **掘込面** 削平
埋土 Aは竪穴埋土である。 **床面の状態** ほぼ平坦 **炉** 不明
出土遺物 図示していないが縄文土器小片が出土している。

R A 2 0 0 竪穴住居跡（第2分冊 第61図）

時期 大木8b式併行期 **位置** M2区 **平面形** 不明
規模 長軸不明・短軸0.89m以上、深さ0.13m **重複関係** R A 507・508に切られる。
埋土 A～C層に大別される。A層は竪穴埋土、B層は周溝埋土、C層はピット埋土である。
掘込面 削平 **床面の状態** ほぼ平坦 **炉** 不明
出土遺物（第3分冊 第109図1・2） 1は沈線による有棘渦巻文が描かれる深鉢体部片である。2は刃部欠損の斧状土製品である。側面に貫通孔が認められ、地文には両面に無節縄文が施される。

R A 2 0 1 竪穴住居跡 (第2分冊 第39図)

時 期 不明 位 置 L 2 区 平 面 形 不明
規 模 長軸・短軸不明、深さ0.13m 重復関係 不明 掘込面 削平
埋 土 I a・A層に大別される。I a層は表土、A層は竪穴埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 炉 不明 出土遺物 図示していないが縄文土器小片が出土している。

R A 2 0 2 竪穴住居跡 (第2分冊 第61図)

時 期 不明 位 置 L 2 区 平 面 形 不明
規 模 不明 重復関係 不明 掘込面 削平 埋 土 J層は炉埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 石囲炉 石組部は楕円形を呈する。
出土遺物 図示していないが縄文土器小片が出土している。

R A 2 0 3 竪穴住居跡 (第2分冊 第61図)

時 期 不明 位 置 M 2 区 平 面 形 不明
規 模 不明 重復関係 不明 掘込面 削平 埋 土 J層は炉埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 石囲炉 石組部は方形を呈する。
出土遺物 図示していないが縄文土器小片が出土している。

R A 2 0 4 竪穴住居跡 (第2分冊 第61図)

時 期 大木8b式併行期 位 置 M 2 区 平 面 形 不明
規 模 不明 重復関係 不明 掘込面 削平 埋 土 A層は炉埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 石囲炉 形状不明
出土遺物 (第3分冊 第109図3) 3は沈線による文様が描かれる深鉢体部片である。

R A 2 0 5 竪穴住居跡 (第2分冊 第61図)

時 期 大木8b式併行期 位 置 M 2 区 平 面 形 不明
規 模 不明 重復関係 不明 掘込面 削平 埋 土 J層は炉埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 石囲炉 石組部は楕円形を呈する。
出土遺物 (第3分冊 第109図4・5) 4は体部下半欠損のキャリパー形深鉢である。口縁部文様帯には隆沈線による有棘渦巻文と懸垂文が連結して横位に展開し、体部には沈線による大渦巻文を中心に有棘渦巻文が連結して施される。地文には単節縄文が施される。5は隆沈線による有棘渦巻文と懸垂文が施される深鉢体部片である。

R A 2 0 6 竪穴住居跡 (第2分冊 第61図)

時 期 不明 位 置 M 2 区 平 面 形 不明
規 模 不明 重復関係 不明 掘込面 削平 埋 土 J層は炉埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 石囲炉 石組部は楕円形を呈する。 出土遺物 なし

R A 2 0 7 竪穴住居跡 (第2分冊 第61図)

時 期 不明 位 置 M2区 平 面 形 不明 規 模 不明
重複関係 RA158に切られる。 掘込面 削平 埋 土 J層は炉埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 石 囲 炉 形状不明 出土遺物 なし

R A 2 0 8 竪穴住居跡 (第2分冊 第61図)

時 期 不明 位 置 M2区 平 面 形 不明
規 模 不明 重複関係 不明 掘込面 削平 埋 土 不明
床面の状態 ほぼ平坦 石 囲 炉 形状不明 出土遺物 なし

R A 2 0 9 竪穴住居跡 (第2分冊 第61図)

時 期 大木8b式併行期 位 置 M2区 平 面 形 不明
規 模 不明 重複関係 不明 掘込面 削平 埋 土 A層は炉埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 石 囲 炉 石組部は方形を呈する。
出土遺物(第3分冊 第109図6・7) 6は隆沈線による楕円文と懸垂文が連結して描かれる深鉢口縁部片である。7は地文に櫛目文が施される深鉢口縁部片である。

R A 2 1 0 竪穴住居跡 (第2分冊 第61図)

時 期 不明 位 置 M2区 平 面 形 不明
規 模 不明 重複関係 不明 掘込面 削平 埋 土 不明
床面の状態 ほぼ平坦 石 囲 炉 形状不明 出土遺物 なし

R A 2 1 1 竪穴住居跡 (第2分冊 第61図)

時 期 不明 位 置 M2区 平 面 形 不明 規 模 不明
重複関係 RA158を切る。 掘込面 削平
埋 土 A・C層に大別され、ともに炉埋土である。 床面の状態 ほぼ平坦
石 囲 炉 石組部は楕円形を呈する。 出土遺物 なし

R A 2 1 2 竪穴住居跡 (第2分冊 第61図)

時 期 大木9式併行期 位 置 M2区 平 面 形 不明
規 模 不明 重複関係 不明 掘込面 削平 埋 土 不明
床面の状態 ほぼ平坦 炉 地床炉が認められる。
出土遺物(第3分冊 第109図8~12) 8~10は隆沈線による有棘渦巻文と懸垂文が施される深鉢である。
8の隆線上には刻目が施される。11は沈線による楕円文・逆U字状文が描かれる深鉢体部片である。12は深鉢の土器片を剥離加工した土製円盤である。

R A 2 1 3 竪穴住居跡 (第2分冊 第61図)

時 期 不明 位 置 M2区 平 面 形 不明
規 模 不明 重複関係 不明 掘込面 削平 埋 土 B層は炉埋土である。

床面の状態 ほぼ平坦 石囲炉 石組部は方形を呈する。 出土遺物 なし

R A 2 1 4 竪穴住居跡 (第2分冊 第61図)

時 期 不明 位 置 M2区 平 面 形 不明
規 模 不明 重複関係 不明 掘 込 面 削平 埋 土 A層は炉埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 石囲炉 石組部は楕円形を呈する。 出土遺物 なし

R A 2 1 5 竪穴住居跡 (第2分冊 第61図)

時 期 不明 位 置 M2区 平 面 形 不明 規 模 不明
重複関係 不明 掘 込 面 削平 埋 土 B・C層に大別され、ともに炉埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 石囲炉 石組部は円形を呈する。 出土遺物 なし

R A 2 1 6 竪穴住居跡 (第2分冊 第61図)

時 期 後期初頭 位 置 M2区 平 面 形 不明
規 模 不明 重複関係 不明 掘 込 面 削平 埋 土 不明
床面の状態 ほぼ平坦 炉 地床炉が認められる。

出土遺物 (第3分冊 第110図1・2) 1は口縁部下に縄文に加飾された2条1組の隆線が施される深鉢口縁部片である。2は口唇部が平坦に調整される深鉢口縁部片で、器面には地文のみが施される。

R A 2 1 7 竪穴住居跡 (第2分冊 第62図)

時 期 後期初頭 位 置 N2区 平 面 形 不整楕円形
規 模 長軸5.05m・短軸4.03m、深さ0.31m 重複関係 不明 掘 込 面 削平
埋 土 A～F層に大別される。A～C層は竪穴埋土、D層は周溝埋土、E・F層はピット埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 地床炉 中心部付近より北東寄りに認められ、深鉢が埋設される(斜位)。
出土遺物 (第3分冊 第110図3～6) 3は沈線による区画文が描かれる深鉢口縁部片である。4は刺突文で加飾された隆線によるL字状文が施される深鉢体部片である。5は地床炉に斜位に据えられた深鉢である。体部上半は人為的に壊され、地文には単節縄文が横位に施される。6は体部上半欠損の深鉢で、器面には単節縄文が縦位に施される。

R A 2 1 8 竪穴住居跡 (第2分冊 第62図)

時 期 後期初頭 位 置 N2区 平 面 形 不整円形
規 模 長軸3.23m・短軸2.91m、深さ0.12m 重複関係 RD466を切る。
掘 込 面 削平 埋 土 A～D層に大別され、A・B層は竪穴埋土、C・D層はピット埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 石囲炉 中心部付近より南西寄りに認められ、深鉢が埋設される(正位)。
出土遺物 (第3分冊 第110図7・8) 7は石囲炉に正位埋設された深鉢で、体部上半は人為的に壊される。地文には撚糸文が施される。8は刺突文に加飾された隆線によるL字状文が施される深鉢口縁部片である。

R A 2 1 9 竪穴住居跡 (第2分冊 第63図)

時 期 後期初頭 位 置 N 2 区 平 面 形 不整形
規 模 長軸4.69m・短軸3.68m、深さ0.32m
重複関係 R D 0502に切られ、R D 440を切る。 掘込面 削平
埋 土 A～D層に大別される。A・B層は竪穴埋土、C・D層はピット埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 炉 不明

出土遺物 (第3分冊 第111図1～6) 1～5は深鉢口縁部片で、波状口縁を呈する。1は波頂部下には孔が施され、円形刺突列が垂下する。2は波頂部下には円形刺突文が施され、口縁部文様帯には沈線による入組状の文様が描かれる。3は波頂部より刺突で加飾された隆線が縦位に施される。4は波頂部より垂下する連鎖状隆線にボタン状の貼付文が加飾される。5は口縁部の無文帯下に1条の隆帯が施される。6は基部欠損の斧状土製品である。刃部を除き、全面に複節縄文が縦位に施される。

R A 2 2 0 竪穴住居跡 (第2分冊 第63図)

時 期 大木10式併行期 位 置 N 2 区 平 面 形 不整形
規 模 長軸3.12m・短軸3.10m、深さ0.23m 重複関係 不明 掘込面 削平
埋 土 A～D層に大別される。A・B層は竪穴埋土、C層は周溝埋土、D層はピット埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 地床炉 中央部付近より西寄りに認められ、深鉢が埋設される(正位)。

出土遺物 (第3分冊 第111図7～9) 7は体部下半以下が欠損する深鉢で、沈線によるJ字状文が描かれる。8は地床炉に正位埋設された深鉢で、体部下半は人為的に壊される。沈線によるJ字状文が描かれ、文様区画内には単節縄文が充填施文される。9は体部上半欠損の深鉢で、地文には単節縄文が縦位に施される。

R A 2 2 1 炉跡 (第2分冊 第64図)

時 期 不明 位 置 N 2 区 平 面 形 不明
規 模 不明 重複関係 不明 掘込面 削平 埋 土 A層は炉埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 石囲炉 形状不明 出土遺物 なし

R A 2 2 2 竪穴住居跡 (第2分冊 第64図)

時 期 不明 位 置 N 2 区 平 面 形 楕円形?
規 模 長軸4.21m・短軸1.32m以上、深さ0.04m 重複関係 R A 223を切る。
掘込面 削平 埋 土 A・B層に大別され、ともに竪穴埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 石囲炉 中央部付近より東寄りに構築され、石囲部に接して深鉢が埋設される(正位)。

出土遺物 (第3分冊 第111図10) 10は炉埋設土器で、体部下半は人為的に壊される。口唇部は平坦に調整され、地文には複節縄文が縦位に施される。

R A 2 2 3 竪穴住居跡 (第2分冊 第64図)

時 期 不明 位 置 N 2 区 平 面 形 楕円形?

規 模 長軸・短軸不明、深さ0.11m 重複関係 RA222に切られる。 掘込面 削平
埋 土 A層は竪穴埋土である。 床面の状態 ほぼ平坦 炉 不明 出土遺物 なし

RA224 竪穴住居跡 (第2分冊 第65図)

時 期 不明 位 置 O2区 平面形 不整円形
規 模 長軸3.39m・短軸2.50m以上、深さ0.18m 重複関係 不明 掘込面 削平
埋 土 A～C層に大別される。A層は竪穴埋土、B層は周溝埋土、C層はピット埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 複式炉 中央部付近より西寄りに構築され、西壁に接する浅い掘り込みがある。 出土遺物 なし

RA225 竪穴住居跡 (第2分冊 第65図)

時 期 大木10式併行期 位 置 N3区 平面形 不整円形?
規 模 長軸3.12m・短軸3.18m、深さ0.18m 重複関係 不明 掘込面 削平
埋 土 A・B層に大別される。A層は竪穴埋土、B層はピット埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 複式炉 中央部付近より東寄りに構築され、東壁に接する浅い掘り込みがある。

出土遺物 (第3分冊 第111図11) 11は体部上半欠損の深鉢である。沈線による区画文が描かれ、地文には単節縄文が縦位に施される。

RA226 竪穴住居跡 (第2分冊 第66図)

時 期 不明 位 置 N3区 平面形 不整楕円形
規 模 長軸3.82m・短軸2.82m以上、深さ0.08m 重複関係 不明 掘込面 削平
埋 土 A・B層に大別され、ともに竪穴埋土である。 床面の状態 ほぼ平坦
石 囲 炉 形状不明 出土遺物 なし

RA227 竪穴住居跡 (第2分冊 第66図)

時 期 不明 位 置 N3区 平面形 不整円形?
規 模 長軸3.02m以上・短軸3.56m、深さ0.09m 重複関係 不明 掘込面 削平
埋 土 A・B層に大別され、A層は竪穴埋土、B層は周溝埋土である。 床面の状態 ほぼ平坦
複式炉 中央部付近より南西寄りに構築され、南壁に接する浅い掘り込みがある。 出土遺物 なし

RA228 炉跡 (第2分冊 第66図)

時 期 不明 位 置 N3区 平面形 不明
規 模 不明 重複関係 不明 掘込面 削平 埋 土 A層は炉埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 石 囲 炉 石組部は楕円形を呈する。 出土遺物 なし

RA229 竪穴住居跡 (第2分冊 第67図)

時 期 大木9式併行期 位 置 N3区 平面形 円形
規 模 長軸8.48m・短軸7.87m、深さ0.32m 重複関係 なし 掘込面 削平

埋 土 A～F層に大別される。A～C層は竪穴埋土、D層は周溝埋土、E・F層はピット埋土である。また、炉付近が風倒木により攪乱され、炉の石囲部が変形している。

床面の状態 ほぼ平坦

複式炉 石囲部はⅠ・Ⅱ・Ⅲの3段あり、石囲部に接して浅い掘り込みがある。焼土は石囲Ⅲ段部のみ確認された。

出土遺物(第3分冊 第112図1～第115図27) 1・2・4・5は隆沈線による小渦巻文・楕円区画文・逆U字状文が描かれる深鉢である。波状口縁を呈し、波頂部下には渦巻文が施される。地文には複節縄文が縦位に施されるが、文様区画外は磨り消され無文化する。3は肩部から口縁部にかけて「く」の字に屈曲する浅鉢で体部には単節縄文が施される。6・20は地文のみが施される深鉢である。6には単節縄文が縦位に施される。7～19・22は沈線による渦巻文・楕円文・逆U字状文が描かれる深鉢片である。21は体部下半欠損の深鉢である。口唇部は平坦に調整され、器面には沈線による楕円文・逆U字状文が描かれる。23・24・26・27は沈線による曲線的モチーフが描かれる深鉢片である。25は台部に孔をもつ器台か。隆線・沈線による逆U字状文が横位に施される。26・27は風倒木より出土したJ字状文が描かれる深鉢である。

R A 2 3 0 竪穴住居跡(第2分冊 第68図)

時 期 大木9式併行期 **位 置** N3区 **平面形** 不整楕円形?

規 模 長軸3.35m・短軸2.42m、深さ0.08m **重複関係** なし **掘込面** 削平

埋 土 A層は竪穴埋土である。 **床面の状態** ほぼ平坦

石 囲 炉 中央部付近より北東寄りに構築される。石組部は楕円形を呈する。

出土遺物(第3分冊 第116図1～3) 1は沈線による逆U字状文が描かれる深鉢口縁部片である。2・3は地文のみが施される深鉢である。

R A 2 3 1 竪穴住居跡(第2分冊 第68図)

時 期 大木10式併行期 **位 置** N3区 **平面形** 不整円形

規 模 長軸3.42m・短軸3.30m、深さ0.07m **重複関係** なし **掘込面** 削平

埋 土 A～E層に大別される。A・B層は竪穴埋土、C層は周溝埋土、D・E層はピット埋土である。

床面の状態 ほぼ平坦 **複式炉** 中央部付近より東寄りに構築され、石組部に接して浅い掘り込みがある。

出土遺物(第3分冊 第116図4) 4は波状口縁を呈する深鉢で、底部を欠く。体部上半には沈線による横S字状文が横位に展開し、地文には単節縄文が縦位に施される。

R A 2 3 2 竪穴住居跡(第2分冊 第68図)

時 期 大木10式併行期 **位 置** N3区 **平面形** 不整円形

規 模 長軸3.22m・短軸2.99m、深さ0.28m **重複関係** 不明 **掘込面** 削平

埋 土 A～D層に大別される。A・B層は竪穴埋土、C・D層はピット埋土である。

床面の状態 ほぼ平坦 **複式炉** 中央部付近より東寄りに構築され、南壁に接して浅い掘り込みがある。

出土遺物(第3分冊 第117図1～3) 1は波状口縁を呈する深鉢で、沈線による逆U字状文が施される。

地文には複節縄文が縦位に施される。2は体部上半欠損の深鉢で、体部上半には沈線によるJ字状文が横位に施され、地文には複節縄文が施される。3は地文のみが施される深鉢で、底部を欠く。

R A 2 3 3 竪穴住居跡 (第2分冊 第69図)

時 期 大木10式併行期 位 置 N 3 区 平 面 形 不明
規 模 長軸3.93m・短軸2.99m以上、深さ0.19m 重複関係 なし 掘込面 削平
埋 土 A～C層に大別される。A層は竪穴埋土、B・C層はピット埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 複式炉 石囲部は円形を呈し、深鉢が埋設される(正位)。石囲部に接して浅い掘り込みがある。

出土遺物(第3分冊 第117図4) 4は体部上半欠損の深鉢である。地文には複節縄文が縦位に施される。

R A 2 3 4 竪穴住居跡 (第2分冊 第70図)

時 期 大木9式併行期 位 置 N 3 区 平 面 形 多角形
規 模 長軸9.82m・短軸6.66m、深さ0.53m 重複関係 不明
埋 土 A～H層に大別される。A～D層は竪穴埋土、E層は周溝埋土、F～H層はピット埋土である。
掘込面 削平 床面の状態 ほぼ平坦
複式炉 中央部付近より北西寄りに構築され、北西壁に接して浅い掘り込みがある。

出土遺物(第3分冊 第118図1～第119図10) 1は体部下半欠損の深鉢で、波状口縁を呈する。隆線による横S字状文が横位に施され、文様の湾曲内に楕円文が施される。文様区画内には単節縄文が充填施文される。2・3・5～10は沈線による楕円文・逆U字状文が描かれる深鉢で、文様区画内には単節縄文が縦位に充填施文される。3は口縁が窄まり、体部が膨らむ一輪挿し状の小形土器である。体部器面には逆U字状文が施される。10は口縁部に橋状把手をもつ鉢形土器である。4は無文の鉢形土器である。

R A 2 3 5 炉跡 (第2分冊 第69図)

時 期 不明 位 置 N 3 区 平 面 形 不明 規 模 不明
重複関係 不明 掘込面 削平 埋 土 A～C層に大別され、ともに炉埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 石囲炉 石囲部は楕円形を呈する。 出土遺物 なし

R A 2 3 6 炉跡 (第2分冊 第69図)

時 期 不明 位 置 N 3 区 平 面 形 不明 規 模 不明
重複関係 不明 掘込面 削平 埋 土 A層は炉埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 複式炉 石囲部は楕円形を呈し、石囲部に接して浅い掘り込みがある。
出土遺物 なし

R A 2 3 7 竪穴住居跡 (第2分冊 第69図)

時 期 大木9式併行期 位 置 N 3 区 平 面 形 不整楕円形?
規 模 長軸3.55m以上・短軸3.01m以上、深さ0.12m 重複関係 なし

掘込面 削平 埋土 A～C層に大別される。A層は竪穴埋土、B・C層はピット埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 石囲炉 中央部付近より西寄りに構築され、石囲部は楕円形を呈する。
出土遺物(第3分冊 第120図1) 1は波状口縁を呈する深鉢口縁部片である。波頂部下には隆線による
円文が施される。

R A 2 3 8 竪穴住居跡(第2分冊 第71図)

時期 大木9式併行期 位置 N3区 平面形 不整楕円形?
規模 長軸4.32m・短軸3.65m、深さ0.19m
重複関係 R A 239・R E 2002に切られる。 掘込面 削平
埋土 A～E層に大別される。A～C層は竪穴埋土、D・E層はピット埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦。中央部付近に床構築土(貼床)が認められる。 炉 不明
出土遺物(第3分冊 第120図2) 2は隆沈線による円文と懸垂文が連結して描かれる深鉢体部片である。

R A 2 3 9 竪穴住居跡(第2分冊 第71図)

時期 大木9式併行期 位置 N3区 平面形 不整円形
規模 長軸3.43m・短軸2.99m以上、深さ0.22m 重複関係 R A 238・240を切る。
掘込面 削平 埋土 A～E層に大別され、A～C層は竪穴埋土、D・E層はピット埋土で
ある。 床面の状態 ほぼ平坦。中央部付近に床構築土(貼床)が認められる。
複式炉 中央部付近より北西寄りに構築。石組部は楕円形を呈し、北西壁に接して浅い掘り込みがある。
出土遺物(第3分冊 第120図3・4) 3・4は沈線による楕円文・逆U字状文が描かれる深鉢である。
3の文様区画内には複節縄文が充填施文される。

R A 2 4 0 竪穴住居跡(第2分冊 第71図)

時期 不明 位置 N3区 平面形 不明
規模 長軸2.88m以上・短軸1.09m以上、深さ0.13m
重複関係 R A 239・515に切られる。 掘込面 削平
埋土 A・B層に大別される。A層は竪穴埋土、B層はピット埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 炉 不明 出土遺物 なし

R A 2 4 1 竪穴住居跡(第2分冊 第72図)

時期 大木9式併行期 位置 N3区 平面形 不整楕円形?
規模 長軸6.33m・短軸3.42m以上、深さ0.29m 重複関係 不明 掘込面 削平
埋土 A～E層に大別される。A・B層は竪穴埋土、C層は周溝埋土、D・E層はピット埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 複式炉 中央部付近より北西寄りに構築される。石囲部には深鉢が埋設さ
れ(斜位 第121図1)、北西壁に接して浅い掘り込みが認められる。
出土遺物(第3分冊 第121図1～第122図14) 1は複式炉に斜位に据えられた深鉢である。体部下半は
人為的に壊され、器面には複節縄文が縦位に施される。2～8・11・13・14は沈線による楕円
文・逆U字状文が描かれる深鉢である。2は波状口縁を呈し、波頂部下には隆線による渦巻文
が施される。文様区画内には単節縄文が縦位に充填施文される。3は口縁部下に把手状の突起

を対に施す壺形状の土器で、体部下半は人為的に壊される。地文には複節縄文が縦位に施される。4・5は口縁部が窄まる一輪挿し状の小形土器で、5は体部下半を欠く。地文には単節縄文が施される。13は波状口縁を呈する深鉢口縁部片で、文様区画内には単節縄文が縦位に施される。9・10は同一個体の深鉢口縁部片で、波状口縁を呈する。口縁部下にはボタン状の貼付文に加飾された隆線が横位に施され、体部には沈線によるJ字状文が描かれる。12は口縁部の無文帯下に隆帯をもつ深鉢口縁部片で、体部には刺突が施される。

R A 2 4 2 竪穴住居跡 (第2分冊 第72図)

時 期 不明 位 置 N3区 平 面 形 不明
規 模 長軸3.12m以上・短軸4.03m、深さ不明
重複関係 R A 515・R E 2002に切られる。 掘込面 削平 埋 土 罹災
床面の状態 ほぼ平坦 石 囲 炉 中央部付近より北寄りに構築され、石囲部は楕円形を呈する。
出土遺物 (第3分冊 第122図15・16) 15・16は平行沈線による楕円文・渦巻文・V字状文が描かれる深鉢片である。15は波状口縁を呈する。

R A 2 4 3 竪穴住居跡 (第2分冊 第73図)

時 期 大木9式併行期 位 置 N3区 平 面 形 円形
規 模 長軸4.62m・短軸4.48m、深さ0.28m 重複関係 不明 掘込面 削平
埋 土 A～E層に大別される。A・B層は竪穴埋土、C～E層はピット埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦。中央部付近より南寄りに床構築土(貼床)が認められる。
複 式 炉 石囲部はI・IIの2段あり、北東壁に接して浅い掘り込みがある。
出土遺物 (第3分冊 第123図1～7) 1は頸部に屈曲をもつ壺形を呈する土器で、口唇部は平坦に調整される。器面には逆U字状文が施される。2は地文のみが施される小形深鉢で、単節縄文が縦位に施される。3～6は沈線による楕円文・逆U字状文が施される深鉢で、4～6は口縁部が波状となるキャリパー形を呈する。文様区画内には3～5が単節縄文、6には複節縄文が施される。7は角皿状に整形された脚付石皿である。両面ともに使用されており、表面には溝状の擦痕が認められる。脚部は敲打によって作出される。

R A 2 4 4 竪穴住居跡 (第2分冊 第73図)

時 期 大木10式併行期 位 置 N3区 平 面 形 不整形円形
規 模 長軸3.01m・短軸2.59m、深さ0.15m 重複関係 不明 掘込面 削平
埋 土 A・B層に大別される。A層は竪穴埋土、B層はピット埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 複 式 炉 中央部付近より北西寄りに構築され、石囲部Iに深鉢が正位埋設される。
出土遺物 (第3分冊 第124図1～4) 1は複式炉に正位埋設された深鉢である。地文には単節縄文のみが縦位に施される。2・4は沈線による横S字状文・J字状文が横位に展開して描かれる深鉢である。地文には単節縄文が施される。3はJ字状文が施される深鉢である。

R E 2 4 5 竪穴住居跡 (第2分冊 第74図)

時 期 不明 位 置 N3区 平 面 形 楕円形?
規 模 長軸3.18m・短軸2.43m、深さ0.28m 重複関係 RD1007に切られる。
掘 込 面 削平 埋 土 A～E層に大別され、ともに竪穴埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 炉 なし 出土遺物 なし

R A 2 4 6 竪穴住居跡 (第2分冊 第74図)

時 期 大木9式併行期 位 置 M3区 平 面 形 不整楕円形?
規 模 長軸3.31m・短軸2.82m、深さ0.15m 重複関係 なし
掘 込 面 削平 埋 土 A～C層に大別される。A層は竪穴埋土、B・C層はピット埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 石 囲 炉 中央部付近より北東寄りに構築され、石囲部は楕円形を呈する。
出土遺物 (第3分冊 第124図5) 5は体部から口縁部にかけて窄まる小形深鉢で、器面には地文のみが施される。

R A 2 4 7 竪穴住居跡 (第2分冊 第74図)

時 期 大木10式併行期 位 置 M3区 平 面 形 不整円形?
規 模 長軸2.79m・短軸2.78m、深さ0.32m 重複関係 不明
掘 込 面 削平 埋 土 A・B層に大別される。A層は竪穴埋土、B層はピット埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 複 式 炉 中央部付近より北西寄りに構築され、石囲部は方形を呈する。北西壁に接して浅い掘り込みがある。
出土遺物 (第3分冊 第124図6・7) 6は無文の深鉢で、体部上半を欠く。7は沈線による楕円文・逆U字状文が描かれる深鉢口縁部片で、波状口縁を呈する。

R A 2 4 8 竪穴住居跡 (第2分冊 第75図)

時 期 大木9式併行期 位 置 M3区 平 面 形 不整円形?
規 模 長軸3.17m・短軸2.92m以上、深さ0.29m 重複関係 不明
掘 込 面 削平 埋 土 A～C層に大別され、ともに竪穴埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 複 式 炉 石囲部はI・IIの2段あり、石囲部に接して浅い掘り込みがある。
出土遺物 (第3分冊 第124図8～11) 8は地文のみが施される深鉢で、体部上半を欠く。9・10は沈線による区画文が描かれる深鉢口縁部片である。9は波状口縁を呈し、逆U字状文が描かれる。11はミニチュア土器で、地文には単節縄文が施される。

R A 2 4 9 竪穴住居跡 (第2分冊 第75図)

時 期 大木9式併行期 位 置 M3区 平 面 形 円形?
規 模 長軸・短軸不明、深さ0.25m 重複関係 なし
掘 込 面 削平 埋 土 A～C層に大別される。A・B層は竪穴埋土、C層はピット埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 石 囲 炉 中央部付近より北東寄りに構築され、石組部は楕円形を呈する。
出土遺物 (第3分冊 第124図12) 12は地文のみが施される深鉢口縁部片である。

R A 2 5 0 竪穴住居跡 (第2分冊 第76図)

時 期 不明 位 置 M4区 平 面 形 不整円形?
規 模 長軸3.21m・短軸3.15m、深さ0.06m 重複関係 なし
掘 込 面 削平 埋 土 A～C層に大別される。A層は周溝埋土、B・C層はピット埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 炉 なし 出土遺物 なし

R A 2 5 1 竪穴住居跡 (第2分冊 第76図)

時 期 不明 位 置 M4区 平 面 形 不整円形? 重複関係 不明
規 模 長軸3.58m・短軸3.01m以上、深さ0.13m 掘 込 面 削平 床面の状態 ほぼ平坦
埋 土 A～D層に大別される。A・B層は竪穴埋土、C・D層はピット埋土である。
複 式 炉 中央部付近より東寄りに構築され、東壁に接して浅い掘り込みがある。 出土遺物 なし

R A 2 5 2 竪穴住居跡 (第2分冊 第77図)

時 期 大木10式併行期 位 置 M4区 平 面 形 不整楕円形
規 模 長軸4.95m・短軸4.38m、深さ0.28m 重複関係 不明 掘 込 面 削平
埋 土 A～G層に大別される。A～D層は竪穴埋土、E層は周溝埋土、F・G層はピット埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦。部分的に床構築土(貼床)が認められる。 複 式 炉 石囲部はI・IIの2段あり、石囲部Iに正位深鉢が埋設される(正位)。東壁に接して浅い掘り込みがある。
出土遺物(第3分冊 第125図1～3) 1は石囲部Iに正位埋設された樽形状の深鉢で、体部下半は人為的に壊される。複合口縁で、口縁部は無文帯となり、地文には複節縄文が縦位に施される。2は体部下半欠損の深鉢で、波状口縁を呈する。隆線によるC字状の曲線的モチーフが横位に展開し、地文には単節縄文が施文される。3は沈線による区画文が描かれる深鉢口縁部片で、波状口縁を呈する。

R A 2 5 3 竪穴住居跡 (第2分冊 第76図)

時 期 大木9式併行期 位 置 M4区 平 面 形 円形?
規 模 長軸2.25m・短軸2.32m、深さ0.21m 重複関係 なし 掘 込 面 削平
埋 土 A・B層に大別される。A層は竪穴埋土、B層は炉埋土である。 床面の状態 ほぼ平坦
複 式 炉 中央部付近より南寄りに構築。石組部は楕円形を呈し、石囲部に接して浅い掘り込みがある。
出土遺物(第3分冊 第125図4) 4は沈線による区画文・波状文が施される深鉢体部片である。

R A 2 5 4 竪穴住居跡 (第2分冊 第77図)

時 期 大木9式併行期 位 置 M4区 平 面 形 不整楕円形
規 模 長軸3.83m以上・短軸3.28m、深さ不明 重複関係 なし
掘 込 面 削平 埋 土 A・B層に大別される。A層は竪穴埋土、B層は炉埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦。石囲炉に接して床構築土(貼床)が認められる。
石 囲 炉 中央部付近より南寄りに構築され、石組部は円形を呈する。
出土遺物(第3分冊 第125図5) 5は沈線による逆U字状文が施される深鉢口縁部片である。

R A 2 5 5 竪穴住居跡 (第2分冊 第77図)

時 期 大木9式併行期 位 置 M4区 平 面 形 不整円形
規 模 長軸3.12m・短軸2.85m、深さ不明 重複関係 R G1006に切られる。
掘 込 面 削平 埋 土 罹災 床面の状態 ほぼ平坦
複 式 炉 中央部付近より南西寄りに構築。石組部は円形を呈し、石囲部に接して浅い掘り込みがある。
出土遺物 (第3分冊 第125図6) 6は沈線による逆U字状文が施される深鉢口縁部片である。

R A 2 5 6 竪穴住居跡 (第2分冊 第78図)

時 期 不明 位 置 M3区 平 面 形 不明 規 模 不明
重複関係 不明 埋 土 A～C層に大別される。A層は炉埋土、B層は周溝埋土、C層はピット埋土である。
掘 込 面 削平 床面の状態 ほぼ平坦
複 式 炉 石組部は楕円形を呈する。石囲部に接して浅い掘り込みがある。 出土遺物 なし

R A 2 5 7 竪穴住居跡 (第2分冊 第78図)

時 期 大木9式併行期 位 置 M3区 平 面 形 不整円形
規 模 長軸3.99m以上・短軸3.48m以上、深さ不明 重複関係 不明
掘 込 面 削平 埋 土 A・B層に大別される。A層は周溝埋土、B層はピット埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 炉 なし
出土遺物 (第3分冊 第125図7) 7は地文のみが施される深鉢体部片である。

R A 2 5 8 竪穴住居跡 (第2分冊 第78図)

時 期 大木9式併行期 位 置 M3区 平 面 形 不整円形
規 模 長軸4.30m以上・短軸4.39m、深さ0.18m 重複関係 不明 掘 込 面 削平
埋 土 A～D層に大別される。A・B層は竪穴埋土、C層は周溝埋土、D層はピット埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 複 式 炉 中央部付近より北西寄りに構築され、石組部は円形を呈する。北西壁に接して浅い掘り込みがあり、壁寄りにピットが掘り込まれる。
出土遺物 (第3分冊 第126図1・2) 1は波状口縁を呈する深鉢で、底部を欠く。地文には単節縄文が縦位に施される。2は隆沈線による楕円区画文が描かれる深鉢で、連結点に小渦巻文が施される。地文には複節縄文が縦位に施される。

R A 2 5 9 竪穴住居跡 (第2分冊 第79図)

時 期 大木10式併行期 位 置 M3区 平 面 形 不整楕円形
規 模 長軸3.53m・短軸2.78m以上、深さ0.13m 重複関係 不明 掘 込 面 削平
埋 土 A～C層に大別される。A層は竪穴埋土、B層は周溝埋土、C層はピット埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 複 式 炉 中央部付近より北東寄りに構築され、深鉢が埋設される (正位)。石囲部に接して浅い掘り込みがある。
出土遺物 (第3分冊 第126図3～5) 3は頸部に把手状の突起をもつ壺形の土器で、口縁部および体部下半を欠く。器面には沈線によるS字状文・逆U字状文が描かれ、文様区画内には単節縄文が

施される。4は複式炉に正位埋設された深鉢である。体部上半は人為的に壊され、地文には単節縄文が縦位に施される。5は隆沈線による曲線的な文様が描かれる深鉢体部片である。

R A 2 6 0 竪穴住居跡 (第2分冊 第79図)

時 期 不明 位 置 M3区 平 面 形 不整形 規 模 長軸2.71m・短軸
2.45m、深さ0.25m 重 複 関 係 なし 掘 込 面 削平 埋 土 A～C層に
大別される。A・B層は竪穴埋土、C層はピット埋土である。 床 面 の 状 態 ほぼ平坦
炉 なし

出土遺物 (第3分冊 第126図6) 6は器台で、台部に孔が施される。地文には単節縄文が縦位に施される。

R A 2 6 1 竪穴住居跡 (第2分冊 第79図)

時 期 大木9式併行期 位 置 M3区 平 面 形 不明
規 模 長軸不明・短軸3.90m以上、深さ0.18m
重 複 関 係 R A 2 6 2 に 切 ら れ る 。 掘 込 面 削平
埋 土 A～C層に大別される。A層は竪穴埋土、B層は炉埋土、C層はピット埋土である。
床 面 の 状 態 ほぼ平坦 石 囲 炉 中央部付近より東寄りに構築され、石組部は方形を呈する。
埋 設 土 器 北西端の床面に第127図4～6の土器が埋設される (正位)。本来は1個体の土器であるが保
存状態が悪く、全体的に脆いどきであった。図示されたのは比較的残りが良好な部分である。
出 土 遺 物 (第3分冊 第127図1～6) 1・4～6は地文のみが施される深鉢である。4～6は同一個
体の埋設土器片であるが、復元には至らなかった。2は2条1組の沈線による楕円文と懸垂文が
連結して施される深鉢体部片である。3は隆沈線による小渦巻文と懸垂文が連結して施される
深鉢口縁部片である。

R A 2 6 2 竪穴住居跡 (第2分冊 第80図)

時 期 大木10式併行期 位 置 M3区 平 面 形 不整形
規 模 長軸3.65m・短軸3.01m、深さ0.36m 重 複 関 係 R A 2 6 1 を 切 る 。
掘 込 面 削平 埋 土 A・B層に大別される。A層は竪穴埋土、B層はピット埋土である。
床 面 の 状 態 ほぼ平坦 複 式 炉 中央部付近より西寄りに構築され、石囲部Iに深鉢が埋設される
(正位)。西壁に接して浅い掘り込みがあり、壁寄りにピットが掘り込まれる。
出 土 遺 物 (第3分冊 第127図7・8) 7・8は体部上半に沈線による曲線的な文様が横位に展開して描
かれる深鉢である。文様区画内には複節縄文が施される。7は石囲部Iに正位埋設された深鉢
で、体部上半は人為的に壊される。

R A 2 6 3 竪穴住居跡 (第2分冊 第80図)

時 期 大木10式併行期 位 置 M3区 平 面 形 方形?
規 模 長軸5.42m・短軸5.05m、深さ0.99m 重 複 関 係 不明 掘 込 面 削平
埋 土 A～D層に大別される。A・B層は竪穴埋土、C層は周溝埋土、D層はピット埋土である。
床 面 の 状 態 ほぼ平坦 複 式 炉 中央部付近より西寄りに構築され、西壁に接して浅い掘り込みが
ある。

出土遺物 (第3分冊 第128図1～第129図9) 1は波状口縁を呈し、体部上半にはJ字状文が横位に展開して描かれる。2は体部上半欠損の深鉢で、体部に把手状の突起をもつ。3は隆沈線による渦巻文と懸垂文が連結して描かれる小形深鉢で、口縁部を欠く。4は隆沈線による横S字状文が横位に展開して描かれる深鉢で、底部を欠く。文様区画内には複節縄文が充填施文される。5は体部上半欠損の地文のみが施される深鉢である。6は、C字状文が描かれる深鉢である。7・8は同一個体の深鉢で、沈線によるC字状文が描かれる。9は基部欠損の斧状土製品である。両面に単節縄文が施される。

R A 2 6 4 竪穴住居跡 (第2分冊 第81図)

時 期 大木10式併行期 **位 置** M4区 **平面形** 不整形
規 模 長軸5.49m・短軸4.65m、深さ0.55m **重複関係** 不明 **掘込面** 削平
埋 土 A～H層に大別される。A～E層は竪穴埋土、F・G層は周溝埋土、H層はピット埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 **複式炉** 中央部付近より西寄りに構築され、石組部は方形を呈する。西壁に接して浅い掘り込みがある。

出土遺物 (第3分冊 第130図1～6) 1は口縁部および体部下半欠損の深鉢で、地文には結節をもつ単節斜縄文が縦位に施される。2は頸部に屈曲をもつ深鉢で、地文には単節縄文が縦位に施される。3は沈線による横S字状文が横位に展開して描かれる深鉢である。4は横位平行沈線により文様帯が区切られ、文様区画内に横S字状文が施される。5は波状口縁を呈する小形深鉢で、地文には単節縄文が縦位に施される。6は石棒である。

R A 2 6 5 竪穴住居跡 (第2分冊 第81図)

時 期 大木8b～9式併行期 **位 置** M4区 **平面形** 不整形？
規 模 長軸3.60m以上・短軸2.80m以上、深さ0.42m **重複関係** なし **掘込面** 削平
埋 土 A～E層に大別される。A～C層は竪穴埋土、D層は周溝埋土、E層はピット埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 **複式炉** 中央部付近より南西寄りに構築され、石組部は円形を呈する。西壁に接して浅い掘り込みがある。

出土遺物 (第3分冊 第131図1・2) 1は隆沈線による渦巻文を連結点とした楕円・逆U字状文が施される深鉢ある。口縁部は緩やかな波状を呈し、地文には複節縄文が施される。2は3単位の突起を持つ深鉢で波頂下に渦巻文が施される。体部器面には大渦巻文を中心とした文様が小渦巻文を介して横位に展開する。

R A 2 6 6 竪穴住居跡 (第2分冊 第82図)

時 期 不明 **位 置** K4区 **平面形** 不明
規 模 長軸2.10m以上・短軸1.90m以上、深さ0.09m **重複関係** なし
掘込面 削平 **埋 土** A層は竪穴埋土である。 **床面の状態** ほぼ平坦
土器囲炉 中央部付近より南西寄りに構築され、土器囲部 (第132図1～6) は楕円形を呈する。
出土遺物 (第3分冊 第132図1～6) 1～6は同一個体の深鉢片で、地文には櫛目文が密に施される。

RA267 竪穴住居跡 (第2分冊 第82図)

時期 大木9式併行期 **位置** K4区 **平面形** 円形?
規模 長軸5.32m・短軸4.75m、深さ0.09m **重複関係** なし **掘込面** 削平
埋土 A～D層に大別される。A層は竪穴埋土、B層は周溝埋土、C・D層はピット埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦。石組部付近に床構築土(貼床)が認められる。
複式炉 中央部付近より南寄りに構築。石組部は楕円形を呈し、南壁に接して浅い掘り込みがある。
出土遺物 (第3分冊 第132図7～10) 7は口縁部が内湾する深鉢で、地文には単節縄文が縦位に施される。8は隆沈線による小渦巻文と楕円文が連結して描かれる小形深鉢で、地文は複節縄文を縦位に施す。9は隆沈線による小渦巻文と懸垂文が連結して描かれる小形深鉢である。地文は複節縄文を縦位に施す。10は基部に孔が施される斧状土製品で、全面に複節縄文が施される。

RA268 竪穴住居跡 (第2分冊 第82図)

時期 大木9式併行期 **位置** M3区 **平面形** 不整形?
規模 長軸2.82m・短軸2.68m以上、深さ0.13m **重複関係** 不明
掘込面 削平 **埋土** A・B層に大別される。A層は竪穴埋土、B層は炉埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 **石囲炉** 中央部付近に構築され、石組部は方形を呈する。
出土遺物 (第3分冊 第133図1・2) 1は隆沈線による小渦巻文を連結点とする楕円文が施される深鉢口縁部片である。2は地文のみが施される深鉢で、体部上半を欠く。

RA269 炉跡 (第2分冊 第83図)

時期 大木8b-1式併行期 **位置** L3区 **平面形** 不明
規模 不明 **重複関係** 不明 **掘込面** 削平 **埋土** A層は炉埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 **石囲炉** 石組部は楕円形を呈する。
出土遺物 (第3分冊 第133図3～6) 3・4は隆沈線による有棘渦巻文と懸垂文が連結して描かれる深鉢口縁部片で、波状口縁を呈する。4はキャリパー形深鉢である。5は口縁部欠損の小形深鉢で、器面には2条1組の平行沈線による懸垂文が施される。地文には単節縄文が縦位に施文される。6は深鉢の土器片を剥離加工した土製円盤である。

RA270 竪穴住居跡 (第2分冊 第83図)

時期 大木8b-3式併行期 **位置** L3区 **平面形** 不明
規模 長軸1.68m以上・短軸1.10m以上、深さ0.09m **重複関係** 不明
掘込面 削平 **埋土** A層は竪穴埋土である。 **床面の状態** ほぼ平坦 **炉** 不明
出土遺物 (第3分冊 第134図1～6) 1は地文のみが施される深鉢で、波状口縁を呈する。2は隆沈線による有棘渦巻文と懸垂文が連結して施される深鉢で、波状口縁を呈する。3～6は口縁部がラッパ状に開く深鉢で、3は3単位、4・6は2単位の波頂部を持つ。体部器面には大渦巻文を中心とした文様が描かれる。地文には3が複節縄文、4～6には単節縄文が縦位に施される。

RA271 竪穴住居跡 (第2分冊 第83図)

時期 大木8b式併行期 **位置** L3区 **平面形** 不整形?

規 模 長軸2.70m以上・短軸2.78m以上、深さ0.31m **重複関係** 不明 **掘込面** 削平
埋 土 A～F層に大別される。A～C層は竪穴埋土、D層は周溝埋土、E・F層はピット埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 **炉** 不明

出土遺物（第3分冊 第135図1～第136図11） 1は口縁部下に橋状把手をもつ無文の樽形土器である。器面には隆線による方形の区画文が施される。2は頸部に屈曲をもつキャリパー形深鉢で、口縁部下に渦巻文・楕円文を加飾する橋状把手をもつ。体部には3条1組の平行沈線による渦巻文と懸垂文が連結して描かれ、地文には複節縄文が施される。3～11は隆沈線による有棘渦巻文・渦巻文が懸垂文と連結して施される深鉢片である。3は波状口縁を呈し、器面には口縁部無文帯下の2条1組の平行沈線から垂下する有棘渦巻文に加飾された懸垂文が施される。11は底部穿孔の深鉢底部である。

RA272 竪穴住居跡（第2分冊 第83図）

時 期 大木8b式併行期 **位 置** L3区 **平面形** 不整楕円形？

規 模 長軸3.69m・短軸2.67m、深さ0.31m

重複関係 RA001に切られ、RA273を切る。 **掘込面** 削平

埋 土 A～E層に大別される。A～C層は竪穴埋土、D・E層はピット埋土である。

床面の状態 ほぼ平坦 **地床炉** 中央部付近に認められる。

出土遺物（第3分冊 第137図1～9） 1～4・9は沈線による有棘渦巻文・円文・波状文が施される深鉢である。1は3条1組の平行沈線に区画された有棘渦巻文・波状文が施される。2は口縁部にかけて直線的に開く小形深鉢で、体部上半には3条1組の平行沈線に区画された波状文が描かれる。下半には平行沈線から垂下する懸垂文が施される。地文には単節縄文が縦位に施文される。5～8は隆沈線による有棘渦巻文・渦巻文と懸垂文が連結して描かれる深鉢体部片である。

RA273 竪穴住居跡（第2分冊 第85図）

時 期 大木8b式併行期 **位 置** L3区 **平面形** 不明

規 模 長軸・短軸不明、深さ0.06m **重複関係** RA001・272に切られる。

掘込面 削平 **埋 土** A～C層に大別される。A層は竪穴埋土、B・C層はピット埋土である。

床面の状態 ほぼ平坦 **炉** 不明

出土遺物（第3分冊 第138図1～3） 1は口縁部が欠損する深鉢で、沈線による大渦巻文を中心に円文が連結して描かれる。地文には複節縄文が施される。2は隆沈線による有棘をもつ円文と懸垂文が連結して施される深鉢体部片である。3は体部上半欠損の小形深鉢で、下半には2条1組の沈線による懸垂文が垂下する。地文には複節縄文が施される。

RA274 竪穴住居跡（第2分冊 第85図）

時 期 大木8b式併行期 **位 置** L3区 **平面形** 不明

規 模 長軸・短軸不明、深さ0.22m **重複関係** RA511に切られる。 **掘込面** 削平

埋 土 A・B層に大別される。A層は竪穴埋土、B層はピット埋土である。

床面の状態 ほぼ平坦 **炉** 不明 **埋設土器** 中央部付近より北寄りの床面に埋設される（正位）。

出土遺物（第3分冊 第138図4・5） 4は埋設土器で、体部上半および底部は人為的に壊される。地文

には単節縄文が縦位に施される。5は床面から倒立の状態出土し、体部上半は人為的に壊される。器面には隆沈線による懸垂文が垂下し、地文に複節縄文が縦位に施される。

R A 2 7 5 竪穴住居跡 (第2分冊 第84図)

時 期 大木8b式併行期 位 置 L3区 平 面 形 不明
規 模 長軸3.40m・短軸2.65m以上、深さ0.29m 重複関係 不明 掘込面 削平
埋 土 A～C層に大別される。A層は竪穴埋土、B層は周溝埋土、C層はピット埋土である。
床面の状態 ほぼ平坦 炉 なし

出土遺物 (第3分冊 第138図6～9) 6は波状口縁を呈する深鉢口縁部片で、口唇部下には隆線による長楕円文が横位に施される。7は隆沈線による懸垂文が描かれる深鉢口縁部片である。8はキャリパー形深鉢の口縁部片で、2条1組の隆沈線が平行して施される。9は隆沈線による懸垂文と多条の横位平行沈線が施される深鉢体部片である。

R A 0 0 1 竪穴住居跡 1975年度調査 (第2分冊 第85図)

1982：盛岡市教委『柿ノ木平遺跡－昭和50・51年度発掘調査報告－』参照

(2) 縄文時代の掘立柱建物跡 (第2分冊第86・87図)

RB101 建物跡 (第2分冊 第86図)

位置 L1・2区 **平面形** 桁行2間・梁間1間の南北棟
規模 南北2間(4.00m・13尺2寸)・東西1間(2.69m・8尺9寸)
重複関係 RA054に切られる。 **棟方向** P1とP3を通る柱筋でN24°W
柱間寸法 桁行柱間は平均2.00m(6尺6寸)である。西側柱筋はP1・2間-1.86m(6尺1寸)、P2・3間-2.14m(7尺1寸)である。東側柱筋はP4・5間-1.90m(6尺3寸)、P5・6間2.10m(6尺9寸)である。梁間柱間は2.69m(8尺9寸)である。
柱穴 P1・2・5・6の柱穴より柱痕跡が確認された。柱痕跡径は0.37~0.54m、掘方径は0.70~1.04mをはかる。埋土は、柱痕跡(A層)および掘方(B・C層)により、各柱穴の深さは以下のとおりである。P1-0.80m・P2-0.56m・P3-0.80m・P4-0.48m・P5-0.62m・P6-0.89m **出土遺物** なし

RB102 建物跡 (第2分冊 第86図)

位置 L2区 **平面形** 多角形を呈する。
重複関係 不明 **棟方向** P1とP4を通る柱筋でE12°N
柱穴 P3を除く柱穴より柱痕跡が確認された。柱痕跡径は0.44~0.51m、掘方径は0.60~0.96mをはかる。埋土は、柱痕跡(A層)および掘方(B・C層)により、各柱穴の深さは以下のとおりである。P1-0.50m・P2-0.70m・P3-0.38m・P4-0.63m・P5-1.25m・P6-0.84m **出土遺物** なし

RB103 建物跡 (第2分冊 第87図)

位置 L2区 **平面形** 桁行2間・梁間1間の南北棟
規模 南北2間(4.43m・14尺6寸)・東西1間(2.53m・8尺3寸)
重複関係 不明 **棟方向** P1とP3を通る柱筋でN6°E
柱間寸法 桁行柱間は平均2.22m(7尺3寸)である。西側柱筋はP1・2間-2.20m(7尺3寸)、P2・3間-2.23m(7尺4寸)である。東側柱筋はP4・5間-2.20m(7尺3寸)、P5・6間2.23m(7尺4寸)である。梁間柱間は2.53m(8尺3寸)である。
柱穴 P1・5・6の柱穴より柱痕跡が確認された。柱痕跡径は0.21~0.39m、掘方径は0.70~1.05mをはかる。埋土は、柱痕跡(A層)および掘方(B・C層)により、各柱穴の深さは以下のとおりである。P1-0.64m・P2-0.21m・P3-0.67m・P4-0.58m・P5-0.58m・P6-0.57m
出土遺物 (第3分冊 第139図1~5) 1・2は隆沈線による渦巻文と懸垂文が連結して施される深鉢口縁部片である。3は沈線による2条1組の波状文が垂下する深鉢体部片である。4は沈線による有棘をもつ円文と懸垂文が連結して施される深鉢体部片である。5は削器で、背面下端に調整剥離が施される。

(3) 縄文時代の土坑 (第2分冊 第88~148図)

縄文時代の土坑は、中津川に面した段丘北縁を中心に調査区全域で検出されている。土坑は平面の形状から大きく3形状(円形・楕円形・溝状)に分類される。本報告書では概要を記し、規模等については第1表~第16表にまとめた。

円形土坑 平面形が円形を呈する土坑は、遺跡全域より検出されているが、特に遺跡北辺の中津川に面した段丘沿いに構築された傾向があり、特に第13・21次調査区(M2区)に集中する。

検出された円形土坑は、断面形状がフラスコ形を呈するもの(RD410・412・427・445・468・472・476・477・486・497・505・543・576・611~614・637・642~646・662・677・696・707・715・722・785~788・842・869~871・885・890・891など)と、壁が外傾するもの(RD059~152・154~260・262~284・286~296・304~308・339・392~401・426・431~436・499・570・617~620・795・796・798・804・811・815~835など)に分けられる。しかし、柿ノ木平遺跡が立地する段丘の地山は砂礫層で、土坑の基盤とする層も砂質シルトか砂礫層であることから、壁が外傾する土坑の多くは、本来フラスコ形を呈していたものが崩壊したものである可能性がある。

楕円形土坑 平面形が楕円形を呈する土坑は、第9・12・16・18次(L1・2区)調査区より数多く検出された(RD053・056・063~065・067・069・070・075・076・079~083・085・088・089・094~097・099・103・105・106・108・110~115・117・119・123~125・129~131・133~136・139・141~145・147~152・154・155・163~165・167・169・170・172・175~177・182・184・186・191~193・197・199~201・206・209・210・213・223~227・229~231・233・235・237・238・240・241・252・254・260・264・268~271・273・289・290・314・376・380・419・426・434・436・440・466・487・494・501・508・513・560・561・593・620・625・628・630・690・691・697・726・731・743・751・756・761・767・776・808・817・818・826・830・834・836・837)。

主な分布範囲は前述したようにL1・2区内であるが、特に集中するのはL1区内で竪穴住居跡が集中するL2・M2区の北側になる。その地域は、段丘北西端にあたり、土坑域の外側には扇状に竪穴住居域が広がる。

出土遺物 (第3分冊 第140図1~22) 1・4・6・7・14・15・17・19・21・22は沈線による逆U字状文が施される深鉢片である。文様区画内には地文・刺突文が充填施文される。17は波状口縁を呈し、地文には複節縄文が縦位に施される。2・8~11・13は沈線による横S字状文が施される深鉢片で、2・8は波状口縁を呈する。13は文様区画内に刺突列が充填施文される。8は口縁部下に刺突列が施され、地文には複節縄文が横位に施文される。3はラッパ状に口縁部が開く小形深鉢口縁部片で、沈線による渦巻文と懸垂文が連結して描かれる。5は斧状土製品の刃部である。両面に沈線による長楕円文が描かれ、文様区画内には単節縄文が充填施文される。12は沈線による三日月状の区画文内に刺突が施される深鉢口縁部片である。16は隆線による横S字状文が施される深鉢体部片である。18は深鉢の土器片を剥離加工した土製円盤である。20は鱗節形のヒスイ大珠である。

(第3分冊 第141図1~13) 1は地文のみが施される深鉢口縁部片である。2・10・11は隆沈線による渦巻文・円文・懸垂文が連結して施される深鉢体部片である。3・4は沈線による

逆U字状文が施される深鉢片である。5は多条の沈線による楕円状文が描かれる深鉢体部片である。6・7は沈線による曲線的モチーフが描かれる深鉢片である。8は沈線による幾何学的モチーフが描かれる深鉢口縁部片である。9は刻目文に加飾された隆線が施される深鉢体部片で、地文には結束のある斜縄文が縦位に施される。12・13は沈線による渦巻文・逆U字状文が描かれる深鉢片である。

(第3分冊 第142図1～16) 1は深鉢の土器片を剥離加工した土製円盤である。2は口唇部に小突起をもつ深鉢口縁部片で、器面には沈線による区画文が施される。3は口縁部下に刻目文に加飾された隆線と沈線による幾何学的モチーフが描かれる深鉢口縁部片である。4・6～10・12は沈線による曲線的モチーフが描かれる深鉢片である。5は地文に撚糸文が縦位に施される深鉢である。11は口唇部および内外面に押し引き状の半裁竹管による刺突文が施される深鉢口縁部片である。13は体部上半欠損の深鉢で、屈曲部に把手を持つ。器面には沈線による円文・長楕円状文が施され、文様区画内には単節縄文が充填施文される。14・16は沈線による楕円文・逆U字状文が施される深鉢片である。15は沈線による区画文が施される深鉢体部片で、刺突文が充填施文される。

(第3分冊 第143図1～11) 1・3は沈線による区画文が施される深鉢片である。2・5・7・8は隆沈線による渦巻文と懸垂文が連結して施される深鉢片である。2は波状口縁を呈し、波頂部下には渦巻文が施される。5は口縁部がラッパ状に開く小形深鉢で、地文には単節縄文が縦位に施される。6・9は沈線による渦巻文と懸垂文が連結して描かれる深鉢で、波状口縁を呈する。9の地文には単節縄文が縦位に施される。10は刻目文に加飾された隆線と網目状の沈線文が施される深鉢口縁部片である。11は頸部に屈曲を持つ深鉢で、口縁部下には沈線が横位に施される。地文には結束のある単節斜縄文が縦位に施文される。

(第3分冊 第144図1～4) 1は隆線による曲線的モチーフが描かれる深鉢体部片である。2は沈線による逆U字状文が施される深鉢口縁部片である。3は基部に孔をもつ斧状土製品で、全面に単節縄文が縦位に施される。4は石棒である。

(第3分冊 第145図1～12) 1は刻目文に加飾された隆線による幾何学的モチーフが描かれる深鉢口縁部片で、山形状の波状口縁を呈する。地文には結束のある羽状縄文が縦位に施される。2は口縁部下に平行沈線と刺突文に加飾された隆帯が施される深鉢口縁部片である。地文には結束のある斜縄文が縦位に施文される。3は多条の沈線による平行沈線・山形文が施される深鉢口縁部片である。4は体部に把手を持つ深鉢口縁部片で、器面には隆線による長楕円文と半裁竹管文が施される。5は波状口縁を呈する深鉢で、口縁部下には撚糸文による山形文が施される。地文には単節縄文が横位に施文される。6は山形状の波状口縁を呈する浅鉢で、波頂部下には渦巻文が施される。地文には単節縄文が縦位に施文される。7は隆沈線による渦巻文と懸垂文が連結して施される深鉢口縁部片である。8・9は口縁部の無文帯と区画する隆帯に沿って刺突文が施される深鉢体部片である。10は刃部欠損で無文の斧状土製品で、基部に孔を持つ。11は沈線による幾何学的モチーフが描かれる深鉢口縁部片である。12は花卉状刺突文が施される深鉢体部片である。

(第3分冊 第146図1～8) 1は沈線による横S字状文が描かれる深鉢で、体部下半を欠く。口縁部には刻目文に加飾された貼付文が施され、地文には単節縄文が縦位に施文される。2は体部下半欠損の深鉢で、波状口縁を呈する。波頂部下よりボタン状貼付文に加飾された2

条1組の隆線が垂下する。器面には多条の平行沈線により弧状文が描かれ、地文には単節縄文が縦位に施される。3・4は沈線による曲線的モチーフが描かれる深鉢口縁部片で、4は波状口縁を呈する。5～7は板状土偶で、頭部および腕部を欠く。表面には貼付文により乳房・臍が表現され、全面に体形に沿うように刺突列が施される。8は小形壺形土器の口縁部片である。

(第3分冊 第147図1～19) 1は沈線による曲線的モチーフと刺突文が施される深鉢口縁部片である。2～4・17は連鎖状隆帯が施される深鉢片で、2・4は波状口縁を呈する。2の内面の波頂部下には円形刺突文が施される。5はボタン状貼付文に加飾された沈線による区画文内に刺突文が充填施文される深鉢口縁部片である。6は口唇部の小突起からボタン状貼付文に加飾された隆線が垂下する深鉢口縁部片である。7は口唇部の小突起に刻みが施される深鉢口縁部片である。8～10は沈線による幾何学的モチーフが描かれる深鉢口縁部で、波状口縁を呈する。11・12は三角形土製品である。表面には沈線文と刺突文が施され、11は中央部に孔が穿たれる。13・14・16は土偶である。13は体部下半で、表面には刺突文が密に施される。14・16は頭部で、隆線により眉・鼻、刺突文により目・口が表現される。15は波状口縁を呈する深鉢で、口縁部下には多条の隆沈線が横位に施される。体部上半にはボタン状貼付文に加飾された連鎖状隆帯が上部文様帯より垂下し、隆帯と連結して体部下半と区画する。地文には単節縄文が縦位に施される。17・18はボタン状貼付文に加飾された隆線による区画文が施される深鉢体部片である。

(第3分冊 第148図1～13) 1・7～11は沈線による曲線的モチーフが描かれる深鉢体部片である。7・8・10は文様の要所にボタン状貼付文が施される。8は体部下半欠損の深鉢で、口縁部に山形状の把手を持つ。体部上半には沈線による大渦卷文が施され、地文には単節縄文が施文される。9は沈線文のみが施される小形深鉢で、波状口縁を呈する。2～4・6は深鉢の土器片を剥離加工した土製円盤である。5は体部に屈曲を持つ深鉢で、器面には隆線・沈線による区画文が描かれる。地文には単節縄文が施される。12は板状土偶の腕部である。上下方向に貫通孔が認められ、両面に沈線による曲線的モチーフが描かれる。13は三角形土製品で、表面には沈線文と単節縄文が施される。

(第3分冊 第149図1～17) 1・4・5・11は原体圧痕文に加飾された隆線による区画文が施される深鉢である。1は波状口縁を呈し、波頂部下および文様の要所にはボタン状貼付文が施される。体部下半の地文には単節縄文が施文される。2・16はボタン状貼付文に加飾された沈線による幾何学的モチーフが描かれる深鉢口縁部片である。3・9・12・17は沈線による区画文が施される深鉢片である。6は口唇部より多条の連鎖状隆帯が垂下する深鉢口縁部片である。7は口頸部に沈線のみが施される無文の壺形状の土器で、肩部に把手を持つ。8は口縁部下に3条1組の平行沈線が施される深鉢口縁部片で、口唇部に小突起を持つ。10は刻目文に加飾された隆線が施される深鉢口縁部片である。13・15は山形状の波状口縁を呈する深鉢口縁部片である。体部には襷状の隆線文が描かれる。14は隆線に区画された口縁部下に刺突文が充填施文される深鉢口縁部片である。

(第3分冊 第150図1～26) 1・2はボタン状貼付文に加飾された隆線および連鎖状隆帯によりJ字状文が描かれる深鉢片である。口縁部には弁状の把手が施され、文様区画内には花弁状刺突文が充填施文される。3・9・15～17は沈線による曲線的モチーフが描かれる深鉢片

である。4・23～25は連鎖状隆帯が施される深鉢片である。4の文様区画内には刺突文・地文が充填施文される。23は沈線による区画文内にボタン状貼付文に加飾された連鎖状隆帯が施される。5・18・20・22・26は沈線による区画文が描かれる深鉢片である。6・10は口唇部から刻目文に加飾された隆帯が垂下する深鉢口縁部である。7は波状口縁を呈する深鉢口縁部で、刻みを持つ波頂部下にはボタン状貼付文が施される。8・19は滑車状の土製円盤で、表面には沈線による渦巻文が施される。8の裏面には刺突文による渦巻文が描かれる。11・12はボタン状貼付文に加飾された刺突列が沈線により区画される深鉢体部片である。14は半裁竹管による多条の横位平行沈線が施される深鉢口縁部片である。21は交互刺突文に加飾された隆線が口唇部より垂下する深鉢口縁部片である。

(第3分冊 第151図1～9) 1は口唇部より櫛状に垂下する隆帯に沿って刺突文が施される深鉢体部片である。2は沈線による区画文内に櫛状の沈線文が描かれる深鉢体部片である。3は矢羽状の沈線文が描かれる深鉢体部片である。4は土偶の体部下半である。下半部が末広がり、自立できる形状を呈する。表面には多条の円形刺突列が施される。5は2個1対のボタン状貼付文に加飾された沈線による大渦巻文が描かれる深鉢口縁部片である。6は沈線による曲線的モチーフが描かれる深鉢口縁部片で、波状口縁を呈する。口縁部は連鎖状隆帯により体部と区画される。7は口縁部文様帯に2条1組の平行沈線による山形文が描かれる深鉢口縁部片である。8・9は沈線による幾何学的モチーフが描かれる深鉢口縁部片である。

(第3分冊 第152図1～13) 1・7・9・10・12は2条または3条1組の平行沈線による区画文が施される深鉢片で、7・9・10は山形状の波状口縁を呈する。2・3・5・6はボタン状貼付文に加飾された連鎖状隆帯または沈線による区画文が施される深鉢口縁部片である。4は板状土偶の体部下半で、自立できる形状を呈する。貼付文により臍が表現され、全面に体形に沿って沈線文・刻目文が施される。8は刻目文に加飾された隆線による区画文が施される深鉢体部片である。11は刻みのある波状口縁を呈する深鉢口縁部片で、波頂部下からは2条1組の円形刺突列が垂下する。13は底部欠損の壺形土器で、地文を持たない無文のものである。器面には入組文状の沈線文が描かれる。

(第3分冊 第153図1～10) 1・8・10は沈線による幾何学的モチーフが描かれる深鉢口縁部片である。2・5は口唇部より櫛状に垂下する隆帯に沿って刺突文が施される深鉢片である。3・4は沈線による曲線的モチーフが描かれる深鉢口縁部片である。3は波状口縁を呈し、波頂部下にはボタン状貼付文が施される。4は刻みのある波状口縁を呈し、地文には複節縄文が施される。6は深鉢の土器片を剥離加工した土製円盤である。7はミニチュア土器である。9は平行沈線による区画文内に沈線による弧状文・Y字状文が描かれる深鉢で、体部下～底部を欠く。地文には単節縄文が施される。

(第3分冊 第154図1～13) 1は地文に単節縄文が縦位に施される鉢形土器である。2・5・9・12・13は沈線による曲線的モチーフが描かれる深鉢口縁部片で、波状口縁を呈する。5は体部に吊手状の把手が施される。3は体部下半欠損の壺形土器で、地文を持たない無文のものである。頸部に橋状把手が施され、体部には沈線による入組文状の沈線文が描かれる。4は沈線による渦巻文が施される深鉢体部片で、地文には網目状撚糸文が施文される。6・7は波状口縁を呈する深鉢口縁部で、平行沈線に区画される口縁部文様帯には渦巻文と懸垂文が連結してが施される。7の地文には単節縄文が縦位に施文される。8は花卉状刺突文が施される

深鉢体部片である。10は口唇部から垂下する隆帯に沿って刺突文が施される深鉢口縁部である。11は沈線による2段の長楕円文が施される深鉢体部片である。

(第3分冊 第155図1～第156図30) 1・2は口縁部に連鎖状隆帯による区画が施される深鉢口縁部片である。3・7・9・11・12・26は沈線による曲線的モチーフが描かれる深鉢口縁部片である。7は波状口縁を呈し、平行沈線による区画文内には渦巻文・山形文が施される。12は口唇部に刻みを持つ小突起を持ち、刺突文が施される。器面には大渦巻文に小渦巻文が連結して施される。4は波状口縁を呈する深鉢で、沈線による曲線的モチーフが描かれる。地文には複節縄文が施される。5は波状口縁を呈する深鉢口縁部片で、波頂部下には孔が施され円形刺突列が垂下する。6・8は隆帯に沿って刺突列が施される深鉢口縁部片である。8は弁状の波状口縁を呈し、波頂部から垂下する隆帯を挟んで2個1対の孔が施される。10は口縁部欠損の壺形土器で、地文を持たない無文のものである。平行沈線により区画された体部上半には沈線による渦巻文が施される。13は波頂部からボタン状貼付文と刺突文に加飾された隆線が垂下する深鉢口縁部である。14は口唇部より円形刺突列が垂下する深鉢口縁部で、体部と区画する沈線に沿って列点文が施される。15・16・18・27は沈線による渦巻文が施される深鉢口縁部片である。17・21・22・29は土偶で、貼付文により乳房・臍が表現される。17・21・22は板状土偶の体部または体部下半で、体形に沿って沈線や刺突列が施される。29は下半部が末広がり、自立できる形状の土偶で、体形に沿って隆線と刺突列が施される。19は花弁状刺突文が施される深鉢体部片である。20は深鉢の土器片を剥離加工した土製円盤である。23・25・28は刺突文または刻目文に加飾された隆線が施される深鉢片である。30はミニチュア土器である。

(第3分冊 第157図1～13) 1・2・4は沈線による曲線的モチーフが描かれる深鉢口縁部である。波状口縁を呈し、4の波頂部には刻みが施される。3・12は刺突文に加飾された隆線が施される深鉢口縁部片である。5は滑車状の環状土製品で、表面には隆線により区画された刺突列が施される。6は沈線による区画文が施されるミニチュア土器である。7は板状土偶の体部である。貼付文により臍が表現され、体形に沿って刺突列が施される。8は滑車状の土製円盤である。表面には沈線による渦巻文、裏面には刺突による区画文が施される。9は内外面に隆線による区画文が施される深鉢体部片である。10は沈線による逆U字状文が施される深鉢口縁部片である。11は深鉢の土器片を剥離加工した土製円盤である。13は沈線による渦巻文・長楕円文が施される深鉢口縁部片である。

(第3分冊 第158図1～11) 1は波状口縁を呈する深鉢で、底部を欠く。口縁部の内外に沈線が施され、波頂部下には孔が穿たれる。口縁部からボタン状貼付文に加飾された逆U字状文や波状文が垂下し、地文には単節縄文が施される。2・3・7は沈線による幾何学的モチーフが描かれる深鉢口縁部片で、波状口縁を呈する。4・5は連鎖状隆帯が施される深鉢口縁部片で、4の要所にはボタン状貼付文が施される。6は波状口縁を呈する深鉢で、底部を欠く。口唇部に原体圧痕文が施され、隆線により区画された口縁部文様帯には渦巻文と懸垂文が連結して描かれる。地文には複節縄文が施される。8～10は刺突文または刻目文により加飾された隆線が施される深鉢口縁部片である。8の要所にはボタン状貼付文、10の口唇部には沈線が施される。11は隆線による区画文内に花弁状刺突文が充填施される深鉢体部片である。

(第3分冊 第159図1～10) 1は体部下半欠損の深鉢で、口縁部に山形状の把手と刻みを持つ小突起が施される。器面にはボタン状貼付文に加飾された沈線による渦巻文・Y字状文が

描かれる。2・6は波状口縁を呈する深鉢で、円形刺突文に加飾された沈線による幾何学的モチーフが描かれる。6の地文には単節縄文が施される。3・4・8は波状口縁を呈する深鉢口縁部片で、8の波頂部には刻みが施される。器面には沈線による曲線のモチーフが描かれる。5はボタン状貼付文に加飾された沈線が施される深鉢口縁部片である。7は両面に刺突文が施される土偶体部で、貼付文により臍が表現される。9・10は沈線による長楕円文・入組状文が施される深鉢片で、文様区画内には円形刺突列が充填施文される。9は波状口縁を呈し、波頂部下には孔が施される。

(第3分冊 第160図1～19) 1は刺突文に加飾された隆線により幾何学的モチーフが描かれる深鉢口縁部片である。2・6・9・10・13・15～18は沈線による曲線のモチーフが描かれる深鉢片である。波頂部下から6は連鎖状隆帯、13は刺突文に加飾された隆線が垂下する。6・15は平行沈線間に刺突文が施される。3はボタン状貼付文・刺突文が施される深鉢口縁部片である。4は連鎖状隆帯により区画された口縁部の無文帯に、沈線による渦巻文が施される深鉢口縁部片である。5・14は深鉢の土器片を剥離加工した土製円盤である。7は平行沈線による区画内に襷状の沈線文が描かれる深鉢体部片である。8は沈線による区画文内に円形刺突文が充填施文される深鉢体部片である。11はミニチュア土器である。12は波頂部より垂下する隆帯に沿って刺突文が施される深鉢口縁部片である。19は平行沈線に区画された体部上半に渦巻文が描かれる深鉢体部片で、沈線に沿って円形刺突文が施される。体部下半には地文の網目状然糸文が施文される。

(第3分冊 第161図1～6) 1は口縁部に弁状の把手を持つ深鉢である。ボタン状貼付文に加飾された沈線による曲線のモチーフが描かれ、地文には単節縄文が施される。2は口縁部が沈線により区画される深鉢で、口唇部から刻目文に加飾された隆線が斜位に垂下する。地文には無節縄文が施される。3は口唇部から垂下する隆線に刺突文が沿って施される深鉢口縁部片である。4は樽形土器の口頸部で、橋状把手が施される。5は沈線による曲線のモチーフが描かれる深鉢で、文様区画内には複節縄文が充填施文される。6は刻みを持つ波状口縁を呈する深鉢で、体部下半～底部を欠く。口縁部文様帯には沈線による曲線のモチーフが描かれる。

(第3分冊 第162図1～10) 1は三日月状の貼付文に加飾された沈線による逆L字状文が体部上半に展開する深鉢で、底部を欠く。地文には単節縄文が縦位に施される。2は底部欠損の波状口縁を呈する深鉢で、波頂部下にはボタン状貼付文が施される。体部上半はボタン状貼付文に加飾された隆線による幾何学的モチーフで区画され、下半には単節縄文が施される。3・4・6は沈線による曲線のモチーフが描かれる深鉢口縁部片である。5はミニチュア土器である。7は波状口縁を呈する深鉢口縁部片で、ボタン状貼付文に加飾された平行沈線・長楕円文が連結して施される。8は耳栓か。9・10は深鉢の土器片を剥離加工した土製円盤である。

(第3分冊 第163図1～11) 1は沈線による幾何学的モチーフが描かれる深鉢口縁部片である。2～5・11は沈線による曲線のモチーフが描かれる深鉢口縁部片で、2・4の波頂部には刺突文が施される。6は角皿状に整形された脚付石皿である。7・8は口唇部から垂下する隆線に沿って刺突文が施される深鉢口縁部片である。9は体部上半に沈線による区画文が施される小形深鉢である。地文には単節縄文が施される。10はボタン状貼付文と刺突文に加飾された沈線による区画文が施される深鉢口縁部片である。

(第3分冊 第164図1～11) 1は沈線による渦巻文・楕円状文が施される深鉢口縁部片で、波状口縁を呈する。2～9は沈線による曲線的モチーフが描かれる深鉢片で、文様区画内には地文が充填施文される。10・11は口唇部から垂下する隆線に沿って刺突文が施される深鉢である。

(第3分冊 第165図1) 1は口縁部に山形状の把手を持つ深鉢で、器面には沈線による渦巻文やボタン状貼付文に加飾された幾何学的モチーフが描かれる。地文には単節縄文が施される。

(第3分冊 第166図1～7) 1は弁状の波状口縁を呈する深鉢で、口唇部から垂下する襷状の隆線に沿って刺突文が施される。地文には単節縄文が施文される。2・4は波状口縁を呈する深鉢で、磨消縄文手法による平行沈線と入組文状のモチーフが連結して描かれる。3は円形刺突文に加飾された隆線が施される深鉢口縁部片である。5・6は体部中位が屈曲する算盤玉状の鉢形土器である。6は体部上半に沈線によるL字状文が施され、地文には単節縄文が縦位に施文される。7は波状口縁を呈する深鉢口縁部片で、波頂部から隆沈線による渦巻文が垂下する。

(第3分冊 第167図1～10) 1は体部中位が屈曲する算盤玉状の鉢形土器である。体部上半には三日月状の貼付文に加飾された沈線によるL字状文が描かれ、文様区画内には単節縄文が充填施文される。2は波状口縁を呈する深鉢口縁部片で、平行沈線と渦巻文の組み合わせによる曲線的モチーフが描かれる。3は襷状の沈線文が描かれる深鉢口縁部片である。4は脚付のミニチュア土器で、地文には単節縄文が施される。5・8は深鉢の土器片を剥離加工した土製円盤である。6は体部上半に隆線による区画が施される深鉢で、刻みを持つ波状口縁を呈する。地文には複節縄文が縦位に施文される。7は土偶の腕部か。形状に沿って刺突列が施される。9は底部欠損の深鉢で、体部上半には花卉状刺突文が密に施される。地文には無節縄文が縦位に施文される。10は刃部欠損の斧状土製品で、基部に孔を持つ。全面に単節縄文が施される。

(第3分冊 第168図1～4) 1は注口を持つ鉢形土器で、口唇部から垂下する隆線に沿って刺突文が施される。地文には単節縄文が縦位に施文される。2は地文に複節縄文のみが施される深鉢である。3・4は土偶である。3は板状土偶の体部下半の一部で、両面に沈線文、側面に刺突列が施される。4は頭部～体部上半で、隆線により眉・鼻、刺突文により目・口・乳房が表現される。逆三角形の輪郭を呈する頭部は後方に大きく張り出し、腕部には貫通孔が施される。

(第3分冊 第169図1～9) 1は沈線による区画文が描かれる深鉢口縁部片で、文様区画内には地文が充填施文される。2・8はボタン状貼付文に加飾された連鎖状隆帯が施される深鉢口縁部片である。3～6は沈線による曲線的モチーフが描かれる深鉢片で、5は二山突起状の波状口縁を呈する。7は口縁部に刺突文に加飾された隆線による区画文が描かれる深鉢口縁部片である。9は体部下半～底部欠損の深鉢で、口縁部に山形状の把手を持つ。ボタン状貼付文や刺突文に加飾された隆線による曲線的モチーフが描かれ、文様区画内には花卉状刺突文や地文が施文される。

(第3分冊 第170図1～9) 1・5・6は沈線による区画文が施される深鉢口縁部片である。2は口縁部に山形状の把手を持つ深鉢口縁部片である。ボタン状貼付文に加飾された隆線による曲線的モチーフが描かれ、文様区画内には花卉状刺突文や地文が充填施文される。3は

口唇部から垂下する隆線に沿って刺突文が施される深鉢口縁部片で、体部には花卉状刺突文が施文される。4は中空突起を持つ深鉢口縁部片で、ボタン状貼付文と刺突文に加飾された隆線による渦巻文と懸垂文が連結して施される。地文には無節縄文が縦位に施文される。7は沈線による曲線的モチーフが描かれる深鉢口縁部片である。8はC字状の突起を持つ深鉢片で、器面には花卉状刺突文が密に施される。9は波頂部下に孔を持つ深鉢口縁部片で、ボタン状貼付文と刻目文に加飾された隆線による区画文が施される。

(第3分冊 第171図1～9) 1は地文に網目状撚糸文が施される深鉢片である。2・3・6は沈線による曲線的モチーフが描かれる深鉢口縁部片で、2は補修孔を持つ。4は波頂部に刺突文が施される深鉢口縁部片で、器面には沈線による幾何学的モチーフが描かれる。地文には単節縄文が施文される。5は刻みのある小突起を持つ深鉢口縁部片で、器面には櫛目文が施される。7は舟形を呈するミニチュア土器である。8は沈線による大渦巻文と小渦巻文が連結して施される深鉢口縁部片である。9は波頂部に刻みの入る深鉢口縁部片で、口縁部文様帯には平行沈線・渦巻文・弧状文の組み合わせによる幾何学的モチーフが施される。地文には無節縄文が施される。

(第3分冊 第172図1・2) 1は口唇部に小突起が施される深鉢で、口縁部文様帯には沈線による渦巻文と懸垂文の組み合わせによる幾何学的モチーフが描かれる。体部下半の地文には無節縄文が縦位に施される。2は口唇部から円形刺突列が垂下する深鉢で、口縁部文様帯には沈線による区画文が施される。地文には単節縄文が施文される。

(第3分冊 第173図1～4) 1は口縁部下にボタン状貼付文と刻目文に加飾された隆帯による区画文が描かれる深鉢で、地文には無節縄文が縦位に施される。2は波頂部下に孔を持つ深鉢口縁部片で、ボタン状貼付文に加飾された沈線による渦巻文と懸垂文が連結して施される。3はボタン状貼付文に加飾された連鎖状隆帯が施される深鉢口縁部片である。4は刻みの入る小突起を持つ深鉢口縁部片で、沈線による幾何学的モチーフが描かれる。

(第3分冊 第174図1～8) 1・2は沈線による大渦巻文と懸垂文の組み合わせによる曲線的モチーフが描かれる深鉢口縁部片である。1の文様の要所にはボタン状貼付文が施され、2の波頂部には刺突文が施される。3は口縁部欠損の小形深鉢で、2条1組の沈線による幾何学的モチーフが施される。4は底部欠損の深鉢で、波状口縁を呈する。平行沈線により区画された口縁部文様帯には沈線による曲線的モチーフが描かれる。地文には単節縄文が横位に施される。5は刺突文に加飾された隆帯と沈線による幾何学的モチーフが施される深鉢口縁部片である。6・7は沈線による渦巻文・区画文が描かれる深鉢片で、6の文様区画内には刺突文が充填施文される。8はボタン状貼付文に加飾された隆線による曲線的モチーフが描かれる深鉢体部片である。

(第3分冊 第175図1～7) 1は体部上半に沈線によるS字状文が描かれる深鉢で、地文には単節縄文が縦位に施される。2は口唇部より襷状に垂下する隆帯に沿って刺突文が施される深鉢口縁部片である。器面には刻目文に加飾された隆線による曲線的モチーフが描かれる。3は深鉢の土器片を剥離加工した土製円盤である。4は地文のみが施される深鉢である。5・6は隆沈線による渦巻文が施される深鉢口縁部片である。7は沈線による逆U字状文が施される。

(第3分冊 第176図1・2) 1は石棒である。2は地文のみが施される深鉢口縁部片である。

(第3分冊 第177図1～5) 1は刻みの入る小突起を持つ深鉢で、体部上半には磨消縄文手法を用いた沈線による長楕円状文・帯縄文が横位に施される。2は地文を持たない無文の壺形土器で、底部を欠く。体部上半には沈線による曲線的モチーフが描かれる。3は口縁部～体部上半欠損の深鉢で、器面には沈線による曲線的モチーフが描かれる。地文には無節縄文が横位に施される。4は波状口縁を呈する小形深鉢で、隆沈線による渦巻文と懸垂文が連結して描かれる。地文には複節縄文が縦位に施される。5は沈線による逆U字状文が施される鉢形土器で、文様区画内には複節縄文が充填施文される。

溝状土坑 平面形が溝状を呈する土坑で所謂「陥し穴状土坑」と呼称される土坑である(R D285・298・301・303・311)。溝状土坑は複数基で列状に構築されており、今回の調査では、第16・21次調査区(L2・M2区)より北西-南東方向に並列する土坑群(R D285～303)が確認された。

構築時期 溝状土坑群の構築時期は、土坑内からの一括遺物がいないため断定できないが、R D301・303(第2分冊第102・136図)の上層が縄文時代中期後葉の大木8b式期の竪穴住居跡R A154(第2分冊第38図、第3分冊第68図)に覆われることから、縄文時代中期後葉以前の土坑群であることが考えられる。なお、溝状土坑内からの出土遺物はなかった。

遺構番号	平面形	規模		深さ (m)	時期
		上端 (m)	下端 (m)		
R D 042	円形	1.13	0.74	0.40	
R D 043	円形	0.69	0.36	0.10	
R D 044	楕円形	1.00×0.69	0.70×0.46	0.18	
R D 045	不整円形	1.50	1.20	0.20	
R D 046	円形	1.10	0.70	0.22	
R D 047	円形	1.00	0.45	0.14	中期末葉
R D 048	不整楕円形	1.10×0.60	0.70×0.30	0.18	
R D 049	円形	0.50		—	
R D 050	不整円形	1.39	0.32	0.44	
R D 051	不整円形	0.83	0.50	0.28	
R D 052	円形	0.82	0.70	0.20	
R D 053	楕円形	1.31×1.00	1.20×0.80	0.62	
R D 054	不明	0.53	0.40	0.14	中期末葉
R D 055	円形	0.80	0.50	0.54	
R D 056	楕円形	1.60×1.00	1.20×0.80	0.24	
R D 057	円形	1.29	1.00	0.20	
R D 058	円形 (フラスコ)	1.02	1.04	0.30	中期後葉
R D 059	円形	0.90	0.60	0.40	中期末葉
R D 060	円形	0.85	0.56	0.48	
R D 061	円形	1.10	0.70	0.16	
R D 062	円形	0.70	0.50	0.26	
R D 063	楕円形	1.10×0.59	0.70×0.40	0.30	
R D 064	楕円形	1.45×0.45	1.20×0.30	0.30	
R D 065	楕円形	2.10×1.50	1.90×1.40	0.36	
R D 066	不整円形	1.12	0.80	0.26	
R D 067	不整楕円形	1.80×1.35	1.30×0.6	0.30	
R D 068	円形	0.80	0.60	0.32	
R D 069	不整楕円形	1.50×0.60	1.10×0.50	0.34	中期末葉
R D 070	不整楕円形	1.32×0.89	0.76×0.60	0.38	
R D 071	不整円形	0.81	0.60	0.24	
R D 072	不整円形	0.82	0.70	0.18	
R D 073	不整円形	1.20~	0.70	0.24	
R D 074	不整円形	0.50	0.36	0.20	
R D 075	楕円形	0.60×0.56	0.60×0.50	0.24	
R D 076	楕円形	1.24×0.80	1.00×0.70	0.40	
R D 077	円形	0.90	0.70	0.12	
R D 078	円形	0.72	0.96	0.46	
R D 079	楕円形	0.30×—	—×—	0.38	
R D 080	楕円形	1.90×1.00	1.20×0.60	1.00	
R D 081	楕円形	1.40×0.60	1.00×0.30	0.12	
R D 082	楕円形	1.28×0.69	1.00×0.50	0.30	
R D 083	楕円形	1.50×0.92	0.90×0.70	0.20	
R D 084	不整円形	1.34	0.86	0.60	
R D 085	楕円形	1.18×0.70	0.60×0.36	0.46	
R D 086	不整円形	0.40	0.52	0.20	
R D 087	円形	0.70	0.68	0.12	
R D 088	不整楕円形	1.00×0.94	0.80×0.56	0.48	
R D 089	楕円形	1.60×0.80	1.30×0.40	0.60	
R D 090	円形	0.50	0.40	0.36	
R D 091	不整円形	1.20	—	—	
R D 092	円形	0.64	0.40	0.30	
R D 093	不整円形	0.98	0.60	0.22	
R D 094	楕円形	1.14×0.74	0.90×0.40	0.30	
R D 095	不整円形	1.58	1.04	0.70	中期末葉
R D 096	楕円形	0.78×0.72	0.70×0.50	0.14	

第1表 縄文時代土坑計測表

遺構番号	平面形	規 模		深さ (m)	時 期
		上端 (m)	下端 (m)		
R D 097	楕円形	1.32×0.78	1.10×0.60	0.40	中期末葉
R D 098	円形	0.90	—	—	
R D 099	楕円形	1.50×0.98	1.20×0.70	0.38	
R D 100	不整円形	0.60	0.50	0.14	
R D 101	不整円形	1.22	0.84	0.26	中期末葉
R D 102	不整円形	0.88	0.60	0.24	
R D 103	楕円形	1.84×1.20	1.40×0.75	0.20	
R D 104	不整円形	0.68	0.60	0.38	
R D 105	不整楕円形	1.10×0.90	0.80×0.64	0.38	
R D 106	楕円形	0.98×0.60	0.86×0.46	0.06	
R D 107	不整円形	0.60	0.46	0.20	
R D 108	楕円形	1.18×0.76	1.00×0.60	0.12	
R D 109	不整円形	1.90	0.88	0.50	
R D 110	不整楕円形	1.10~×1.10	1.04~×0.94	0.14	
R D 111	楕円形	1.14×0.86	0.84×0.60	0.30	
R D 112	楕円形	1.08×0.78	0.90×0.56	0.20	
R D 113	不整楕円形	1.96×1.20	1.42×0.76	0.58	
R D 114	楕円形	1.60×0.90	1.34×0.60	0.66	
R D 115	不整楕円形	1.48×1.16	1.12×0.84	0.56	
R D 116	不整円形	0.76	0.40	0.50	中期末葉
R D 117	楕円形	1.46×1.20	1.20×1.00	0.78	中期末葉
R D 118	円形	0.80	0.64	0.26	
R D 119	不整楕円形	0.40×0.78	0.32×0.60	0.24	
R D 120	不整円形	0.94	0.78	0.12	
R D 121	不整円形	1.22	0.88	0.20	
R D 122	不整円形	0.94	0.74	0.24	
R D 123	不整楕円形	0.74×0.90	0.70×0.50	0.24	
R D 124	不整楕円形	0.98×0.80	1.00×0.60	0.10	
R D 125	楕円形	1.10×0.78	0.90×0.54	0.22	
R D 126	不整円形	1.04	0.92	0.14	
R D 127	不整円形	1.54	1.06	0.20	
R D 128	不整円形	1.18	1.24	1.00	
R D 129	楕円形	1.40×1.00	1.14×0.80	0.16	
R D 130	楕円形	1.00×0.80	0.80×0.78	0.12	
R D 131	楕円形	1.10×0.80	1.00×0.24	0.26	
R D 132	不整円形	1.00	0.86	0.22	
R D 133	不整楕円形	2.06×1.28	1.40×0.80	0.74	
R D 134	楕円形	1.40×0.88	1.20×0.40	0.88	
R D 135	楕円形	1.20×0.60	1.14×0.40	0.10	
R D 136	不整楕円形	1.98×1.60	1.40×0.96	0.20	
R D 137	円形	0.72	0.50	0.18	
R D 138	不整円形	1.54	0.70	0.30	
R D 139	不整楕円形	1.94×1.44	1.40×0.90	0.26	
R D 140	円形	1.16	0.72	0.20	
R D 141	楕円形	0.90×0.60	0.70×0.46	0.16	
R D 142	楕円形?	0.88×0.82	0.74×0.50	0.40	中期末葉
R D 143	不整楕円形	1.70×1.10	1.56×0.90	0.10	
R D 144	楕円形	1.26×0.80	0.70×0.40	0.06	
R D 145	楕円形?	1.00×0.80	0.60×0.74	0.20	中期末葉
R D 146	円形	1.04	0.92	0.30	中期末葉
R D 147	楕円形	1.14×0.70	0.96×0.50	0.18	
R D 148	不整楕円形	1.60×0.98	1.30×0.76	0.22	
R D 149	楕円形	1.74×0.84	1.30×0.66	0.34	
R D 150	楕円形	1.62×0.78	1.50×0.70	0.44	
R D 151	不整楕円形	1.60×0.90	1.50×0.78	0.41	

第 2 表 縄文時代土坑計測表

遺構番号	平面形	規模		深さ (m)	時期
		上端 (m)	下端 (m)		
R D 152	不整楕円形	1.56×0.96	1.20×0.68	0.28	
R D 153	円形 (フラスコ)	1.48	1.50	0.58	中期末葉
R D 154	楕円形	1.50×1.00	1.30×0.84	0.40	
R D 155	不整楕円形	1.40×0.20	0.70×0.18	0.30	
R D 156	不整円形	2.00	1.70	0.22	
R D 157	不整円形	0.50	0.20	0.24	
R D 158	不整円形	1.30	1.18	0.10	
R D 159	円形	1.10	0.86	0.50	
R D 160	円形	1.40	1.12	0.34	
R D 161	円形	1.95	1.50	1.06	
R D 162	不整円形	1.60	1.22	0.30	
R D 163	楕円形	1.40×0.90	0.96×0.60	0.34	
R D 164	不整楕円形	1.50×1.18	1.40×0.84	0.34	
R D 165	楕円形	1.64×0.96	1.40×0.70	0.30	
R D 166	不整円形	1.40	1.14	0.24	
R D 167	楕円形	1.30×0.80	1.10×0.60	0.12	
R D 168	不整円形	1.44	0.9	0.18	
R D 169	不整楕円形	1.30×0.84	1.10×0.60	0.18	
R D 170	不整楕円形	1.20×0.60	0.84×0.36	0.30	
R D 171	円形	0.70	0.46	0.28	
R D 172	不整楕円形	1.30×0.82	1.20×0.70	0.16	
R D 173	円形	1.50	1.22	0.92	
R D 174	不整円形	0.80	1.02	0.20	
R D 175	不整楕円形	1.14×1.06	0.94×0.90	0.16	
R D 176	楕円形	1.20×0.98	1.10×0.50	0.42	
R D 177	不整楕円形	0.40	0.34	0.88	
R D 178	不整円形	1.04	0.50	0.46	
R D 179	不整円形	1.00	0.80	0.26	
R D 180	不整円形	1.34	0.90	0.60	
R D 181	不整円形	0.90	0.64	0.34	
R D 182	楕円形	1.20×0.80	0.74×0.40	0.30	
R D 183	不整円形	1.36	0.80	0.42	
R D 184	楕円形	1.60×0.80	1.30×0.50	0.22	
R D 185	円形	0.80	0.54	0.38	
R D 186	不整楕円形	1.20×0.80	0.86×0.50	0.20	
R D 187	不整円形	0.90	0.60	0.34	中期末葉
R D 188	不整円形	0.56	0.90	0.30	
R D 189	不整円形	1.04	0.54	0.38	
R D 190	不整円形	0.88	0.54	0.42	
R D 191	楕円形	1.60×0.90	1.30×0.70	0.36	
R D 192	楕円形	1.44×0.80	1.22×0.30	0.40	
R D 193	楕円形	1.44×0.90	1.30×0.80	0.20	中期末葉
R D 194	不整円形	0.80	—	—	
R D 195	不整円形	1.40	1.00	0.32	
R D 196	不整円形	0.94	0.64	0.28	
R D 197	楕円形	1.50×1.06	1.10×0.80	0.08	中期末葉
R D 198	不整円形	1.60	0.82	1.10	中期末葉
R D 199	不整楕円形	1.34×1.30	1.20×1.00	0.18	
R D 200	楕円形	1.30×0.80	1.16×0.48	0.38	
R D 201	不整楕円形	1.56×1.14	1.30×0.80	0.16	
R D 202	不整円形	1.24	0.70	0.28	
R D 203	円形	1.36	1.20	0.22	
R D 204	不整円形	1.48	1.14	0.38	中期初頭
R D 205	不整円形	0.80	0.56	0.30	
R D 206	楕円形	0.76×0.40	0.24×0.40	0.40	

第3表 縄文時代土坑計測表

遺構番号	平面形	規 模		深さ (m)	時 期
		上端 (m)	下端 (m)		
R D 207	円形	0.74	0.54	0.30	
R D 208	円形	0.70	0.40	0.44	
R D 209	楕円形	0.76×0.48	0.40×0.28	0.30	
R D 210	楕円形	1.70×1.14	1.60×0.90	0.16	
R D 211	不整円形	1.28	1.04	0.16	
R D 212	不整円形	0.90	0.76	0.30	
R D 213	楕円形	1.18×0.80	1.00×0.46	0.14	
R D 214	不整円形	1.18	0.98	0.28	
R D 215	不整円形	1.80	1.50	0.80	中期末葉
R D 216	不整円形	1.70	1.00	0.94	
R D 217	不整円形	1.22	1.00	0.76	
R D 218	不整円形	1.20	0.50	0.54	中期後葉
R D 219	不整円形	1.56	0.84	0.48	
R D 220	円形	1.72	1.30	0.98	中期末葉
R D 221	不整円形	1.50	1.30	0.46	
R D 222	不整円形	1.34	0.90	0.60	
R D 223	楕円形	1.44×0.86	1.16×0.64	0.20	
R D 224	楕円形	1.08×0.56	0.96×0.40	0.14	
R D 225	楕円形	1.36×0.74	1.12×0.54	0.20	
R D 226	不整楕円形	1.10×0.78	0.70×0.50	0.24	
R D 227	楕円形	0.92×0.80	0.86×0.54	0.28	
R D 228	不整円形	1.20	0.82	0.22	
R D 229	楕円形	1.60×0.86	1.34×0.70	0.50	
R D 230	楕円形	1.12×0.76	1.04×0.54	0.10	
R D 231	楕円形	1.30×0.84	1.00×0.60	0.16	
R D 232	不整円形	1.48	1.20	0.14	
R D 233	不整楕円形	1.50×0.94	1.40×0.64	0.18	
R D 234	不整円形	1.80	1.20	0.68	
R D 235	楕円形	0.70×0.48	0.54×0.30	0.36	
R D 236	不整円形	0.80	0.56	0.34	中期末葉
R D 237	楕円形	0.80×0.70	0.60×0.50	0.20	
R D 238	楕円形	0.68×0.48	0.56×0.30	0.26	
R D 239	不整円形	1.20	0.80	0.46	
R D 240	楕円形	0.96×0.60	0.82×0.44	0.30	
R D 241	楕円形	1.10×0.68	0.80×0.46	0.32	
R D 242	不整円形	0.50	0.36	0.10	
R D 243	円形	1.42	1.12	0.40	
R D 244	不整円形	1.00	0.80	0.22	
R D 245	不整円形	1.90	1.56	0.74	中期初頭
R D 246	不整円形	1.30	1.16	0.48	中期末葉
R D 247	不整円形	0.90	0.50	0.38	
R D 248	不整円形	1.20	0.90	0.20	
R D 249	不整円形	1.26	1.12	0.70	中期末葉
R D 250	不整円形	1.12	0.92	0.32	
R D 251	不整円形	1.98	1.40	0.90	中期末葉
R D 252	不整楕円形	1.40×0.90	1.10×0.66	0.48	中期末葉
R D 253	不整円形	1.34	1.16	0.80	
R D 254	楕円形	1.60×1.08	1.40×0.84	0.40	
R D 255	不整円形	0.60	0.46	0.90	
R D 256	円形	1.40	1.40	0.34	
R D 257	不整円形	1.95	1.74	1.04	
R D 258	不整円形	1.92	1.70	1.10	
R D 259	円形	1.88	1.70	1.34	中期末葉
R D 260	不整楕円形	1.22×0.90	0.70×0.66	0.20	中期末葉
R D 261	円形 (フラスコ)	1.60	1.56	1.12	中期末葉

第4表 縄文時代土坑計測表

遺構番号	平面形	規模		深さ (m)	時期
		上端 (m)	下端 (m)		
R D 262	不整円形	1.50	1.10	0.70	
R D 263	不整円形	0.90	0.72	0.16	
R D 264	楕円形	1.30×0.70	1.10×0.52	0.24	
R D 265	円形	0.90	0.76	0.24	
R D 266	不整円形	0.94	0.78	0.36	
R D 267	円形	1.18	0.94	1.80	
R D 268	楕円形	1.10×0.76	0.80×0.40	0.24	
R D 269	不整楕円形	1.40×0.96	1.02×0.58	0.44	
R D 270	楕円形	1.50×0.90	0.84×0.64	0.38	中期末葉
R D 271	不整楕円形	1.12×0.86	0.94×0.64	0.18	
R D 272	不整円形	1.00	0.80	0.50	
R D 273	不整楕円形	1.93×1.30	1.20×1.02	0.30	
R D 274	不整円形	1.00	0.90	0.10	
R D 275	不整円形	1.00	0.80	0.20	
R D 276	不整円形	0.90	0.70	0.14	
R D 277	不整円形	1.30	1.00	0.20	
R D 278	不整円形	1.48	1.14	0.24	中期末葉
R D 279	不整円形	1.04	0.60	0.22	中期末葉
R D 280	円形	1.60	1.50	0.26	
R D 281	円形	0.88	0.60	0.48	中期末葉
R D 282	不整円形	1.10	0.70	0.44	
R D 283	不整円形	1.30	1.00	0.52	
R D 284	不整円形	1.10	0.50	0.42	
R D 285	溝状 (Tピット)	2.26×0.60	2.04×0.12	0.76	
R D 286	円形	0.74	0.64	0.36	
R D 287	不整円形	2.60	0.64	1.26	
R D 288	不整円形	0.88	0.70	—	
R D 289	楕円形	1.82×0.90	1.70×0.64	0.12	中期後葉
R D 290	不整楕円形	1.40×0.86	0.76×0.66	0.38	
R D 291	円形	1.50	1.40	0.56	中期末葉
R D 292	円形	1.90	1.76	0.50	中期末葉
R D 293	円形	1.22	1.10	0.44	
R D 294	不整円形	2.20	1.14	0.40	中期末葉
R D 295	不整円形	1.48	1.24	0.28	
R D 296	不整円形	1.10	0.50	0.18	
R D 297	円形 (フラスコ)	1.40	1.58	0.58	
R D 298	溝状 (Tピット)	1.10×2.0	0.70×0.10	0.70	
R D 299	不整円形	1.50	0.90	0.88	中期初頭
R D 300	不整円形	1.20	1.10	0.86	中期末葉
R D 301	溝状 (Tピット)	1.70×0.24	1.56×0.10	0.70	
R D 302	不整円形	1.30	0.90	0.84	
R D 303	溝状 (Tピット)	1.86×0.38	1.96×0.08	0.78	
R D 304	円形	2.80	2.40	0.52	
R D 305	不整円形	1.14	0.90	0.36	
R D 306	不整円形	1.24	0.32	0.98	
R D 307	不整円形	1.10	0.90	0.40	中期初頭
R D 308	円形	1.40	1.20	0.30	
R D 309	円形 (フラスコ)	1.34	0.90	0.32	
R D 310	不整円形	1.60	1.10	0.32	
R D 311	溝状Tピット	1.80×0.40	0.64×0.22	0.50	
R D 312	不整円形	2.20	2.00	0.48	中期初頭
R D 313	不整円形	3.16	2.74	0.46	中期後葉
R D 314	楕円形	2.10×0.70	1.90×0.24	1.00	
R D 315	円形	0.92	0.64	0.22	
R D 316	不整円形	2.26	1.50	0.36	

第5表 縄文時代土坑計測表

遺構番号	平面形	規 模		深さ (m)	時 期
		上端 (m)	下端 (m)		
R D 317	円形 (フラスコ)	1.00	1.10	0.34	
R D 318	円形 (フラスコ)	1.40	1.60	0.46	
R D 319	円形 (フラスコ)	0.90	1.10	0.50	
R D 320	不整円形	1.40	0.32	0.30	
R D 321	円形	1.60	1.30	0.25	後期初頭
R D 322	楕円形	3.26×1.50	2.90×0.80	0.52	後期初頭
R D 323	不整円形	1.80	1.10	0.50	後期初頭
R D 324	不整円形	1.20	0.96	0.40	
R D 325	円形	1.60	1.50	1.10	後期初頭
R D 326	不整円形	1.20	0.34	0.60	
R D 327	円形 (フラスコ)	1.60	1.20	0.78	後期初頭
R D 328	円形	1.50	1.30	0.80	後期初頭
R D 329	円形 (フラスコ)	1.40	1.26	0.80	
R D 330	円形 (フラスコ)	1.32	1.20	1.20	後期初頭
R D 331	円形 (フラスコ)	1.40	1.20	1.21	後期初頭
R D 332	円形 (フラスコ)	1.10	0.42	0.80	後期初頭
R D 333	不整円形	1.10	0.80	1.25	後期初頭
R D 334	円形 (フラスコ)	1.16	1.06	0.70	
R D 335	円形	1.26	0.80	0.65	後期初頭
R D 336	円形	1.34	1.10	0.60	後期初頭
R D 337	円形 (フラスコ)	1.10	0.76	0.92	後期初頭
R D 338	円形	1.30	0.94	0.45	
R D 339	円形	1.18	0.80	0.45	
R D 340	円形 (フラスコ)	2.00	1.40	0.72	後期初頭
R D 341	円形	0.94	0.76	0.10	
R D 342	不整円形	1.80	1.10	0.30	
R D 343	円形 (フラスコ)	1.18	1.00	1.40	後期初頭
R D 344	円形	1.00	0.86	0.40	
R D 345	不整円形	1.38	1.00	0.30	
R D 346	不整円形	1.26	1.10	0.25	
R D 347	不整円形	0.88	0.44	0.38	
R D 348	不整円形	1.30	1.14	0.25	
R D 349	不整円形	0.70	0.60	0.46	
R D 350	不整円形	1.90	1.00	1.00	後期初頭
R D 351	円形	0.92	0.60	0.35	
R D 352	不整円形	1.10	0.70	0.80	後期初頭
R D 353	不整円形	1.40	0.90	0.76	後期初頭
R D 354	不整円形	2.00	1.74	0.36	後期初頭
R D 355	円形	1.28	0.90	1.00	後期初頭
R D 356	円形	0.90	0.54	0.86	後期初頭
R D 357	不整円形	2.18	1.12	0.75	後期初頭
R D 358	不整円形	1.08	0.40	0.30	後期初頭
R D 359	円形	0.90	0.62	0.76	後期初頭
R D 360	不整円形	1.30	0.74	0.52	
R D 361	円形	1.60	1.42	0.54	後期初頭
R D 362	円形 (フラスコ)	1.22	1.10	—	後期初頭
R D 363	円形 (フラスコ)	1.70	1.12	0.74	後期初頭
R D 364	不整円形	0.70	0.44	0.20	
R D 365	不整円形	1.20	0.78	0.50	
R D 366	円形 (フラスコ)	2.40	1.40	—	後期初頭
R D 367	不整円形	0.98	0.70	0.20	
R D 368	不整円形	1.20	0.80	0.18	
R D 369	不整円形	1.54	1.36	0.18	
R D 370	不整円形	0.70	0.60	0.16	
R D 371	不整円形	1.20	0.60	0.18	

第6表 縄文時代土坑計測表

遺構番号	平面形	規 模		深さ (m)	時 期
		上端 (m)	下端 (m)		
R D 372	不整円形	0.70	0.26	0.40	
R D 373	不整円形	1.80	0.66	0.60	
R D 374	不整円形	1.60	1.34	0.70	
R D 375	不整円形	1.60	0.70	1.10	後期初頭
R D 376	楕円形	2.10×0.80	1.20×0.24	0.50	後期初頭
R D 377	不整円形	1.20	0.76	0.34	
R D 378	不整円形	3.00	2.20	0.14	
R D 379	不整円形	2.30	1.70	0.24	後期初頭
R D 380	楕円形	1.30×0.94	1.10×0.60	0.26	後期初頭
R D 381	不整円形	1.40	0.70	0.30	後期初頭
R D 382	円形 (フラスコ)	1.44	0.96	0.74	後期初頭
R D 383	不整円形	0.96	0.30	0.78	後期初頭
R D 384	円形	1.20	0.80	0.56	後期初頭
R D 385	円形	1.14	0.92	0.34	
R D 386	円形 (フラスコ)	1.04	1.00	1.04	後期初頭
R D 387	不整円形	1.10	0.90	0.38	
R D 388	不整円形	1.40	1.00	0.26	後期初頭
R D 389	不整円形	0.96	0.66	0.60	後期初頭
R D 390	円形	1.18	0.80	1.14	後期初頭
R D 391	円形 (フラスコ)	1.44	0.96	1.24	後期初頭
R D 392	不整円形	1.34	0.70	0.20	
R D 393	不整円形	1.40	1.02	0.58	
R D 394	不整円形	1.16	0.94	0.40	
R D 395	不整円形	1.66	0.90	0.41	
R D 396	不整円形	0.86	0.70	0.40	
R D 397	不整円形	1.12	0.80	0.50	後期初頭
R D 398	不整円形	1.44	1.00	0.80	
R D 399	不整円形	1.34	0.40	0.51	
R D 400	円形	0.90	0.66	0.34	
R D 401	円形	0.92	0.46	0.40	
R D 402	円形 (フラスコ)	1.30	1.04	1.20	後期初頭
R D 403	円形	0.60	0.38	0.44	
R D 404	不整円形 (フラスコ)	1.60	1.10	1.80	
R D 405	円形	0.60	0.60	0.20	
R D 406	不整円形	0.50	0.40	0.40	
R D 407	円形	1.20	0.90	1.30	後期初頭
R D 408	不整円形	0.80	0.22	0.40	
R D 409	不整円形	0.96	0.68	0.36	
R D 410	円形 (フラスコ)	1.64	1.30	1.10	後期初頭
R D 411	円形	0.50	0.30	0.30	
R D 412	円形 (フラスコ)	1.48	1.10	1.34	後期初頭
R D 413	円形 (フラスコ)	1.40	1.10	1.20	後期初頭
R D 414	円形	0.96	0.74	0.36	
R D 415	不整円形	0.32	0.24	0.74	
R D 416	不整円形	0.20	0.08	1.46	
R D 417	円形 (フラスコ)	1.80	1.32	1.47	後期初頭
R D 418	不整円形	1.10	0.50	0.54	
R D 419	不整楕円形	2.52×1.90	2.26×1.60	1.10	後期初頭
R D 420	円形 (フラスコ)	1.00	1.02	1.40	後期初頭
R D 421	不整円形	1.64	1.44	0.44	
R D 422	不整円形	1.00	0.56	0.20	
R D 423	不整円形	1.60	1.02	1.32	後期初頭
R D 424	円形 (フラスコ)	1.24	0.98	1.50	後期初頭
R D 425	円形	1.80	1.00	0.54	後期初頭
R D 426	不整楕円形	1.30×0.90	1.00×0.66	0.58	

第7表 縄文時代土坑計測表

遺構番号	平面形	規 模		深さ (m)	時 期
		上端 (m)	下端 (m)		
R D 427	円形 (フラスコ)	1.10	1.30	1.50	後期初頭
R D 428	不整円形	0.60	0.24	0.50	
R D 429	円形 (フラスコ)	1.30	1.24	1.40	後期初頭
R D 430	円形 (フラスコ)	1.32	1.30	1.50	後期初頭
R D 431	円形	1.00	0.76	0.28	
R D 432	円形	0.58	0.38	0.16	
R D 433	不整円形	0.72	0.40	0.24	
R D 434	楕円形	1.80×1.36	1.34×1.00	0.64	
R D 435	円形	1.04	0.70	0.20	
R D 436	楕円形	1.76×0.50	1.42×0.30	0.40	
R D 437	円形 (フラスコ)	1.40	1.40	1.34	後期初頭
R D 438	不整円形	1.44	1.20	0.20	
R D 439	不整円形	0.90	0.44	0.22	
R D 440	不整楕円形	1.34×0.80	1.08×0.64	0.20	
R D 441	円形 (フラスコ)	1.20	0.66	0.70	後期初頭
R D 442	不整円形	0.74	0.40	0.40	
R D 443	円形 (フラスコ)	1.00	1.10	0.56	後期初頭
R D 444	円形 (フラスコ)	0.84	1.00	0.66	
R D 445	円形 (フラスコ)	1.12	1.30	1.34	後期初頭
R D 446	円形	0.76	0.40	0.28	
R D 447	円形	0.80	0.62	0.20	
R D 448	不整円形	1.20	0.98	1.48	後期初頭
R D 449	不整円形	2.20	1.50	0.60	後期初頭
R D 450	不整円形	1.20	0.90	0.20	
R D 451	円形	0.70	0.56	0.70	
R D 452	不整円形 (フラスコ)	0.80	1.00	1.00	後期初頭
R D 453	不整円形	1.34	0.88	0.56	
R D 454	不整円形	1.40	1.10	0.58	
R D 455	不整円形	1.22	1.18	0.76	
R D 456	不整円形	0.66	0.56	0.44	
R D 457	不整円形	0.90	0.20	0.35	
R D 458	円形 (フラスコ)	1.10	0.94	1.46	後期初頭
R D 459	不整円形	1.40	1.10	0.60	
R D 460	円形 (フラスコ)	1.16	1.00	1.10	
R D 461	円形 (フラスコ)	1.20	1.14	1.08	後期初頭
R D 462	不整円形	1.32	0.90	0.36	
R D 463	不整円形	1.30	1.20	1.00	後期初頭
R D 464	円形 (フラスコ)	1.20	0.86	1.26	
R D 465	不整円形	1.00	0.90	0.70	
R D 466	不整楕円形	1.26×0.96	1.10×0.70	0.64	
R D 467	不整円形	1.44	1.02	0.50	
R D 468	円形 (フラスコ)	1.32	1.26	1.80	
R D 469	不整円形	1.12	1.10	1.10	
R D 470	円形	1.30	0.80	1.30	後期初頭
R D 471	不整円形	0.78	0.30	0.60	中期末葉
R D 472	円形 (フラスコ)	1.64	1.64	1.50	
R D 473	不整円形	0.60	0.40	0.46	
R D 474	不整円形	1.30	1.12	1.50	後期初頭
R D 475	不整円形	1.74	1.42	0.30	
R D 476	不整円形 (フラスコ)	1.12	1.22	1.40	後期初頭
R D 477	不整円形 (フラスコ)	1.42	1.48	1.50	後期初頭
R D 478	円形	1.14	1.10	1.60	
R D 479	円形	1.60	1.42	—	
R D 480	円形	1.00	0.74	0.16	
R D 481	円形	0.60	0.28	0.35	後期初頭

第 8 表 縄文時代土坑計測表

遺構番号	平面形	規 模		深さ (m)	時 期
		上端 (m)	下端 (m)		
R D 482	不整円形	0.94	0.66	0.20	
R D 483	不整円形	0.56	0.30	0.56	後期初頭
R D 484	不整円形	1.10	0.42	0.25	
R D 485	不整円形 (フラスコ)	1.48	1.30	1.40	後期初頭
R D 486	不整円形 (フラスコ)	1.00	0.82	1.00	
R D 487	楕円形	2.40×1.20	2.06×1.00	0.75	後期初頭
R D 488	不整円形	1.34	1.14	1.48	後期初頭
R D 489	円形	0.60	0.46	0.40	
R D 490	不整円形	2.00	1.58	0.96	後期初頭
R D 491	不整円形	1.30	1.00	1.26	後期初頭
R D 492	円形	1.80	1.70	0.90	
R D 493	不整円形	0.80	0.36	0.50	
R D 494	不整楕円形	2.50×1.30	2.60×1.18	1.04	後期初頭
R D 495	不整円形	0.60	0.46	0.26	
R D 496	不整円形	0.76	0.60	0.50	
R D 497	円形 (フラスコ)	1.36	0.28	1.00	後期初頭
R D 498	円形 (フラスコ)	1.30	0.80	0.70	後期初頭
R D 499	不整円形	1.50	1.30	1.50	後期初頭
R D 500	円形 (フラスコ)	1.50	1.50	1.60	後期初頭
R D 501	楕円形	1.24×1.12	1.02×0.90	0.16	
R D 502	円形	0.64	0.50	0.26	
R D 503	円形 (フラスコ)	1.06	1.18	1.00	
R D 504	円形 (フラスコ)	1.24	1.30	0.84	
R D 505	円形 (フラスコ)	1.10	1.40	1.60	後期初頭
R D 506	不整円形	2.06	1.94	0.80	後期初頭
R D 507	円形	1.70	1.42	0.50	
R D 508	楕円形	1.36×0.90	1.10×0.72	0.26	
R D 509	円形 (フラスコ)	1.26	1.18	1.30	後期初頭
R D 510	不整円形	1.50	1.24	1.20	後期初頭
R D 511	円形	1.00	0.76	0.80	
R D 512	不整円形	1.06	0.92	0.86	後期初頭
R D 513	楕円形	2.10×1.96	1.76×1.10	0.60	
R D 514	不整円形	1.20	0.90	0.60	
R D 515	円形	1.10	1.10	1.00	後期初頭
R D 516	円形	1.16	0.60	0.50	
R D 517	円形 (フラスコ)	0.98	1.20	1.20	後期初頭
R D 518	不整円形	1.70	1.60	1.70	後期初頭
R D 519	不整円形 (フラスコ)	1.44	0.50	0.50	
R D 520	円形 (フラスコ)	1.40	1.00	1.50	後期初頭
R D 521	不整円形	1.56	1.38	1.20	後期初頭
R D 522	円形	0.86	0.60	0.50	
R D 523	円形 (フラスコ)	1.00	0.76	0.70	
R D 524	円形	1.00	0.80	0.60	
R D 525	円形 (フラスコ)	1.30	0.16	1.20	
R D 526	円形	0.90	0.70	0.80	
R D 527	円形 (フラスコ)	1.20	1.00	1.00	
R D 528	不整円形	0.62	0.70	0.30	
R D 529	不整円形	1.80	1.40	0.40	
R D 530	不整円形	1.90	0.96	1.40	後期初頭
R D 531	円形 (フラスコ)	1.32	1.00	1.00	
R D 532	不整円形	1.06	0.74	0.40	
R D 533	不整円形	1.30	0.70	0.40	後期初頭
R D 534	不整円形	0.70	0.50	0.20	
R D 535	不整円形	0.74	0.52	0.30	
R D 536	円形 (フラスコ)	1.10	0.94	1.30	後期初頭

第9表 縄文時代土坑計測表

遺構番号	平面形	規 模		深さ (m)	時 期
		上端 (m)	下端 (m)		
R D 537	円形	0.66	0.46	0.30	
R D 538	円形	0.70	0.44	0.16	
R D 539	不整円形	1.54	1.26	0.40	
R D 540	不整円形	0.80	0.60	0.40	
R D 541	不整円形	0.70	0.40	0.50	
R D 542	不整円形	0.56	0.46	0.20	
R D 543	円形 (フラスコ)	1.30	1.00	1.50	後期初頭
R D 544	円形	1.36	1.36	0.60	
R D 545	不整円形	0.78	0.48	0.36	
R D 546	不整円形	0.80	0.68	0.30	
R D 547	円形	1.46	1.30	1.40	後期初頭
R D 548	不整円形	1.88	1.18	0.70	後期初頭
R D 549	円形	0.70	0.40	0.36	
R D 550	円形	0.50	0.28	0.16	
R D 551	不整円形	1.00	0.76	1.70	
R D 552	不整円形	2.10	1.54	1.30	後期初頭
R D 553	円形	1.20	1.06	0.40	
R D 554	円形 (フラスコ)	1.30	1.36	1.20	
R D 555	不整円形	1.00	0.80	0.16	
R D 556	円形 (フラスコ)	1.60	1.12	1.40	後期初頭
R D 557	不明	—	—	0.60	
R D 558	不整円形	0.80	0.70	0.30	
R D 559	不整円形	1.46	1.10	0.96	後期初頭
R D 560	不整楕円形	1.76×1.30	0.92×1.04	0.60	後期初頭
R D 561	楕円形	0.90×0.74	0.78×0.42	0.16	
R D 562	円形	0.72	0.48	0.50	
R D 563	不整円形	0.74	0.40	0.16	
R D 564	不整円形	1.36	0.90	0.30	
R D 565	円形	0.70	0.54	0.50	
R D 566	不整円形	1.10	0.84	0.40	後期初頭
R D 567	不整円形	0.44	0.58	0.30	
R D 568	不整円形	0.40	0.16	0.40	
R D 569	不整円形	1.00	0.74	0.10	
R D 570	不整円形	1.80	1.50	0.70	後期初頭
R D 571	不整円形	1.00	0.76	0.20	後期初頭
R D 572	円形	1.26	0.86	0.50	
R D 573	不整円形	0.90	0.64	0.40	
R D 574	不整円形	0.66	0.50	0.38	後期初頭
R D 575	不整円形	1.20	0.76	0.26	
R D 576	円形 (フラスコ)	1.20	1.44	1.40	
R D 577	円形 (フラスコ)	1.42	1.14	0.50	
R D 578	不整円形	1.26	1.18	0.24	
R D 579	不整円形	1.20	0.96	0.60	
R D 580	不整円形	1.78	1.56	0.26	
R D 581	不整円形	0.96	0.22	0.60	
R D 582	不整円形	0.80	0.68	0.30	
R D 583	不整円形	1.60	1.10	0.50	
R D 584	円形	0.70	0.30	0.10	
R D 585	円形	1.40	1.08	0.50	
R D 586	不整円形	1.00	1.10	0.24	
R D 587	円形 (フラスコ)	1.70	1.48	1.10	後期初頭
R D 588	円形 (フラスコ)	1.24	1.30	1.16	
R D 589	不整円形	1.60	1.02	0.66	後期初頭
R D 590	不整円形	1.24	0.52	0.44	
R D 591	不整円形	1.06	0.66	0.24	

第10表 縄文時代土坑計測表

遺構番号	平面形	規 模		深さ (m)	時 期
		上端 (m)	下端 (m)		
R D 592	円形 (フラスコ)	1.06	1.14	0.76	後期初頭
R D 593	楕円形	0.90×0.50	0.78×0.48	0.20	
R D 594	不整円形	1.02	0.88	0.70	
R D 595	不整円形	1.40	1.04	0.50	
R D 596	不整円形	0.70	0.62	0.10	
R D 597	円形	1.30	1.22	1.50	後期初頭
R D 598	不整円形 (フラスコ)	1.70	1.28	0.70	後期初頭
R D 599	円形	1.44	1.22	1.00	
R D 600	不整円形 (フラスコ)	1.40	1.32	0.68	
R D 601	不整円形	1.90	1.48	1.10	
R D 602	円形	1.04	0.98	0.16	
R D 603	不整円形	1.50	0.94	0.90	後期初頭
R D 604	不整円形	0.90	0.56	0.40	
R D 605	円形 (フラスコ)	1.36	1.06	1.30	後期初頭
R D 606	不整円形	1.94	0.86	0.86	
R D 607	不整円形	1.44	1.14	1.30	後期初頭
R D 608	不整円形	1.30	1.18	1.00	
R D 609	不整円形	1.56	1.24	1.20	
R D 610	円形 (フラスコ)	2.20	1.90	1.16	
R D 611	円形 (フラスコ)	1.24	1.50	1.30	後期初頭
R D 612	円形 (フラスコ)	1.20	1.44	1.40	後期初頭
R D 613	円形 (フラスコ)	1.30	1.44	1.20	
R D 614	円形 (フラスコ)	1.42	1.50	1.20	
R D 615	円形 (フラスコ)	1.30	1.22	0.70	
R D 616	不整円形 (フラスコ)	1.70	1.22	0.96	後期初頭
R D 617	円形	1.26	0.74	0.40	
R D 618	円形	1.50	1.12	0.60	後期初頭
R D 619	円形	1.14	0.24	0.40	
R D 620	楕円形	0.56×0.34	0.36×0.18	0.36	
R D 621	円形 (フラスコ)	1.44	1.70	1.90	後期初頭
R D 622	不整円形	3.10	1.42	1.10	
R D 623	不整円形	0.90	0.56	0.40	
R D 624	円形 (フラスコ)	1.10	1.26	1.20	
R D 625	不整楕円形	1.38×0.64	0.82×0.59	0.20	
R D 626	円形 (フラスコ)	1.84	1.42	0.60	後期初頭
R D 627	円形	0.78	0.62	0.10	
R D 628	不整楕円形	1.00×1.68	0.92×1.14	0.80	後期初頭
R D 629	円形	0.86	0.62	0.36	
R D 630	不整楕円形	1.52×1.60	1.04×1.00	0.96	後期初頭
R D 631	円形	1.00	0.64	0.40	
R D 632	円形	1.12	0.96	0.28	
R D 633	円形	0.56	0.48	0.20	
R D 634	円形	0.42	0.39	0.40	
R D 635	円形 (フラスコ)	1.00	1.24	0.90	後期初頭
R D 636	円形 (フラスコ)	1.30	1.62	0.40	
R D 637	円形 (フラスコ)	1.06	1.12	1.08	後期初頭
R D 638	不整円形	1.24	0.52	0.56	
R D 639	円形 (フラスコ)	0.84	0.94	0.70	後期初頭
R D 640	円形	0.80	0.78	0.16	
R D 641	円形	0.86	0.62	0.16	
R D 642	円形 (フラスコ)	1.28	1.32	0.84	
R D 643	円形 (フラスコ)	1.34	1.28	1.06	
R D 644	円形 (フラスコ)	1.30	1.18	1.04	後期初頭
R D 645	円形 (フラスコ)	1.08	0.92	0.96	
R D 646	円形 (フラスコ)	1.40	1.28	1.20	

第11表 縄文時代土坑計測表

遺構番号	平面形	規模		深さ (m)	時期
		上端 (m)	下端 (m)		
R D 647	円形	1.50	1.32	1.50	後期初頭
R D 648	円形	1.20	1.24	1.08	後期初頭
R D 649	円形	1.14	1.04	0.64	
R D 650	円形	1.00	0.68	0.70	
R D 651	円形 (フラスコ)	1.80	1.68	1.40	
R D 652	円形 (フラスコ)	1.60	1.56	1.20	
R D 653	円形	1.12	0.96	1.10	
R D 654	円形 (フラスコ)	1.50	1.32	1.10	
R D 655	円形 (フラスコ)	1.00	0.78	0.54	
R D 656	不整円形	0.90	0.72	0.16	
R D 657	円形 (フラスコ)	1.10	1.12	0.44	
R D 658	円形 (フラスコ)	1.20	1.02	1.24	後期初頭
R D 659	円形 (フラスコ)	1.20	1.22	1.36	後期初頭
R D 660	円形 (フラスコ)	1.30	1.04	1.36	
R D 661	円形 (フラスコ)	1.28	1.14	0.86	
R D 662	円形 (フラスコ)	1.18	1.58	1.28	
R D 663	不整円形	0.78	0.48	0.25	
R D 664	円形 (フラスコ)	1.64	1.44	1.64	
R D 665	円形 (フラスコ)	1.60	1.32	1.76	
R D 666	円形	1.14	0.62	1.20	
R D 667	不整円形	1.52	0.88	0.50	
R D 668	不整円形	2.00	1.46	1.70	後期初頭
R D 669	円形 (フラスコ)	0.84	0.94	0.70	
R D 670	不整円形	1.32	1.18	0.40	
R D 671	円形	1.20	1.02	0.44	
R D 672	円形 (フラスコ)	1.28	1.16	0.20	
R D 673	不整円形	2.50	2.21	0.15	
R D 674	不整円形	1.55	1.48	0.20	
R D 675	円形	0.84	0.60	0.64	
R D 676	円形	1.10	1.02	0.74	後期初頭
R D 677	円形 (フラスコ)	1.00	1.12	1.06	後期初頭
R D 678	円形	1.10	1.02	1.05	後期初頭
R D 679	円形 (フラスコ)	1.20	1.08	1.15	後期初頭
R D 680	円形	0.95	0.82	0.64	後期初頭
R D 681	円形	1.50	1.20	0.20	
R D 682	円形	1.14	1.02	0.96	
R D 683	円形	0.90	0.91	1.25	後期初頭
R D 684	円形	0.85	0.71	0.50	
R D 685	円形	1.54	1.18	0.50	
R D 686	円形 (フラスコ)	1.25	0.98	1.05	後期初頭
R D 687	円形 (フラスコ)	1.55	1.31	1.28	後期初頭
R D 688	円形 (フラスコ)	1.15	1.31	1.30	後期初頭
R D 689	円形	1.15	1.11	1.04	後期初頭
R D 690	不整楕円形	1.51×0.90	1.21×0.79	0.16	
R D 691	不整楕円形	2.25×0.65	2.09×0.58	0.14	
R D 692	円形	1.40	1.10	1.14	後期初頭
R D 693	円形	1.40	1.28	0.20	
R D 694	円形	2.00	1.58	1.48	
R D 695	円形	2.30	1.36	1.36	
R D 696	円形 (フラスコ)	1.45	1.98	1.30	
R D 697	楕円形	0.95×0.50	0.82×0.39	0.14	
R D 698	不整円形	2.44	2.18	0.24	
R D 699	不整円形	2.25	2.16	0.22	
R D 700	円形 (フラスコ)	1.05	1.25	0.94	後期初頭
R D 701	不整円形	2.28	1.04	0.20	

第12表 縄文時代土坑計測表

遺構番号	平面形	規 模		深さ (m)	時 期
		上端 (m)	下端 (m)		
R D 702	円形	1.55	1.56	0.30	
R D 703	不整円形 (フラスコ)	1.05	1.16	1.30	
R D 704	不整円形 (フラスコ)	1.60	1.46	1.54	
R D 705	円形	1.50	1.48	1.40	
R D 706	円形	1.75	1.54	0.24	
R D 707	不整円形 (フラスコ)	1.00	1.52	1.28	
R D 708	円形	1.70	1.26	1.65	
R D 709	円形	1.30	1.04	1.00	
R D 710	円形 (フラスコ)	1.42	1.52	1.16	
R D 711	不整円形 (フラスコ)	1.45	1.52	1.30	
R D 712	不整円形 (フラスコ)	1.24	1.42	1.28	
R D 713	不整円形 (フラスコ)	0.85	0.96	0.64	
R D 714	円形 (フラスコ)	1.10	1.40	1.20	
R D 715	円形 (フラスコ)	0.75	1.08	0.85	後期初頭
R D 716	円形	0.90	0.72	0.32	
R D 717	円形 (フラスコ)	1.60	1.92	1.36	後期初頭
R D 718	不整円形 (フラスコ)	1.05	1.02	0.65	
R D 719	円形	1.05	0.88	0.65	
R D 720	円形 (フラスコ)	1.15	1.32	0.78	後期初頭
R D 721	不整円形	1.60	1.48	0.96	
R D 722	不整円形 (フラスコ)	1.45	1.56	1.05	
R D 723	円形 (フラスコ)	1.78	1.48	1.40	
R D 724	不整円形	2.12	1.78	1.42	
R D 725	不整円形	0.65	0.46	1.16	
R D 726	楕円形	1.76×—	1.28×—	0.38	
R D 727	円形	0.80	0.54	0.22	
R D 728	円形 (フラスコ)	1.42	1.26	0.80	
R D 729	不整円形	1.19	1.22	0.66	
R D 730	円形 (フラスコ)	2.02	1.66	1.46	中期末葉
R D 731	不整楕円形	1.12×0.70	0.94×0.49	0.32	
R D 732	不整円形	0.72	0.58	0.31	
R D 733	不整円形	0.86	0.68	0.49	
R D 734	不整円形	1.46	0.84	1.22	
R D 735	円形	1.41	0.82	1.38	
R D 736	不整円形	1.40	1.12	0.62	
R D 737	円形	1.36	1.11	1.16	
R D 738	不整円形	2.12	1.99	0.60	
R D 739	不整円形	1.34	1.16	0.58	
R D 740	不整円形	0.54	0.46	0.24	
R D 741	不整円形	0.91	0.68	0.51	
R D 742	不整円形	1.35	1.02	0.58	
R D 743	楕円形	1.94×1.04	1.48×0.52	1.08	
R D 744	不整円形	0.82	0.72	0.19	
R D 745	円形	1.19	0.96	0.19	
R D 746	不整円形	1.12	1.09	0.76	
R D 747	不整円形	1.08	0.99	1.24	
R D 748	円形	1.28	0.92	1.22	
R D 749	円形 (フラスコ)	1.62	1.60	1.02	
R D 750	不整円形	1.49	1.18	1.10	
R D 751	楕円形	1.82×0.92	1.69×0.79	0.50	
R D 752	不整円形	1.08	1.02	0.52	
R D 753	円形 (フラスコ)	1.30	1.39	1.29	
R D 754	円形	1.38	1.14	0.50	
R D 755	円形 (フラスコ)	2.0	1.49	1.28	
R D 756	楕円形	1.28×0.68	0.75×0.29	0.24	

第13表 縄文時代土坑計測表

遺構番号	平面形	規模		深さ (m)	時期
		上端 (m)	下端 (m)		
R D 757	不整円形	1.22	0.78	0.36	
R D 758	円形	0.46	0.38	—	
R D 759	不整円形	2.14	1.42	0.60	
R D 760	不整円形	2.22	1.98	0.58	
R D 761	不整楕円形	1.02×0.76	0.88×0.44	0.28	
R D 762	円形	0.98	0.76	0.26	
R D 763	円形	2.22	2.02	0.89	
R D 764	円形	1.78	1.12	0.52	
R D 765	不整円形	1.52	0.86	0.78	
R D 766	不整円形	1.98	1.46	0.86	
R D 767	不整楕円形	2.12×1.80	1.54×1.38	0.68	
R D 768	不整円形	1.88	1.54	0.74	
R D 769	不整円形	1.46	1.38	0.61	
R D 770	不整円形	1.74	1.62	1.22	
R D 771	不整円形	1.52	1.48	0.98	
R D 772	不整円形	1.04	0.54	0.66	
R D 773	円形?	2.50	2.30	—	
R D 774	不整円形	1.18	0.79	0.16	
R D 775	不整円形	1.98	0.78	0.10	
R D 776	楕円形?	1.38×1.30	0.84×0.70	0.49	
R D 777	円形?	0.82	0.68	0.49	
R D 778	円形	1.02	0.88	0.68	
R D 779	円形 (フラスコ)	1.58	1.81	1.24	
R D 780	円形 (フラスコ)	1.28	1.34	1.14	
R D 781	円形 (フラスコ)	1.26	1.38	0.30	
R D 782	円形 I (フラスコ)	1.48	1.52	0.94	
R D 783	円形 (フラスコ)	0.88	0.96	0.84	
R D 784	不整円形	1.08	0.86	0.98	
R D 785	円形 (フラスコ)	1.68	1.84	0.72	
R D 786	円形 (フラスコ)	1.42	1.72	0.88	
R D 787	円形 (フラスコ)	1.52	1.16	1.02	
R D 788	円形 (フラスコ)	1.28	1.34	1.62	
R D 789	不整円形	1.21	0.96	0.26	
R D 790	円形 (フラスコ)	1.18	1.26	0.22	
R D 791	円形 (フラスコ)	1.42	1.51	0.28	
R D 792	円形 (フラスコ)	1.68	1.82	0.90	
R D 793	不整円形	1.84	1.68	0.44	晩期初頭
R D 794	円形 (フラスコ)	1.26	1.38	0.32	
R D 795	円形	1.21	0.98	0.58	
R D 796	不整円形	1.38	1.08	0.38	
R D 797	円形 (フラスコ)	1.24	1.38	0.74	
R D 798	円形	2.21	1.80	1.06	
R D 799	不整円形	1.08	0.92	0.38	
R D 800	円形	1.22	0.92	0.40	
R D 801	不整円形	2.69	2.22	1.16	
R D 802	円形 (フラスコ)	1.30	1.28	0.80	
R D 803	円形 (フラスコ)	1.16	1.32	0.82	
R D 804	不整円形	1.88	1.42	0.38	
R D 805	不整円形	1.18	1.02	0.19	
R D 806	不整円形	1.09	0.88	0.56	
R D 807	円形	0.92	0.78	0.18	
R D 808	不整楕円形	1.31×1.16	0.82×0.68	0.06	
R D 809	不整円形	1.21	0.46	1.26	
R D 810	円形	1.04	0.49	0.48	
R D 811	不整円形	1.64	1.22	0.64	

第14表 縄文時代土坑計測表

遺構番号	平面形	規 模		深さ (m)	時 期
		上端 (m)	下端 (m)		
R D 812	円形	1.21	0.99	0.58	
R D 813	不整円形	1.41	1.14	0.59	
R D 814	円形 (フラスコ)	1.54	1.56	0.64	
R D 815	円形	1.06	0.86	0.32	
R D 816	円形	0.79	0.62	0.48	
R D 817	不整楕円形	1.28×1.18	0.94×0.82	0.10	
R D 818	不整楕円形	1.82×1.68	1.22×0.98	0.28	
R D 819	円形	1.28	0.90	0.39	
R D 820	円形	0.71	0.52	0.10	
R D 821	円形	1.28	0.92	0.48	
R D 822	不整円形	1.18	0.94	0.28	
R D 823	不整円形	1.18	1.02	0.44	
R D 824	円形	0.96	0.84	0.28	
R D 825	方形	2.52×2.46	1.42×1.36	0.12	
R D 826	不整楕円形	1.52×1.26	0.96×0.68	0.19	
R D 827	円形	1.10	0.79	0.22	
R D 828	円形	1.04	0.91	0.18	
R D 829	不整円形	1.12	1.78	0.19	
R D 830	不整楕円形	1.72×1.12	1.04×0.58	0.16	
R D 831	不整円形	1.88	1.82	0.42	後期前葉
R D 832	不整円形	1.48	1.32	0.84	
R D 833	不整円形	1.04	0.92	0.46	
R D 834	楕円形	2.49×1.88	1.42×0.82	0.52	
R D 835	円形	1.32	0.82	0.58	
R D 836	楕円形	1.16×1.10	0.54×0.28	0.24	
R D 837	楕円形	1.20×0.98	0.28×0.18	0.16	
R D 838	不整円形	0.76	0.64	0.08	
R D 839	円形	0.82	0.48	0.54	
R D 840	円形	1.06	0.92	0.21	
R D 841	不整方形	2.22	1.88	0.29	
R D 842	円形 (フラスコ)	1.12	1.68	0.43	
R D 843	円形 (フラスコ)	1.14	1.18	1.02	
R D 844	不整円形	0.94	0.82	0.56	
R D 845	不整円形	1.62	1.14	0.82	
R D 846	円形	1.89	1.38	0.58	
R D 847	不整円形	1.32	1.04	0.26	
R D 848	円形 (フラスコ)	1.08	1.07	0.84	
R D 849	円形 (フラスコ)	1.08	1.07	0.24	
R D 850	不整円形	1.56	1.44	0.22	
R D 851	円形	0.58	0.46	0.16	
R D 852	円形 (フラスコ)	0.88	1.06	0.58	
R D 853	円形	1.22	1.12	0.26	
R D 854	不整円形	0.49	0.38	0.18	
R D 855	不整円形	1.68	1.34	0.88	
R D 856	不整円形?	1.52	1.48	0.39	
R D 857	不整円形?	1.34	1.28	0.38	
R D 858	不整円形?	1.72	1.62	0.20	
R D 859	円形	0.58	0.42	0.34	
R D 860	円形?	0.99	0.72	0.18	
R D 861	不整円形	1.74	1.28	1.00	
R D 862	不整円形	1.12	0.94	0.58	
R D 863	不整円形	0.86	0.28	0.50	
R D 864	不整円形?	0.64	0.42	0.40	
R D 865	不整円形	0.98	0.72	0.22	
R D 866	円形 (フラスコ)?	1.44	1.52	0.64	

第15表 縄文時代土坑計測表

遺構番号	平面形	規 模		深さ (m)	時 期
		上端 (m)	下端 (m)		
R D 867	不整円形	0.42	1.06	0.58	
R D 868	円形	1.25	1.18	0.84	
R D 869	円形 (フラスコ)	1.14	1.35	0.96	
R D 870	円形 (フラスコ)	0.72	1.32	0.78	後期初頭
R D 871	円形 (フラスコ)	0.99	1.08	0.86	
R D 872	円形	1.02	0.82	0.30	
R D 873	円形	0.68	0.49	0.24	
R D 874	円形	0.82	0.68	0.18	
R D 875	円形	0.58	0.49	0.36	
R D 876	不整円形	0.82	0.72	0.30	
R D 877	円形 (フラスコ)	1.25	1.42	0.94	
R D 878	不整円形	1.24	1.42	0.39	
R D 879	円形 (フラスコ)	1.18	1.44	0.98	
R D 880	円形 (フラスコ)	1.28	1.30	0.79	
R D 881	円形 (フラスコ)	0.98	1.24	1.14	
R D 882	円形 (フラスコ)	1.44	1.48	0.58	
R D 883	不整円形	0.74	0.76	0.56	
R D 884	円形	1.01	0.98	0.39	
R D 885	円形 (フラスコ)	1.26	1.54	1.28	
R D 886	円形 (フラスコ)	1.54	1.66	1.08	
R D 887	円形 (フラスコ)	0.92	1.06	1.28	
R D 888	円形 (フラスコ)	0.94	1.02	0.69	
R D 889	不整円形?	1.04	0.96	0.56	
R D 890	円形 (フラスコ)	1.18	1.46	0.92	
R D 891	円形 (フラスコ)	0.62	1.02	1.02	

第16表 縄文時代土坑計測表

(4) 縄文時代の埋設土器 (第2分冊 第149図)

RP007 伏甕 (第2分冊 第149図)

時期 大木8b式 位置 K2区

規模 掘方は不整楕円形を呈し、掘方上端直径0.72m以上・下端0.42m、深さ0.14mをはかる。大部分は後世の攪乱により口縁部付近のみ残存する。

埋土 伏甕内部には現代のゴミ等が混入していたことから、最近までは空洞であったことが考えられる。

出土状況 深鉢は倒立の状態で見られ、体部下半から底部は後世の攪乱によって壊される。

土器 (第3分冊 第178図1) 1は隆沈線による大渦巻文を中心に渦巻文が連結して描かれる深鉢である。口縁部下の沈線上には刺突列が施され、地文には複節縄文が縦位に施される。

RP008 伏甕 (第2分冊 第149図)

時期 大木8b式 位置 K2区

規模 掘方は不整楕円形を呈し、掘方上端直径1.12m・下端1.04m、深さ0.12mをはかる。

埋土 伏甕内部は流入したものと考えられる黒褐色土が確認された。

出土状況 深鉢は倒立の状態で見られ、体部下半から底部は後世の攪乱によって壊される。

土器 (第3分冊 第178図2) 2は隆沈線による大渦巻文を中心に渦巻文・円文が連結して描かれる深鉢で、口縁部は人為的に壊される。地文には複節縄文が縦位に施される。

RP009 伏甕 (第2分冊 第149図)

時期 大木8b式 位置 L2区

規模 掘方は円形を呈し、掘方上端直径0.48m・下端0.34m、検出面からの深さ0.35mをはかる。

埋土 伏甕内部には暗褐色土が山状に堆積していることから、埋設後に底部穿孔部より流入したものと考えられる。

出土状況 深鉢は倒立の状態で見られ、掘方も深鉢の大きさに合わせたものと思われる。本来の埋設面は後世の削平によって破壊される。

土器 (第3分冊 第178図3) 3は隆沈線による有棘渦巻文と懸垂文が連結して描かれる深鉢で、口縁部～体部上半は人為的に壊される。地文には複節縄文が施される。

RP010 伏甕 (第2分冊 第149図)

時期 大木8b式 位置 L2区

規模 掘方は不整円形を呈し、掘方上端直径0.54m以上・下端0.44m、深さ0.58mをはかる。

埋土 埋土は他の遺構により破壊され、掘方壁面に接する部分が残存する。

出土状況 深鉢は倒立の状態で見られ、掘方も深鉢の大きさに合わせたものと思われる。本来の埋設面は後世の削平によって破壊される。

土器 (第3分冊 第179図1) 1は底部から直線的に開く器形を呈する深鉢で、体部上半および底部は人為的に壊される。体部上半には隆沈線による大渦巻文を中心に渦巻文が連結して描かれ、下半には隆線による格子目状の文様が施される。地文には複節縄文が縦位に施される。

R P 0 1 1 伏甕 (第 2 分冊 第149図)

時 期 大木 8 b 式 位 置 M 2 区

規 模 掘方は不整円形を呈する。

出土状況 深鉢は倒立の状態 で埋設され、本来の埋設面は後世の削平によって破壊される。

土 器 (第 3 分冊 第179図 2) 2 は体部下半欠損の深鉢で、2 単位の大波状口縁を呈する。器面には沈線による有棘大渦巻文を中心に渦巻文が連結して描かれる。地文には複節縄文が縦位に施される。

R P 0 1 2 埋設土器 (第 2 分冊 第149図)

時 期 不明 位 置 L 1 区

規 模 掘方は不整円形を呈する。

埋 土 内部には硬く締る暗褐色土が堆積する。

出土状況 深鉢は正立の状態 で埋設され、本来の埋設面は後世の削平によって破壊される。炉の土器埋設部の可能性がある。

土 器 (第 3 分冊 第180図 1) 1 は地文に単節縄文が縦位に施される深鉢で、底部は人為的に壊される。

R P 0 1 3 埋設土器 (第 2 分冊 第149図)

時 期 不明 位 置 M 2 区

規 模 掘方は不整楕円形を呈し、掘方上端直径0.60m・下端0.38m、深さ0.20mをはかる。

埋 土 内部には硬く締る暗褐色土が堆積する。

出土状況 深鉢は正立の状態 で埋設され、本来の埋設面は後世の削平によって破壊される。

土 器 (第 3 分冊 第180図 2) 1 は地文に櫛目文が密に施される深鉢である。

R P 0 1 4 埋設土器 (第 2 分冊 第149図)

時 期 不明 位 置 M 2 区

規 模 掘方は円形を呈し、掘方上端直径0.54m・下端0.30m、検出面からの深さ0.28mをはかる。

埋 土 内部には黒褐色土が堆積する。

出土状況 深鉢は正立の状態 で埋設され、掘方も深鉢の大きさに合わせたものと考えられる。

土 器 (第 3 分冊 第180図 3) 3 は地文に撚糸文が縦位に施す深鉢で、体部上半は人為的に壊される。

R P 0 1 5 埋設土器 (第 2 分冊 第149図)

時 期 大木 8 b 式 位 置 M 2 区

規 模 掘方は円形を呈し、掘方上端直径0.22m・下端0.09m、検出面からの深さ0.12mをはかる。

埋 土 内部には黒褐色土が堆積する。

出土状況 深鉢は正立の状態 で埋設され、掘方も深鉢の大きさに合わせたものと考えられる。

土 器 (第 3 分冊 第180図 4) 4 はキャリパー形深鉢で、口縁部および体部下半は人為的に壊される。口縁部文様帯は沈線による渦巻文と懸垂文が連結して横位に展開し、3 条 1 組の平行沈線が 3 段施される屈曲部と区画される。体部下半には上部文様帯より垂下する懸垂文が施され、地文には複節縄文が施文される。

R P 0 1 6 埋設土器 (第 2 分冊 第149図)

時 期 不明 位 置 N 2 区

規 模 掘方は不整円形を呈し、掘方上端直径0.32m・下端0.26m、深さ0.14mをはかる。

出土状況 深鉢は正立の状態で見られ、掘方も深鉢の大きさに合わせたものと考えられる。

土 器 (第 3 分冊 第181図 1) 1は地文に単節縄文が施される深鉢で、体部上半は人為的に壊される。

R P 0 1 7 埋設土器 (第 2 分冊 第149図)

時 期 大木 8 b 位 置 N 3 区

規 模 掘方は円形を呈し、掘方上端直径0.19m・下端0.11m、検出面からの深さ0.09mをはかる。

埋 土 内部には黒褐色土が堆積する。

出土状況 深鉢は正立の状態で見られ、掘方も深鉢の大きさに合わせたものと考えられる。

土 器 (第 3 分冊 第181図 2) 2は上部文様帯から垂下する沈線による懸垂文が施される深鉢で、口縁部から体部上半は人為的に壊される。地文には単節縄文が縦位に施される。

R P 0 1 8 埋設土器 (第 2 分冊 第149図)

時 期 不明 位 置 L 5 区

規 模 掘方は円形を呈し、掘方上端直径0.30m・下端0.26m、検出面からの深さ0.20mをはかる。

埋 土 内部には黒褐色土が堆積しており、堆積土中には崩落した土器片が含まれる。

出土状況 深鉢は正立の状態で見られ、掘方も深鉢の大きさに合わせたものと考えられる。本来の埋設面は後世の削平によって破壊される。

土 器 (第 3 分冊 第181図 3) 3は口縁部が内湾する深鉢で、地文には単節縄文が縦位に施される。

R P 0 1 9 埋設土器 (第 2 分冊 第149図)

時 期 不明 位 置 L 3 区

規 模 掘方は円形を呈し、掘方上端直径0.22m・下端0.08m、検出面からの深さ0.10mをはかる。

埋 土 内部には黒褐色土が堆積する。

出土状況 深鉢は正立の状態で見られ、掘方も深鉢の大きさに合わせたものと考えられる。

土 器 (第 3 分冊 第181図 4) 4は地文に単節縄文が縦位に施される深鉢で、口縁部から体部上半、底部は人為的に壊される。

ピット群出土遺物

※ ピット群の記録等は焼失したため出土遺物のみ説明。

出土遺物 (第182図 1～5) 1・2は石棒である。3は波頂部に孔を持つ深鉢で、体部下半～底部を欠く。器面には隆沈線による渦巻文と懸垂文が連結して施され、地文には複節縄文が縦位に施される。4は口唇部に孔を持つ山形状の突起が施される深鉢片で、器面には地文のみが施される。5は斧状土製品の一部か。全面に無節縄文が施される。

(5) 縄文時代の遺物包含層 (第3分冊 第183~185図)

遺物包含層 (図面焼失) 柿ノ木平遺跡は近・現代の開田・宅地化により、表土直下が遺構検出面となる。

主なる遺構検出面は黒褐色を呈し、土質は砂質に近いシルトであった(Ⅱ層)。このⅡ層は大きく3層に細分され、下層ほど明るい色調となる。Ⅲ層は砂質シルトによる暗褐色土でスコリア粒を多く含む。Ⅳ層は黄褐色を呈した粘質のあるシルト層であった。遺物が出土するのはⅡ層上面(Ⅱa・Ⅱb層)で、柿ノ木平遺跡においては縄文時代中期の遺物を僅かに含む包含層が確認されたのみである。柿ノ木平遺跡では盛岡市内でも有数の縄文時代集落が確認されたにも関わらず廃棄場といえるような箇所は確認されなかった。しかし、柿ノ木平遺跡が立地する段丘面より低い面に立地する前野遺跡の調査では(1999 盛岡市教委)、地表下約8mの砂礫層より摩滅した縄文時代中期遺物が採集されていることから、廃棄場は段丘斜面に形成されていたことが推測される。しかし、段丘斜面は中津川により侵食を受けており、全て流出したものと考えられた。

出土遺物 (第3分冊 第183図1~185図19) 1~4、6は隆沈線または沈線による渦巻文と懸垂文が連結して描かれる深鉢である。1・2・6は口縁部がラッパ状に開く深鉢で、口縁部下に無文帯を持つ。地文には1・2は単節縄文、6は複節縄文が縦位に施される。4は口縁部が内湾し、波状口縁を呈する深鉢で、地文には単節縄文が横位に施される。5は地文に単節縄文のみが縦位に施される深鉢で、波状口縁を呈する。7は沈線による逆U字状文が施される鉢形土器で、文様区画内には複節縄文が充填施文される。8は撚糸文が縦位に施される鉢形土器である。9は三日月状貼付文に加飾された隆線によるJ字状文が描かれる深鉢体部片である。10・11は口唇部に刻目文が施される深鉢口縁部片で、波状口縁を呈する。刻目文に加飾された隆帯に区画される口縁部文様帯には、沈線による曲線的モチーフが描かれ、文様の要所にはボタン状貼付文が施される。地文には結節をもつ斜縄文が縦位に施文される。12は口唇部から垂下する隆帯に沿って刺突文が施される深鉢口縁部片である。13・14は撚糸文が縦位に施される深鉢口縁部片である。15は刃部欠損の斧状土製品で、基部に孔をもつ。全面に単節縄文が縦位に施文される。16~18は土偶で、貼付文により乳房・臍が表現される。16・18は体部で、円形刺突列が体形に沿って施される。17は頭部で、後頭部と耳部が大きく張り出し、耳部には孔が施される。輪郭は卵形を呈し、隆線により眉・鼻、刺突文により目・口が表現される。19は三角柱状土製品で、長軸方向の貫通孔は未完成である。表面には形状に沿って円形刺突列が施される。

(6) 平安時代の竪穴住居跡・土坑 (第2分冊 第63・150~156図)

RA0506 竪穴住居跡 (第2分冊 第150図)

- 位置** L2区 **平面形** 北西端に張り出し部を持つ方形 **主軸方向** N46° E
- 規模** 北東-南西上端4.85m・下端4.72m、北西-南東上端4.86m・下端4.74m、深さ0.41m
- 重複関係** RA066を切る。 **掘込面** 削平 **検出面** II a層上面
- 埋土** A~G層に大別される。A~C層は竪穴埋土、D層は床構築土、E層は周溝埋土、F・G層はピット埋土である。
- 壁の状態** 外傾して立ち上がる。 **床面の状態** ほぼ平坦。床構築土(D層)が認められる。
- カマド** カマドは北東壁東寄りに位置する。煙道平面形は溝状で、底面は後世の削平により部分的に破壊されているが、燃烧部や煙出部より一段高い構造になっている。規模は北東壁から煙出し先端までの長さ1.40m・幅0.29m・深さ0.15~0.30mをはかる。燃烧部は角礫・円礫などの石材で構築し、褐色シルト・黄褐色粘質土・白色粘土の混合土(K層)で石組部を補強する。規模は焚口-煙道基部1.08m・基底部幅0.56m・高さ0.40m(カマド残存部)をはかる。
- 施設等** カマド右袖に接して貯蔵穴を検出した。楕円形を呈し、規模は上端0.48~0.70m・下端0.32~0.50m・床面からの深さ0.20mをはかる。
- 出土遺物** 図示していないが、あかやき土器坏、土師器坏・甕片が出土している。

RA0507 竪穴住居跡 (第2分冊 第151図)

- 位置** M2区 **平面形** 方形 **主軸方向** E25° S
- 規模** 南東-北西上端8.00m以上・下端7.56m、北東-南西上端6.85m・下端6.50m、深さ0.19m
- 重複関係** RA200・508を切る。 **掘込面** 削平 **検出面** II a層上面
- 埋土** A~F層に大別される。A・B層は竪穴埋土、D層は周溝埋土、E・F層はピット埋土である。
- 壁の状態** 外傾して立ち上がる。 **床面の状態** ほぼ平坦
- カマド** カマドは後世の削平により破壊され、燃烧部と煙出部のみ残存する。南東壁南寄りに位置し、煙出し底面は床面より深くなっている。燃烧部には芯材として土師器小形甕(第3分冊・第186図4)が据えられている。規模は南東壁から煙出し先端までの長さ1.78m・深さ0.49mをはかる。
- 出土遺物 (第3分冊 第186図1~4)** 1はロクロ成形によるあかやき土器坏で、底部切り離しは回転糸切無調整である。2はロクロ成形による土師器坏で、口縁部にかけて内湾気味に立ち上がる。内面に黒色処理およびヘラミガキが施される。3はロクロ成形による土師器小形甕で、底部切り離しは回転糸切無調整である。4は芯材に転用された土師器小形甕で、器面調整は口縁部が内外ともにヨコナデ、体部は外面がヘラケズリ調整、内面がヘラナデ後にヘラケズリを屈曲部に施すが、部分的にヘラミガキ様の細い単位が認められる。

RA0508 竪穴住居跡 (第2分冊 第151図)

- 位置** M2区 **平面形** 方形 **主軸方向** S22° E
- 規模** 南東-北西上端4.90m・下端4.79m、北東-南西上端4.50m・下端4.44m、深さ0.09m
- 重複関係** RA507に切られ、RA200を切る。 **掘込面** 削平 **検出面** II a層上面

埋 土 A・B層に大別される。A・B層は竪穴埋土である。
壁の状態 外傾して立ち上がる 床面の状態 ほぼ平坦 カマド 不明
出土遺物 図示していないが、あかやき土器甕、土師器坏片が出土している。

RA0509 竪穴住居跡 (第2分冊 第152図)

位 置 M2区 平面形 方形 主軸方向 N11° W
規 模 北-南上端2.44m・下端2.16m、東-西上端2.50m以上・下端2.50m、深さ不明
重複関係 なし 掘込面 削平 検出面 II a層上面
埋 土 A・B層に大別される。A層は竪穴埋土、B層はピット埋土である。
壁の状態 外傾して立ち上がる。 床面の状態 ほぼ平坦 出土遺物 なし
カマド カマドは後世の攪乱により破壊され、南東壁付近に燃焼部の火床面のみ残存する。

RA0510 竪穴住居跡 (第2分冊 第152図)

位 置 M2区 平面形 方形 主軸方向 N16° W
規 模 北-南上端2.85m・下端m、東-西上端2.73m・下端m、深さ0.18m
重複関係 不明 掘込面 削平 検出面 II a層上面
埋 土 A～C層に大別される。A層は竪穴埋土、B層は床構築土、C層はピット埋土である。
壁の状態 外傾して立ち上がる。 床面の状態 ほぼ平坦。床構築土(D層)が認められる。
カマド 不明 出土遺物 図示していないが、土師器坏が出土している。

RA0511 竪穴住居跡 (第2分冊 第153図)

位 置 L3区 平面形 不整形 主軸方向 E46° S
規 模 東-西上端4.96m・下端4.72m、北-南上端5.48m・下端5.26m、深さ0.42m
重複関係 RA274を切る。 掘込面 削平 検出面 II a層上面
埋 土 A～F層に大別される。A～D層は竪穴埋土、E層は床構築土、F層は貯蔵穴埋土である。
壁の状態 外傾して立ち上がる。 床面の状態 ほぼ平坦。床構築土(D層)が認められる。
カマド カマドは南東壁南寄りに位置する。煙道平面形は溝状で、底面は後世の削平により煙出部が失われているが、煙道から燃焼部へ向かって緩やかに傾斜し、煙道側面は角・円礫による石組みで補強される。規模は南東壁から煙出し先端までの長さ0.87m以上・石組み内の幅0.17m・深さ0.25mをはかる。燃焼部は角礫・円礫などの石材で構築し、褐色シルト・黄褐色粘質土・白色粘土の混合土(K層)で石組部を補強する。規模は焚口-煙道基部0.76m・基底部幅0.40m・高さ0.36m(カマド残存部)をはかる。
施設等 カマド右袖に接して貯蔵穴を検出した。不整楕円形を呈し、規模は上端0.88～1.03m・下端0.71～0.78m・床面からの深さ0.23mをはかる。
出土遺物 図示していないが、あかやき土器甕、土師器坏・鉢・甕が出土している。

RA0512 竪穴住居跡 (第2分冊 第154図)

位 置 M3区 平面形 方形 主軸方向 S14° E
規 模 南-北上端3.82m・下端3.66m、東-西上端4.78m・下端4.62m、深さ0.52m

重複関係 なし 掘込面 削平 検出面 II a層上面
 埋土 A～G層に大別される。A～D層は竪穴埋土、E層は床構築土、F・G層はピット埋土である。
 壁の状態 ほぼ直壁 床面の状態 ほぼ平坦。床構築土（E層）が認められる。
 カマド カマドは南壁東寄りに位置する。煙道平面形は溝状で、底面は後世の削平により部分的に失われているが、燃焼部や煙出部より一段高い構造になっている。規模は南壁から煙出し先端までの長さ2.33m・幅0.68m・深さ0.23～0.38mをはかる。燃焼部は角礫・円礫などの石材で構築し、褐色シルト・黄褐色粘質土・白色粘土の混合土で石組部を補強する。規模は焚口ー煙道基部0.52m・基底部幅0.38m・高さ0.42m（カマド残存部）をはかる。
 出土遺物 図示していないが、あかやき土器甕、土師器坏・甕が出土している。

RA0513 竪穴住居跡（第2分冊 第155図）

位置 M4区 平面形 不整形 主軸方向 E22° N
 規模 北東ー南西上端5.70m・下端4.91m、北西ー南東上端5.87m・下端4.77m、深さ0.76m
 重複関係 なし 掘込面 削平 検出面 II a層上面
 埋土 A～G層に大別される。A～D層は竪穴埋土、E層は床構築土、F・G層はピット埋土である。
 壁の状態 外傾して立ち上がる。 床面の状態 ほぼ平坦。床構築土（E層）が認められる。
 カマド カマドは新旧2時期あり、新期のカマドは北東壁中央に位置する。煙道平面形は溝状で、底面は燃焼部や煙出部より一段高い構造になっている。規模は北東壁から煙出し先端までの長さ1.63m・幅0.28～0.66m・深さ0.62～0.93mをはかる。燃焼部は角礫・円礫などの石材で構築し、褐色シルト・黄褐色粘質土・白色粘土の混合土で石組部を補強する。規模は焚口ー煙道基部0.88m・基底部幅0.42m・天井部幅（石組み）0.23m・高さ0.35mをはかる。旧期のカマドは南東壁東寄りに位置し、煙道および煙出部が残存する。規模は南東壁から煙出し先端までの長さ1.69m・幅0.50m・深さ0.44mをはかる。
 出土遺物 図示していないが、あかやき土器坏・甕、土師器坏が出土している。

RA0514 竪穴住居跡（第2分冊 第156図）

位置 L4区 平面形 不整形 主軸方向 E26° N
 規模 北東ー南西上端4.50m・下端4.22m、北西ー南東上端4.21m・下端4.00m、深さ0.51m
 重複関係 なし 掘込面 削平 検出面 II a層上面
 埋土 A～D層に大別される。A・B層は竪穴埋土、C層は床構築土、D層はピット埋土である。
 壁の状態 外傾して立ち上がる。 床面の状態 ほぼ平坦。床構築土（C層）が認められる。
 カマド カマドは新旧2時期あり、新期のカマドは北東壁中央に位置する。煙道平面形は溝状で、底面は燃焼部や煙出部より一段高い構造になっており、煙道天井・側面は角・円礫による石組みで補強される。規模は北東壁から煙出し先端までの長さ1.28m・石組み内の幅0.28m・深さ0.17～0.39mをはかる。燃焼部は角礫・円礫などの石材で構築し、褐色シルト・黄褐色粘質土・白色粘土の混合土で石組部を補強する。規模は焚口ー煙道基部0.96m・基底部幅0.44m・天井部幅（石組み）0.32m・高さ0.32mをはかる。旧期のカマドは北西壁中央に位置する。燃焼部の石組みは破壊され、火床面のみ残存する。煙道平面形は溝状で、底面は燃焼部から煙出部に向かって緩やかに傾斜し、新期カマドと同様に石組みで補強される。規模は北西壁から煙

出し先端までの長さ1.50m・石組み内の幅0.26m・深さ0.48～0.63mをはかる。

出土遺物 図示していないが、土師器坏・甕が出土している。

RA0515 竪穴住居跡 (第2分冊 第153図)

位置 N3区 **平面形** 不整形 **主軸方向** E21° N

規模 北東-南西上端5.24m・下端4.92m、北西-南東上端6.15m・下端5.58m、深さ不明

重複関係 RA242を切る。 **掘込面** 削平 **検出面** II a層上面 **埋土** 罹災

壁の状態 不明 **床面の状態** ほぼ平坦。中心部付近に床構築土が認められる。

カマド 不明 **出土遺物** 図示していないが、あかやき土器坏、土師器鉢、須恵器長頸瓶が出土している。

RD0502 土坑 (第2分冊 第63図)

位置 N2区 **平面形** 楕円形 **長軸方向** N18° E

規模 長軸上端3.36m・下端2.71m、短軸上端1.14m・下端0.92m、深さ0.69m

重複関係 RA219・RD440を切る。 **掘込面** 削平 **検出面** II a層上面

埋土 A～C層に大別され、各層はさらに細別される。 **壁の状態** ほぼ直壁

底面の状態 ほぼ平坦

出土遺物 (第3分冊 第187図 1～5) 1～3はロクロ成形による土師器小皿である。4は口縁部欠損の土師器高台付坏である。5はロクロ成形による土師器坏で、内外面ともに黒色処理およびヘラミガキが施される。

(7) 中世の竪穴建物跡 (第2分冊 第157図)

RA0801 竪穴住居跡 (第2分冊 第157図)

位置 L2区 **平面形** 南西端に張り出し部を持つ方形 **主軸方向** S30°W
規模 南西-北東上端3.97m・下端3.65m、南東-北西上端3.79m・下端3.50m、張り出し部長軸上端2.00m・下端1.80m、短軸上端1.38m・下端1.20m、深さ0.11~0.33m
重複関係 不明 **掘込面** 削平 **検出面** II a層上面
埋土 A~E層に大別される。A~C層は竪穴埋土、D層は周溝埋土、E層はピット埋土である。
壁の状態 外傾して立ち上がる。 **床面の状態** ほぼ平坦 **出土遺物** なし
焼土 北東壁東寄りに焼土が認められる。規模は0.40~0.50mをはかり、不整形な形状を呈する。
柱穴 P1~18が床面より検出されている。四隅と各辺より建物を構成する柱穴が6口 (P4・6・11・13・14・17) 確認されており、P6ピットには柱痕跡が認められる。壁面下には小柱穴 (周溝) が確認されている。各柱穴の深さは次のとおりである。P1-0.34m・P2-0.21m・P3-0.05m・P4-0.25m・P5-0.23m・P6-0.28m・P7-0.22m・P8-0.08m・P9-0.11m・P10-0.05m・P11-0.33m・P12-0.07m・P13-0.22m・P14-0.18m・P15-0.10m・P16-0.11m・P17-0.26m・P18-0.18m

Ⅲ. 縄文時代の遺構・遺物について

1. 調査の概要

柿ノ木平遺跡 柿ノ木平遺跡は、昭和8年のキャリパー形深鉢の出土以来、岩手県における縄文時代中期の集落遺跡として著名な遺跡である。昭和50年度の宅地開発に伴う発掘調査以来、断続的な緊急発掘調査が実施され（第1～7次調査）、平成8年度より浅岸地区区画整理事業に伴う発掘調査が開始された。

区画整理事業範囲はほぼ柿ノ木平遺跡全域に及び、調査の結果、縄文時代の竪穴住居跡258棟（R A017～275）、掘立柱建物跡3棟（R B101～103）、土坑850基（R D042～891）、平安時代の竪穴住居跡9棟（R A0506～0514）、中世の竪穴建物跡（R E0801）、溝跡7条、柱穴2,664口、遺物総数はコンテナ（35cm ×55cm）937箱分に及び、復元可能土器個体数344個体を数える。しかし、調査継続中の平成12年12月24日に発生した文化財調査室の火災により、多くの調査記録や出土遺物が罹災した。柿ノ木平遺跡出土遺物についても例外ではなく、本報告において図示できなかったものや未掲載にせざるを得ないものもあった。

罹災したのは、平成9年～12年度に実施された調査区の調査記録及び出土遺物の一部（第9・12・13・16・18・20・21次）で、出土遺物の大部分については別倉庫に保管されていた為、罹災から免れた。しかし、第9・12・16・18次調査で検出された伏甕を含む出土遺物の一部や記録が未整理の状態で失われた為、遺構・遺物数は現地説明会や調査報告会等で発表した数と本報告で報告する数とは一致しない。

2. 縄文時代の集落について

縄文時代の遺構分布 縄文時代の遺構・遺物は遺跡のほぼ全域で確認されているが、特に集中するのは中津川に面した段丘縁辺と遺跡中央部にあたるN3区付近である。地区別に遺構の構築時期を見ると、L1・2・3、M2区北西部の段丘北西隅には、縄文時代中期後葉から末葉（大木8b～10式併行期）にかけての集落（北西集落）、N2区の段丘北辺部には縄文時代後期初頭（大木10式～門前式併行期）の集落（北東集落）、M3・4、N3・4区の遺跡中央部には、縄文時代中期末葉（大木9～10式併行期）の集落（南東集落）が立地する（第Ⅲ-1図）。北西集落と南東集落は土器型式からみて時期的に重なることから中期末葉において2つの居住空間が存在していたことが明らかである。

なお、堰根遺跡においても中期末葉の集落が検出されていることから、中期末葉になると段丘面上の近接した場所に3集落が同時に存在していたことになる。どのような集落関係であるかは不明であるが、最も長期に渡り存続した北西集落がこれらの集落の拠点であったと考えるのが妥当であろう。



第Ⅲ-1図 柿ノ木平遺跡集落分布図 (1:1,200)

北西集落(第Ⅲ-1図) 段丘の北側と西側が中津川により侵食され、三角状に張り出た段丘端に土坑群を形成し、その外側に住居域が形成される扇状の集落である。集落の時期は中期後葉から末葉(大木8b式~大木10式併行期)にかけての時期である。

北西集落は、柿ノ木平遺跡で最も重複の激しい地区で、さらに近現代においても宅地や耕作地として利用されていたため遺構の残存状況が悪く、竪穴住居跡に至っては部分的にしか残存していない。なお、文中の竪穴住居跡の棟数は昭和50・51・57・59年度分も含めたものである。
集落の時期 時期別で、大木8b-1式併行期(I群)約7棟、8b-2式併行期(II群)約9棟、大木8b-3式併行期(III群)約34棟、大木9式併行期(II~V群)約32棟、大木9式併行期(VI~VII群)約23棟、大木10式併行期(VIII群)約21棟、後期初頭約3棟、時期不明約83

棟である。大木8b-1・2式併行期においては10棟に満たない数であるが、8b-3式併行期になると増加する傾向を見せ、段丘隅を囲うように住居配置が列状となる。住居の列状配置は大木9式併行期まで続くが、大木10式併行期になると配置が崩れるようである。しかし、大木10式併行期においても段丘隅まで住居域が拡大されないことから一貫した規制が働いていたことが考えられる。

南東集落(第Ⅲ-1図) 段丘中間部に立地する集落である。集落の主な時期は中期末葉(大木9式～大木10式併行期)にかけての時期である。

集落の時期 時期別で、大木9式併行期(Ⅱ群)5棟、(Ⅴ群)2棟、(Ⅵ群)3棟、(Ⅶ群)4棟、後期初頭1棟、時期不明または資料が罹災した竪穴住居跡が19棟である。

集落は大木9式併行期(Ⅱ群)より形成され、集落の形状は基本的には弧状を呈するが、大木10式併行期(Ⅷ・Ⅸ群)では半円状となり、住居が構築される範囲も縮小される。南東集落は、北西集落のように土坑域などを設けず、数棟の竪穴住居で構成される小規模な集落と考えられる。

3. 竪穴住居内より検出された伏甕について

過去の出土例 柿ノ木平遺跡における伏甕の発見は、昭和8年に行われた上水道敷設工事中に1個体の底部穿孔深鉢が出土したことに始まる。昭和30年4月にも耕作中に底部穿孔された深鉢が伏せられた状態で2個体発見された(1956 吉田義昭「甕棺と思われる縄文文化中期の土器群」石器時代3号)。しかし、これらの土器は工事中や耕作中の偶然的な出土の為、発見時は逆位であったこと以外の詳細は不明であった。

平成2年度に盛岡市教育委員会によって実施された大館町遺跡第37次発掘調査では、竪穴住居の石囲炉の中央を通る中軸線上に2基の伏甕が検出され、さらに床面から底部穿孔部まで細かい空洞(貫通孔)で繋がれていたことや土器埋設後に貼床されていたことも確認された(1991 盛岡市教委「大館遺跡群-平成2年度発掘調査概要」)。

大館町遺跡の調査例により、伏甕の埋設方法や埋設位置がある程度把握され、盛岡市内における縄文時代中期の竪穴住居跡の精査は伏甕が存在することを前提に進められた。結果、盛岡市教育委員会調査分で繫Ⅴ遺跡(1995 盛岡市教委「繫遺跡-平成5・6年度調査概報」)、猪去館遺跡(1995 盛岡市教委「上平遺跡群-猪去館・上平Ⅱ遺跡」)、川目C遺跡(未報告)、大館町遺跡(1997 盛岡市教委「大館町遺跡群-大館町遺跡-」)より伏甕が相次いで発見される。

柿ノ木平遺跡 柿ノ木平遺跡は浅岸地区区画整理事業に伴い遺跡全域が調査対象とされ、平成8年度より本調査が開始された。初年度の第9次調査区は、昭和30年に発見された伏甕の出土地点と重なることから追加資料の出土が期待された。調査では、伏甕の埋設位置・状況・時期の確認に主眼が置かれ、さらに工事中・耕作中など「偶然的に出土」する例が多い原因を解明させることも考えた。

調査の結果、北西集落より伏甕26個体(その他14個体分の深鉢と図面が罹災の為不明。数は調査日誌、調査記録カードを参照とした)、伏甕の可能性のあるものが3個体、底部穿孔が施される深鉢が2個体の計31個体分が検出された。また、過去に出土した底部穿孔深鉢5個体を

含めると柿ノ木平遺跡全体で36（50）個体分の伏甕及び関連土器が出土したことになる。

伏甕は全ての竪穴住居に付属するものではなく、長軸4.5m以上の竪穴住居跡に多く、6.5mを超える竪穴住居跡ではほぼ埋設されていた。埋設位置は炉を通る中軸線上に埋設されているのが一般的であるが壁際に埋設されていたものもある。

伏甕が埋設されていた竪穴住居跡及び底部穿孔深鉢は下記の通りである

位置が明らかな伏甕 R A 018（1基）・021（2基）・022（1基）・035（2基 壁際）・038（1基）・040（2基 内1基は石蓋）・041（2基 内1基は壁際?）・042（1基 罹災）・054（1基）・153（1基 木板による蓋?）・162（4基）・188（1基）・194（2基）

埋設位置不明の伏甕 R P 007（1基）・008（1基）・009（1基）・010（1基）・011（1基）

伏甕の可能性のあるもの R A 019（1基 罹災）・039（1基 ピット24が該当）・050（1基 ピット53が該当）

底部穿孔深鉢 R A 194（第3分冊第100図5）・271（第3分冊第136図4～11）

伏甕についての所見 本報告において図示された伏甕を伴う竪穴住居跡は13棟であるが、重複により原形を留めない住居跡が多く、埋設位置が明らかな住居跡はR A 021・022・038・040～042・054・162・188・194の10棟であった。本稿では調査所見のみ記述し、伏甕の用途・他遺跡の類例等との比較検討は後学に委ねるものとした。

埋設位置 前述した通り、炉を通る中軸線上より検出されたものが多い。R A 194が代表的な例で、R A 021・022・038・040～042・162・188が該当する。R A 194は長軸8,82m×短軸6,35mの竪穴住居で、炉の延長上に2基の伏甕が埋設されていた。埋設位置はP 6・P 17間、P 15・P 21間の支柱穴間（梁間）に各1基埋設されるなど、住居の中央付近を意識した規則的な埋設であったことが推測された。同様の例はR A 038・041でも見られた。しかし、R A 188のように支柱穴間から外れた位置に埋設するなど一様ではない。

R A 194の伏甕は伏甕1・伏甕2の2基であるが（第2分冊第58図）、伏甕1は底部穿孔部が破損し、破損部分が土器内部に落下した状態であった。伏甕が崩れた跡は丁寧に埋め戻されるなど、貫通孔が残る伏甕2とは対照的であった。このことから、伏甕が生活時に何らかの事情で破損した場合、新たに伏甕を埋設していたことが推測された。

なお、R A 022では、破損後に窪地を完全に埋め戻しているが、新たな埋設はされていない。R A 194・022の伏甕破損例をみると、伏甕が破損した場合、同一箇所を掘り直して再埋設することはなく、埋める場合は別地点に新設したようである。

埋設方法 伏甕を埋設する掘り込みは例外なく埋設する土器の最大径に近い大きさである。底部穿孔部は、床面を結ぶ穴（貫通孔）で通され、貫通孔以外は埋め戻されるものがある。貫通孔の長いものはR A 054の例で約20cmあり（第2分冊第21図）、内部は空洞である。そのため、伏甕埋設時においては筒状の器などを設置することにより空洞を維持していたことが考えられた。R A 040伏甕1（第2分冊第15図）は貫通孔上に扁平な円礫、R A 153（第2分冊第41図）では木板（炭化 罹災）による蓋が施され、蓋下から底部穿孔部は空洞であったことから空洞が存在していたことが追認できる。一方で、R A 038（第2分冊第14図）、R A 162伏甕4（第2分冊第46図）のように底部穿孔部を床面に露出させるものもある。

伏甕は埋設後、床面と同様の土を用い、外観上は床面と区別出来ない埋め戻しを行っている

場合が多い。R A162伏甕1～3（第2分冊第46図）は、埋設後に貫通孔を残し褐色粘質土によって床張りされていた。同様の例はR A022・040・054・153・188・194でも見られ、埋設後は蓋となる物質か小さな孔だけが床面に表れていたのだろう。伏甕の検出に際しては、周囲との乾燥の違いと予定箇所中央の小さなピットの有無を確認して行った。このことから、工事・耕作時に発見される例が多いのは、土色による検出ではなく偶然に下位の層まで掘削したため発見されたものと思われ、恐らくは他遺跡においても数多くの伏甕が貼床下にあるものと感じられた。

伏甕の時期 伏甕は、大木8b式併行期全般（I～III群段階）と大木9式併行期への過渡期（II群段階）に埋設される。盛岡市川目C遺跡では大木8a式併行期の伏甕が検出され、柿ノ木平遺跡における大木9式（V～VII群）、大木10式併行期では伏甕が検出されないことから大木8a～9式古段階併行期の限られた時期に流行した施設と考えられる。

類似する遺構 前述した伏甕が埋設される位置に柱穴ではないピットが掘り込まれる住居跡がある。R A039竪穴住居跡P24（第2分冊第14図）は、伏甕が埋設される条件と同様の位置に掘り込まれ、図中の断面図において若干窪む箇所が褐色粘質土による貼床土であった。精査時に貼床の記録を欠かした為、不明確なものとなったが、伏甕の有無以外は共通する遺構であり、同様の遺構について今後は注意する必要がある。

4. 出土遺物について

出土遺物 平成8年度から平成15年度まで行われた発掘調査により、縄文時代中期初頭～晩期、弥生時代前期、平安時代、中世、近世に至る各時代の遺物が出土している。最も出土量が多いのは縄文時代中期後葉～末葉にかけての土器で、全体の75%を占める。次いで後期初頭の土器が22%、その他の時代が3%である。

石器は、全体で約9,000点（チップ・フレークを含む）出土している。3集落分の石器としては極めて少ない数字と言えよう。チップ・フレークを除く加工痕のある石器の内訳は、石鏃128点、削器1,690点、搔器164点、石匙84点、石筥60点、礫石器2,100点である。また、北西集落の遺構埋土には、堰根遺跡の東に接する浅岸山付近で採取される滑石の碎片が含まれていることがあり、遺跡内で滑石の加工が行われていた可能性がある。

本稿では、柿ノ木平遺跡の主たる時代である縄文時代中期後葉～後期初頭の土器について紹介する。

縄文時代中期の土器 柿ノ木平遺跡では、中期初頭の大木7a式併行の土器と中期葉の8b式から大木10式併行の土器が出土している。主体となるのは大木8b式から大木10式併行の土器である。

土器分類 分類は宮城県七ヶ浜町大木冨貝塚出土土器を標式資料とする大木式『2006 早瀬・菅野・須藤「考古学陳列館所蔵大木冨貝塚出土基準資料－山内清男編年基準資料－ 東北大学総合学術博物館研究紀要第5号』を、8b式における細分は1983年に刊行された『柿ノ木平遺跡－昭和50・51年度発掘調査報告－』に掲載された高橋憲太郎氏の3細分案を引用・参考とした。

北西集落北端部の竪穴住居跡重複関係について

土器分類にあたり、RA152～156、158～178、182～191竪穴住居跡の重複関係を整理し、各竪穴住居跡の床面や床面直上付近の土器を掲載資料として抽出した。本稿においては全体図を使用して重複関係を図示する。第Ⅲ-12図は完掘した状況の平面図なので、詳細については第2分冊を参照してもらいたい。

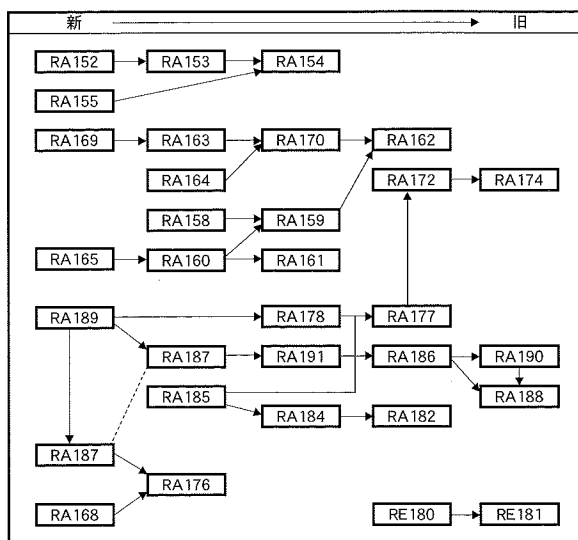
第Ⅲ-1表は北西集落北端部における住居の重複関係を示したものである。第2分冊において重複関係が明示（土層断面図）されていないものは検出順によるものである。

第Ⅲ-13～18図は、新旧関係が追える竪穴住居跡出土土器による集成図である。竪穴住居跡群は新旧の流れから大きく5大別され、大別された竪穴住居跡群の古い竪穴住居跡順に出土土器を集成した。重複関係による流れは、RA154竪穴住居跡から始まる群（第Ⅲ-3図）、RA162竪穴住居跡から始まる群（第Ⅲ-4図）、RA159竪穴住居跡から始まる群（第Ⅲ-5図）、RA182竪穴住居跡から始まる群（第Ⅲ-6図）、RA188竪穴住居跡から始まる群（第Ⅲ-7図）、RA174竪穴住居跡から始まる群（第Ⅲ-8図）の順である。

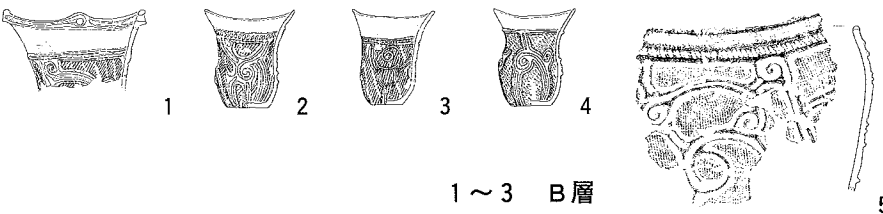
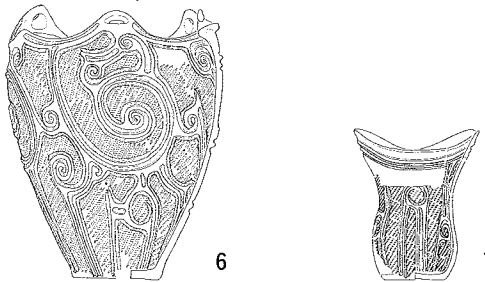

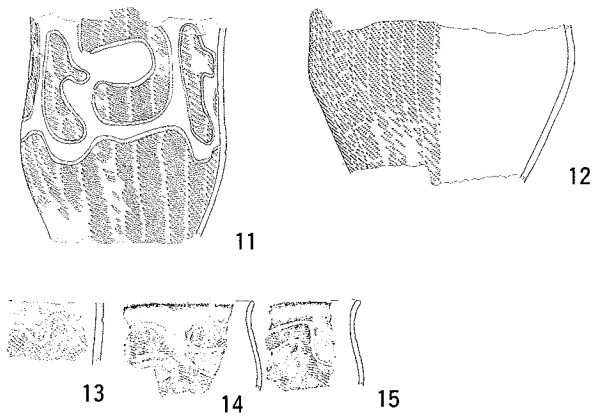


第Ⅲ-2図 柿ノ木平遺跡北西集落北端部 竪穴住居跡重複関係図 1 : 300

(新→旧)

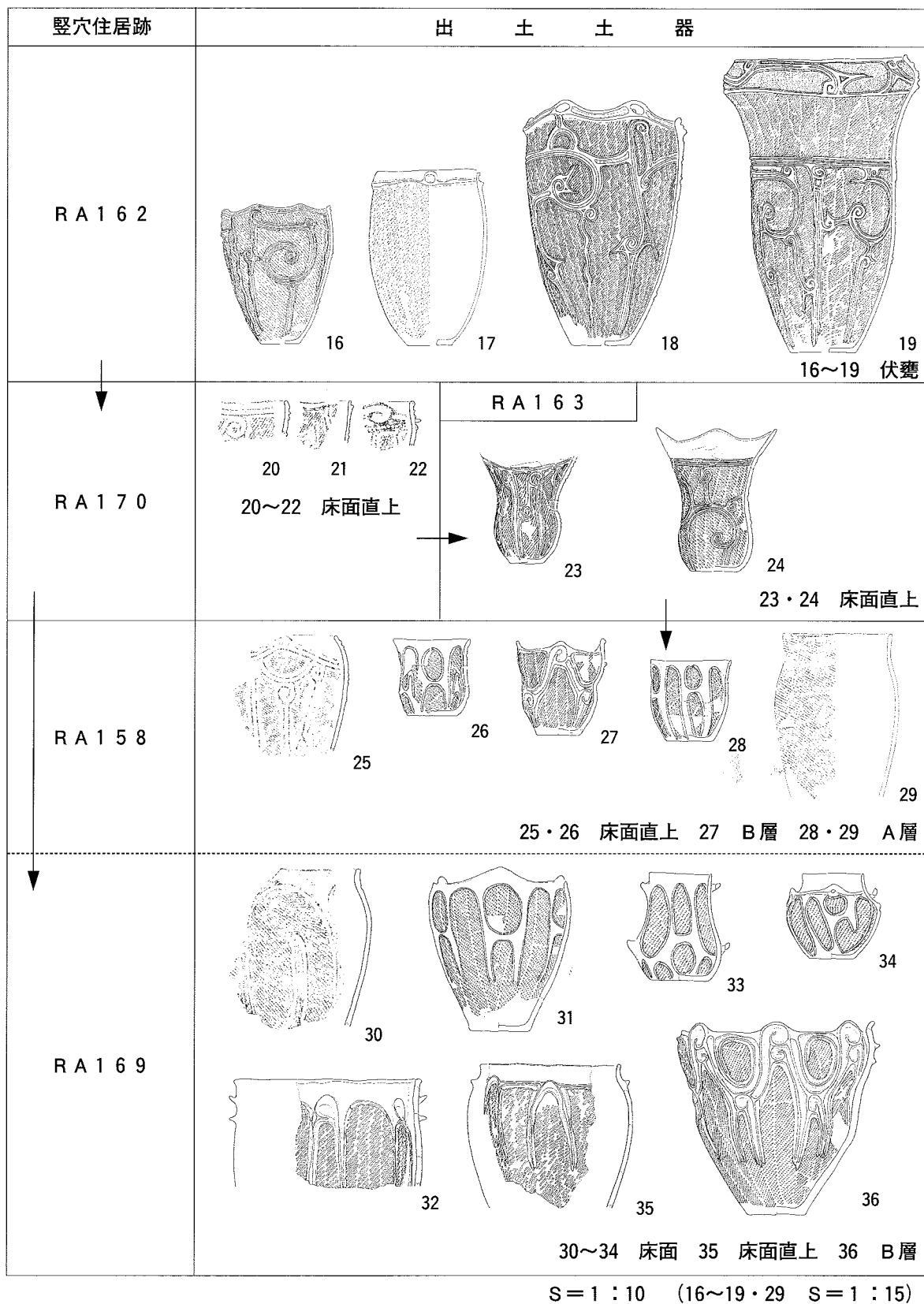


第Ⅲ-1表 竪穴住居跡重複関係一覽表

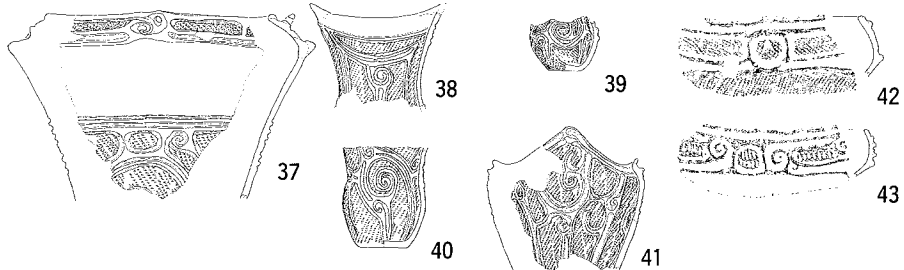
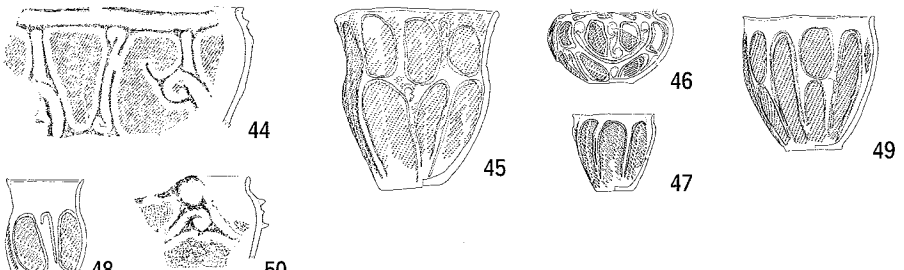
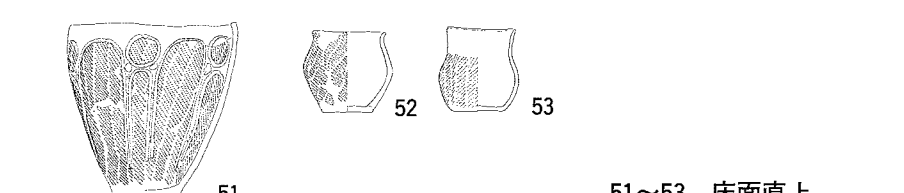
<p>竖穴住居跡</p>	<p>出土土器</p>
<p>RA154</p>	 <p>1 ~ 3 B層 4・5 A層</p>
<p>↓</p> <p>RA153</p>	 <p>6 伏甕 7 床面直上</p>
<p>↓</p> <p>RA152</p>	 <p>8 埋甕炉 9 炉埋土 10 B層</p>
<p>↓</p> <p>RA155</p>	 <p>11・12 炉 13~15 A層</p>

S = 1 : 10

第三-3図 重複関係順による土器集成1 (RA154~)

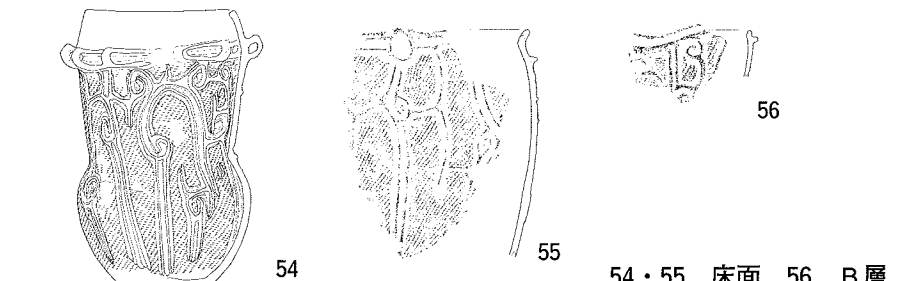
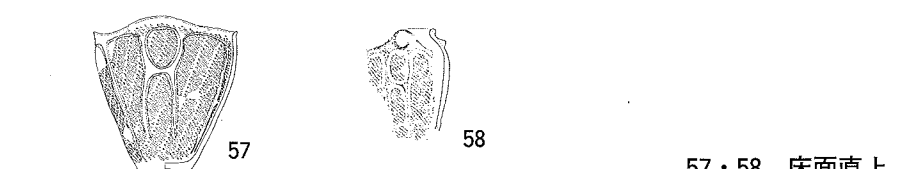


第Ⅲ-4図 重複関係順による土器集成2 (RA162~)

竪穴住居跡	出土土器
(RA162) ↓ RA159	 <p>37~39・42 床面直上 40 ピット埋土 41・43 B層</p>
↓ RA160	 <p>44 床面直上 45~48 C層 49・50 B層</p>
↓ RA165	 <p>51~53 床面直上</p>

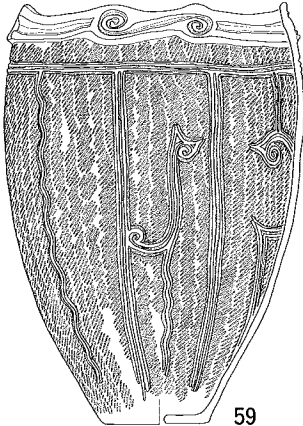
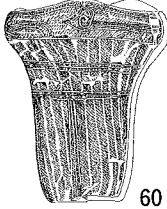
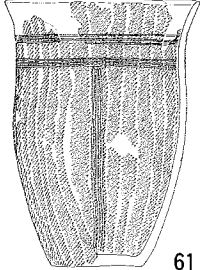
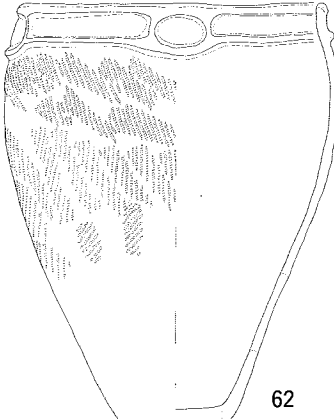






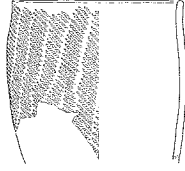








S = 1 : 10

第Ⅲ-5図 重複関係順による土器集成3 (RA159~)

竪穴住居跡	出土土器
(RA182) ↓ RA184	 <p>54・55 床面 56 B層</p>
↓ RA185	 <p>57・58 床面直上</p>

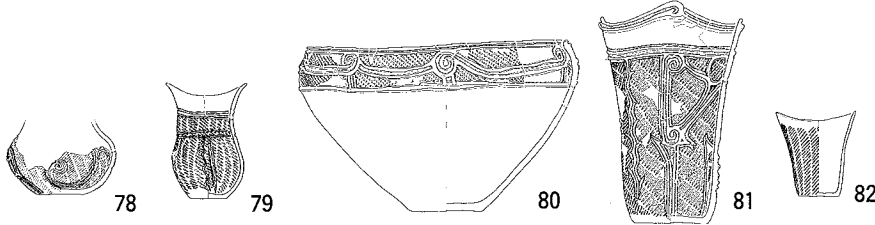
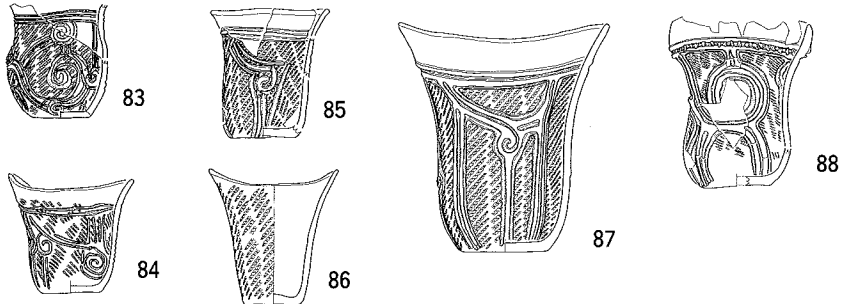
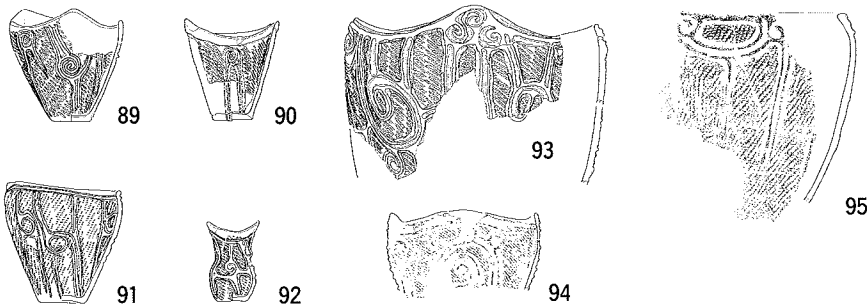
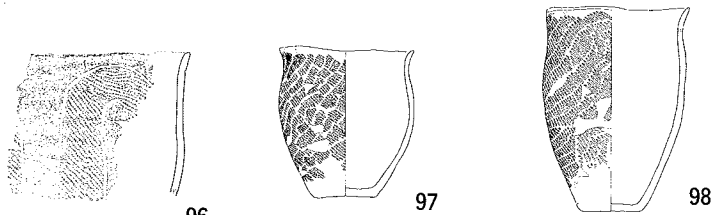
S = 1 : 10

第Ⅲ-6図 重複関係順による土器集成4 (RA182~)

豎穴住居跡	出土土器		
RA188	 <p>59</p>	 <p>60</p>	 <p>61</p>
	59 伏甕 60 床面 61 床面直上		
RA190	 <p>62</p>	 <p>63</p>	 <p>64</p>  <p>65</p>
	62 床面 63 床面直上 64・65 埋土		
RA191	 <p>66</p>	 <p>67</p>	 <p>68</p>
	66 炉 67 床面直上 68 B層		
RA187	 <p>69</p>	 <p>70</p>	 <p>71</p>  <p>72</p>  <p>73</p>
	69 床面 70~73 床面直上		
RA189	 <p>74</p>	 <p>75</p>	 <p>76</p>  <p>77</p>
	74 C層 75~77 B層		

S = 1 : 10

第三一七図 重複関係順による土器集成5 (RA188~)

豎穴住居跡	出土土器
RA174 ↓	 <p>78 79 80 81 82</p> <p>78・80・81 B層 79 A層 82 埋土</p>
RA172 ↓	 <p>83 84 85 86 87 88</p> <p>83・84 床面 85・87 B層 86・88 A層 (83~88 1:6)</p>
RA177 ↓	 <p>89 90 91 92 93 94 95</p> <p>89・90 床面 92 B層 91・93~95 A層 (89~95 1:6)</p>
RA178 ↓ (RA189)	 <p>96 97 98</p> <p>96 ピット埋土 97 床面 98 A層</p>

S = 1 : 10

第Ⅲ-8図 重複関係順による土器集成6 (RA174~)

重複関係順の土器集成（第Ⅲ－3～8図） 第Ⅲ－3～8図（土器集成1～6）は重複順を追い、各配列において最後に残された竪穴住居跡を各図の上段に配置し、各配列の竪穴住居跡出土土器を集成したものである。

第Ⅲ－3図 第Ⅲ－3図はR A 154竪穴住居跡を古段階とする配列である。R A 154・153竪穴住居跡からは口縁部がラッパ状を呈する小形深鉢と、口縁部から底部にかけて緩やかなカーブを描く深鉢が出土している。主な文様は隆沈線による渦巻文で、大木8 b－3式に併行するものである。

R A 152・155竪穴住居跡はR A 154・153を切る竪穴住居跡で、R A 152・155竪穴住居跡相互の重複関係はない。土器は体部が長く、体部下半から底部にかけて窄まる深鉢と、9のように大波状口縁を持つ深鉢が出土している。器面には横S字状文が描かれ、地文は11のように縄文を磨消すものと9・10・13～15のように縄文を文様内に充填するものがある。時期は共に大木10式古段階に併行するものと考えられる。

第Ⅲ－4図 第Ⅲ－4図はR A 162竪穴住居跡を古段階とする配列である。R A 162・170・163竪穴住居跡からは口縁部がラッパ状を呈する小形深鉢と、口縁部から底部にかけて緩やかなカーブを描く深鉢が出土している。主な文様は隆沈線による渦巻文で、大木8 b式に併行するものである。しかし、R A 162竪穴住居跡より出土した土器文様は、縦位の区画内に大渦巻文を施す特徴があり、小渦巻文を介して大渦巻文が連結されるR A 170・163の土器群とは僅かな差異が見られる。大きく見てR A 162が大木8 b－2式、R A 170・163が大木8 b－3式に併行するものと思われる。R A 163竪穴住居跡より出土した23の小渦巻文を起点に懸垂文を付加する文様は、R A 158竪穴住居跡－26・27・28、R A 169竪穴住居跡－30・33・32・35・36の文様につながるものと思われ、大木9式への移行期を示す土器であることが考えられる。

R A 158・169竪穴住居跡出土土器は口縁部から底部にかけて緩やかなカーブを描く深鉢、口縁部がやや外反する深鉢、27・36のようなキャリパー形深鉢を主体とする。文様は沈線による逆U字状文・楕円文・円文となるが、25のように隆沈線による小渦巻文を施す深鉢も共伴する。これらの特徴からR A 158・169竪穴住居跡出土土器は大木9式に併行するものと思われる。一方で25のような前段階の文様も残存することから大木9式でも古段階に併行するものと思われる。

第Ⅲ－5図 第Ⅲ－5図はR A 162竪穴住居跡を古段階とする配列であるが、R A 162竪穴住居跡出土土器は第Ⅲ－14図に掲載しているため、R A 159竪穴住居跡出土土器より配列した。

基本的には第Ⅲ－4図の変遷と同様の過程を示し、R A 159竪穴住居跡が大木8 b－3式、R A 160・165が大木9式に併行する。R A 160竪穴住居跡では、R A 158竪穴住居跡出土土器（25）に近似する深鉢（44）が出土しているが、その他の土器が埋土からの出土であるため、45～50と44の共伴関係は確実なものではない。しかし、45～48の土器は床面付近に堆積するC 1層より出土していることから、これらの土器は共伴する可能性もある。R A 165竪穴住居跡はR A 160竪穴住居跡を切るが、土器型式においては大きな差異は見られない。

第Ⅲ図－6図 第Ⅲ－6図はR A 182竪穴住居跡を古段階とする配列である。R A 182竪穴住居跡は数点の土器破片のみの出土であるため、第3分冊第91図8の土器を参照していただきたい。R A 184竪穴住居跡床面より54・55の土器が出土している。54は把手付樽形土器で、55は口唇部付近が直線状に外反し口縁部から底部にかけて緩やかなカーブを描く深鉢である。54・55の文様は

隆沈線による渦巻文を施すものであるが、口縁部下の小渦巻文と懸垂文・大渦巻文が連結することにより楕円文・逆U字状の文様が出されている。また、55の器形はR A 169 竪穴住居跡出土深鉢（第Ⅲ-14図35）と共通しているなど大木9式に近い要素を持つ土器群であることを思わせる。R A 184 竪穴住居跡を切るR A 185 竪穴住居跡では大木9式の特徴である逆U字状文や楕円文が主文様となる。

第Ⅲ-7図 第Ⅲ-7図はR A 188 竪穴住居跡を古段階とする配列である。R A 188 竪穴住居跡からは、口縁部から底部にかけて緩やかなカーブを描く深鉢（59）、キャリパー形深鉢（60）、口頸部に屈曲を持つ深鉢（61）が出土している。文様は横位平行の区画文から懸垂文を垂下させるもので、懸垂文により縦位に区画された空間には59のように渦巻文を付加する文様が施される。このような横位平行の区画文から縦位の懸垂文を垂下させる割付の手法は、大木8b-1式の参考資料とされる盛岡市大館町遺跡R A 102 竪穴住居跡下層の土器群（1981 盛岡市教委「大館遺跡群-昭和55年度調査概報」）に多く見られる。単純な比較であるがR A 188 竪穴住居跡出土土器は大木8b-1式に併行するものであろう。

R A 190・191 竪穴住居跡からは隆沈線による渦巻文を主文様とする土器が出土している。R A 190 竪穴住居跡出土土器の文様は渦巻文を隆沈線により多方向に連結させるが、R A 191 竪穴住居跡の土器群は縦位の懸垂文間に小渦巻文を取める傾向が強くなる。67・68のように懸垂文+渦巻文の間が逆U字状の文様となるなど、R A 184 竪穴住居跡出土土器と同様に大木9式に近い土器群である。

R A 187 竪穴住居跡からは、逆U字状文・楕円文を特徴とする土器が出土している。70~73は逆U字状文・楕円文を施す土器である。R A 191 竪穴住居跡を切る住居跡だが、小渦巻文が施されていた位置に楕円文を施すなど（70~73）、文様の簡略化が進行していた様子をうかがうことができる土器群である。R A 187 竪穴住居跡を切るR A 189 竪穴住居跡からは、逆U字状文や楕円文を施す土器と共に76のようなH字状の文様を施すキャリパー形深鉢が出土している。器形は口縁部が大きく開き、頸部から底部にかけて膨らみを持たさず窄むものである。同様のキャリパー形深鉢はR A 241・243 竪穴住居跡など南東集落では普遍的に存在しているが、北西集落では客体的にしか出土していないのが興味深い。

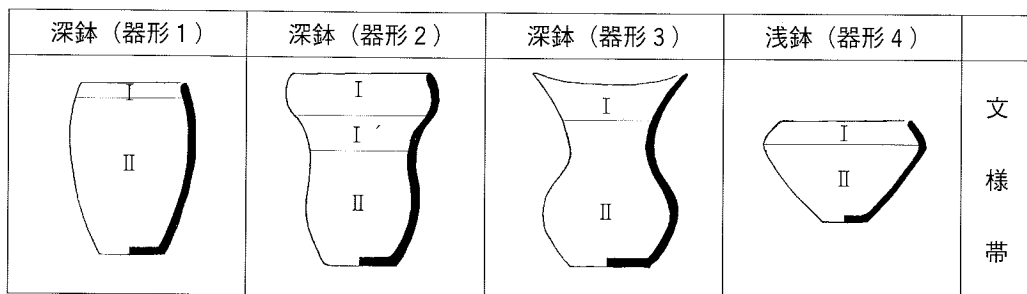
第Ⅲ-8図 第Ⅲ-8図はR A 174 竪穴住居跡を古段階とする配列である。R A 174 竪穴住居跡からは、口縁部がラッパ状となる深鉢と、平縁を呈する浅鉢が出土している。主文様は渦巻文であるが、79・82以外は主文様を短い直線で連結させるなど、R A 162 竪穴住居跡出土土器の特徴と共通するが、79のように沈線による懸垂文・縦位の波状文を施す深鉢など古期の様相を持つ土器も出土している。R A 172 竪穴住居跡では主文様となる渦巻文が曲線で連結され、連結箇所にも渦巻文を施す傾向が強くなる。しかし、R A 177 竪穴住居跡出土土器の文様は、渦巻文を起点とする横位の文様展開よりも縦位方向の文様が意識されるようになる（90・91）。その現象は大木9式の文様に関連されるものと思われるが、93・94のように大渦巻文を中心とする前段階の文様も残存するなど過渡的な土器群として位置づけられる。

土器変遷について 第Ⅲ-3~8図の重複関係に基づき、柿ノ木平遺跡における縄文時代中期後葉~末葉にかけての土器集成図を作成した。土器集成図については、竪穴住居跡の重複関係から得られた成果と補填資料として同時期と思われる他の竪穴住居跡出土土器を含めている。

大木8b式併行期(第Ⅲ-10図1~18) 大木8b式併行の土器はⅠ~Ⅲの3群に細別され、高橋編年による大木8b-1~3式を参考とした。

Ⅰ群土器(第Ⅲ-10図1~4) 盛岡市大館町遺跡RA102竪穴住居跡下層土器、高橋編年の大木8b-1式に相当する。器形は器壁が緩やかな曲線を描く深鉢(器形1)、底部から直線的に立ち上がり、口縁部が内湾して膨らむキャリパー形深鉢(器形2)が主体的で、特に器形2のキャリパー形深鉢が多いようである。

文様帯は口縁部文様帯(Ⅰ文様帯)と体部文様帯(Ⅱ文様帯)に二分され、口縁部文様帯は横位、体部文様帯は縦位を意識した文様が描かれる。文様帯の境界(Ⅰ')は隆線・沈線による1~3条の横位平行線によって区切られるものが多い。体部の文様は前記した境界に描かれる横位平行線から垂下する懸垂文が主な文様となり、第Ⅲ-20図1のように懸垂文間の区画に有棘渦巻文や縦位の波状文が描かれるものもある。



第Ⅲ-9図 土器の基本器形図

Ⅱ群土器(第Ⅲ-10図5~7) 盛岡市大館町遺跡RA102竪穴住居跡上層土器、高橋編年の大木8b-2式に相当する。土器の基本的な器形はⅠ群土器と大きくは変わらない。しかし、器形2がやや減少し、器形1のような深鉢が増加する。しかし、器形2の深鉢は数が減少しながらも大形化する傾向があり、柿ノ木平遺跡では73cm、大館町遺跡では96cmに及ぶ大形土器が製作される。文様帯は体部文様帯(Ⅱ文様帯)が発達し、Ⅰ群土器で見られた縦位の区画内に大胆な渦巻文や意匠文[?]が描かれるようになる。文様は小渦巻文や短い直線的な平行線で連結されるようになる。第Ⅲ-10図7はその代表的な土器で、区画の境界や文様の連結点に小渦巻を介し、図中の体部中央付近には区画となる懸垂文と区画内に描かれる渦巻文を結ぶ短い直線的な平行線が見える。

Ⅲ群土器(第Ⅲ-10図8~18) 器形1の深鉢を主体に隆沈線による渦巻文が特徴的な土器群である。矢巾町大地渡遺跡出土土器(1981 相原康二「東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅶ-大地渡遺跡」 岩手県教委)、高橋編年の大木8b-3式に相当する。柿ノ木平遺跡ではRA162竪穴住居跡を切るRA159・170竪穴住居跡、RA170竪穴住居跡を切るRA163竪穴住居跡の重複関係により高橋編年の追認をすることができた。

器形は器形1・2の他に器形3のような口縁部がラッパ状に広がり、体部が球形状に膨らむ深鉢が多数製作されるようになる。器形3の多くは12cm前後の小形であるが、稀に30cmを超えるものもある。文様はⅠ・Ⅱ群土器で見られた縦位の文様区画が薄らぎ、Ⅰ文様帯は閉塞的になりⅡ文様帯がほぼ器面全体を占めるようになる。Ⅰ文様帯の閉塞化は新しくなるほど進行し、器形1の深鉢を見る限り、Ⅱ群土器の段階では口唇部の装飾下にⅡ文様帯が迫るようになる。

Ⅲ群土器文様の特徴は、4単位の大渦巻文を中心に小渦巻文を介した連結文が顕著となることである。R A 190 竪穴住居跡を切る R A 191 竪穴住居跡、R A 153 竪穴住居跡を切る R A 153 竪穴住居跡、R A 158 竪穴住居跡を切る R A 158 竪穴住居跡の重複例と文様組成をそれぞれⅡ群土器に近い類、Ⅱ群土器に近い類に分けた場合、Ⅲ群土器は大きく2類に分類が可能である。第Ⅲ-20 図9のようにⅠ・Ⅱ群土器で見られた縦位の区画を意識した文様を残す土器を有する類(1類)(第Ⅲ-10 図8~12)、第Ⅲ-10 図13~18のように大渦巻文を中心に小渦巻文を介しながら横位に文様が展開する類(2類)に分けられる。2類土器では第Ⅲ-10 図14のように小渦巻文を懸垂文による縦位の区画内に収める文様が現れる。この種の文様は次段階の土器群でも見られ、Ⅳ群土器では小渦巻文から円文に簡略化される土器も現れる(第Ⅲ-11 図40)。

Ⅲ群土器とした土器群は、口縁部文様帯(装飾突起や口唇下の刺突列・横位太沈線等)が残存し、Ⅰ・Ⅱ群土器で見られた縦位区画が薄れ、大渦巻文を中心とする横位展開の文様構成を主にすることからⅠ・Ⅱ群土器の末期的な土器群と考えられる。

大木9式併行期(第Ⅲ-10 図19~第Ⅲ-13 図104) 大木9式併行の土器はⅣ~Ⅶの4群に細別される。

Ⅳ群土器(第Ⅲ-10 図19~11 図53) 器形1の深鉢を主体とし、口縁部文様帯(Ⅰ文様帯)が閉塞・無文化する。体部文様帯(Ⅱ文様帯)は口唇下まで拡大し、渦巻文と渦巻文を簡略化させた円文・楕円文・逆U字状文が主要な文様となる段階。

Ⅳ群土器は、R A 165 竪穴住居跡に切られる R A 160 竪穴住居跡、R A 185 竪穴住居跡に切られる R A 184 竪穴住居跡の重複関係と、Ⅲ群土器に文様構成が近い群、Ⅴ群土器に文様構成が近い群に分けることにより2類に分類することができる。1類は大渦巻文を簡略化または欠けさせ、小渦巻文または「の」の字状に簡略化した渦巻文を起点に懸垂文を描く土器(第Ⅲ-10 図22・23)を有する土器群(第Ⅲ-10 図19~24)、2類は小区画が完全に楕円文などの文様として独立し、渦巻文は口縁部、文様端部に規則的に配置される。大渦巻文が描かれる土器も製作されるが、渦巻部が「の」の字状に簡略化されているものが多い(第Ⅲ-11 図25~53)。

Ⅴ・Ⅵ群土器(第Ⅲ-12 図53~82) 器形1の深鉢を主体に、楕円文・逆U字状文を主文様とする土器群である。分類の基準は R A 160・165 竪穴住居跡の重複関係と第Ⅲ-12 図53・62のⅢ群土器の特徴を残す深鉢を有する土器群(Ⅴ群)、Ⅲ群土器の特徴を残さない土器群(Ⅵ群)に分けたものである。Ⅳ群土器との大きな違いは地文となる縄文を磨り消して無文部を表出していることである(第Ⅲ-12 図54~56・66・69~71・73・74・76・77・79・80~82)。また、Ⅵ群土器では文様区画内に縄文を充填させる土器もある(第Ⅲ-12 図72)。

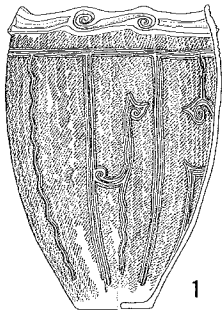
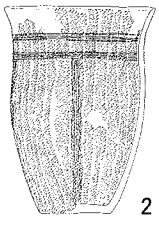
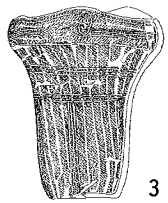

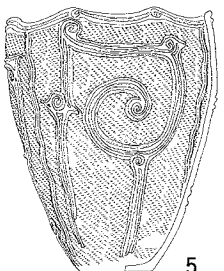
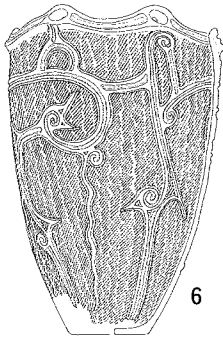
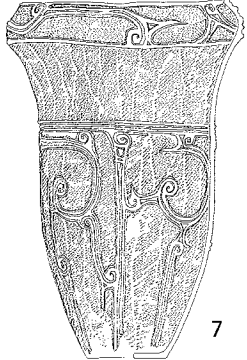


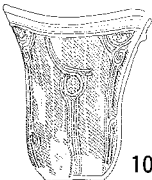


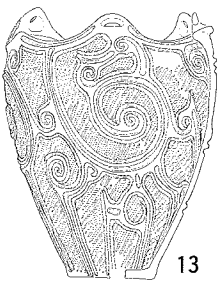
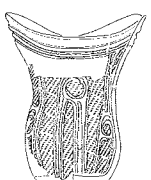
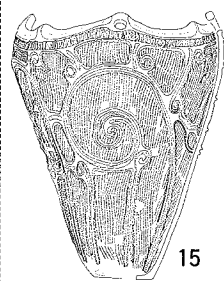



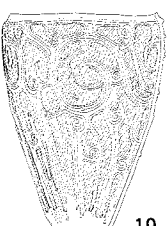


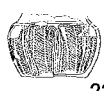


Ⅶ群土器(第Ⅲ-13 図83~104) 口縁部が外反する深鉢を主体とし(第Ⅲ-13 図85~87・92~94・97・102~104)、波状口縁を呈するキャリパー形深鉢(第Ⅲ-13 図83・84・100・101)を土器組成に含む。文様は、区画内に刺突を施すもの(第Ⅲ-13 図83・84・92)、H字状などの所謂「アルファベット文」が描かれるものがある(第Ⅲ-13 図88・89)。地文は文様区画内に縄文を充填させる施文手法が盛行する。

大木10式併行期(第Ⅲ-13 図105~123) 大木10式併行の土器はⅧ~Ⅹ群の3群に細別される。

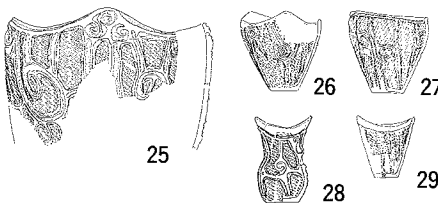
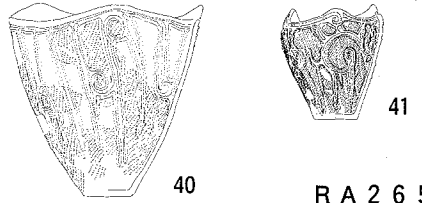
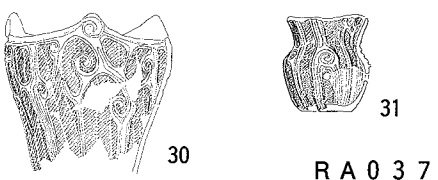
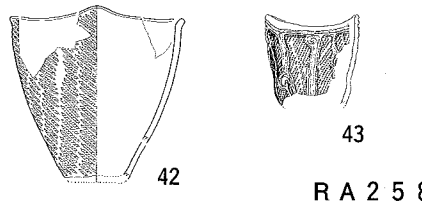
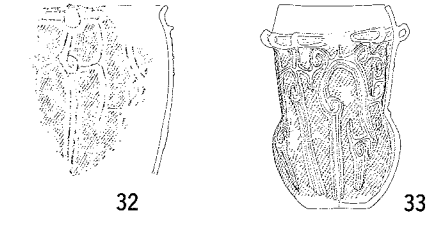
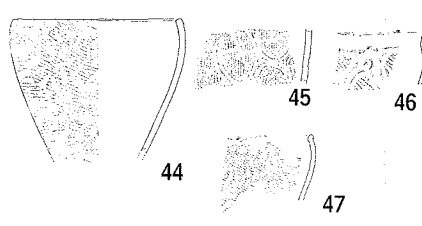
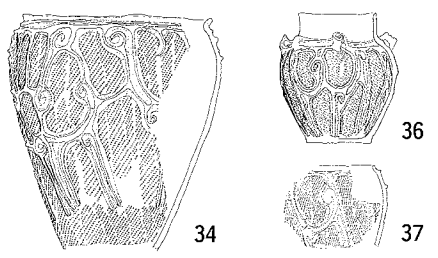
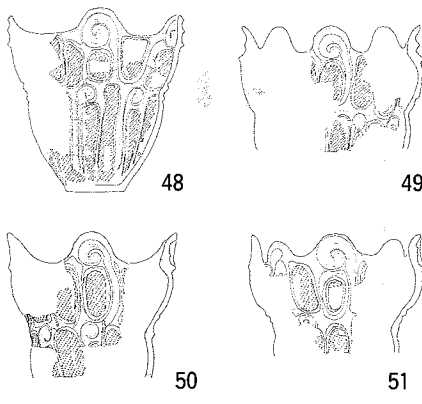
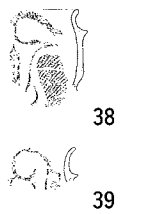
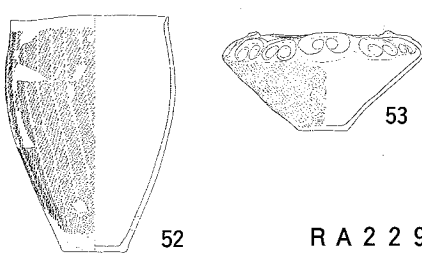
Ⅷ~Ⅹ群土器(第Ⅲ-13 図105~123) Ⅷ群土器は、Ⅶ群土器と共通する口縁部が外反する深鉢を主体とし(第Ⅲ-13 図105・112~114・109~111・117)、口縁部が外反し体部に膨らみを持つ長胴深鉢が

製作されるようになる(第Ⅲ-13図106~108)。文様は、縦位の文様区画が横位に連結するもの(第Ⅲ-13図105)、口縁部の無文帯から発達する文様区画と体部のアルファベット文が入り組む文様が主文様となる(第Ⅲ-13図106・107~111・113~117)。Ⅸ群土器になると、第Ⅲ-13図119のような深鉢や口縁部が大きく開く浅鉢(第Ⅲ-13図120)が製作される。文様は、文様区画を隆線で縁取りするものが多くなる傾向がみられる。Ⅹ群土器はⅧ・Ⅸ群土器の特徴を踏襲しつつ、連結しないJ・L字状の文様を沈線で描くようになる(第Ⅲ-13図122・123)。特徴的なのは、口縁部に沿う横位平行の区画が明瞭となり、その区画線は隆線で表現されることである。

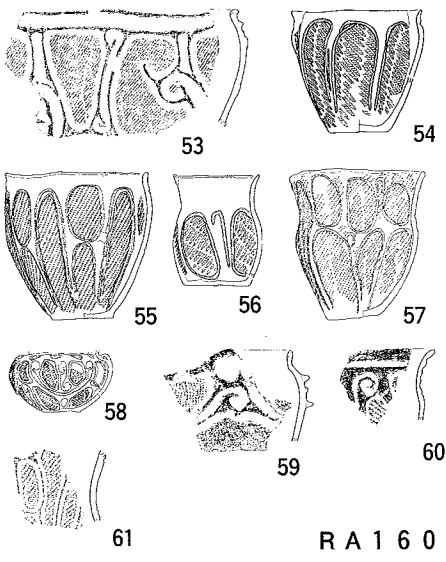
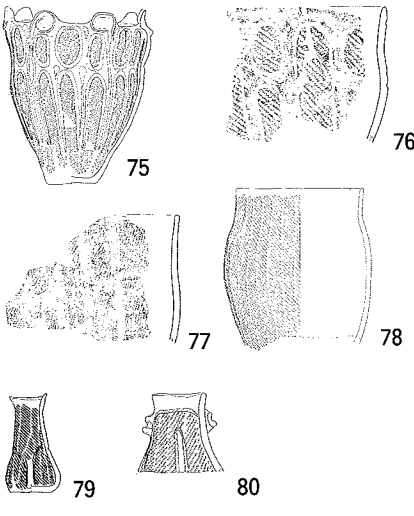
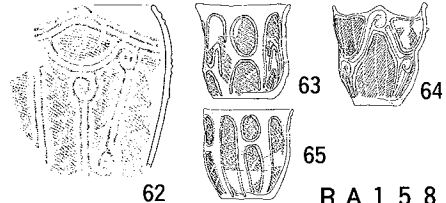
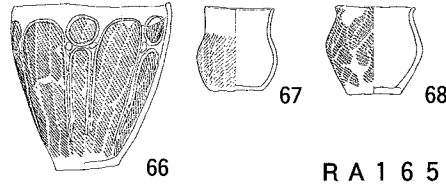
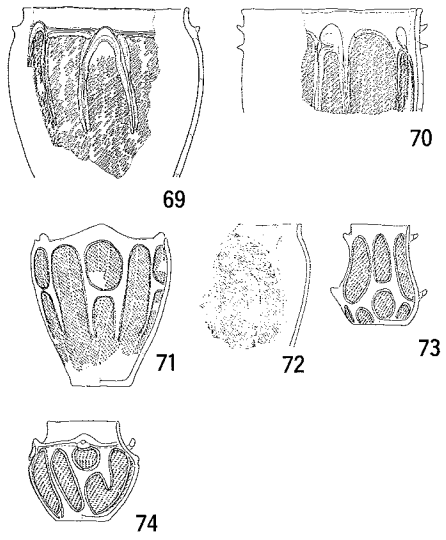
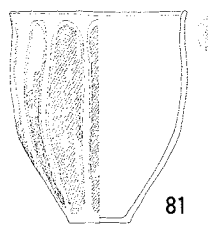
Ⅹ群土器でみられた口縁部の区画線は後続する土器群にも見られ、R D327・510・512・515・676・717土坑では(第3分冊参照)、口縁部に沿う横位平行の区画が沈線で描かれ、口縁下にⅩ群土器に類似した文様が描かれた長胴深鉢が出土している。それらの土器は後期初頭の所謂「門前式」と共伴していることからⅩ群土器の次段階と見るべきであろう。

東北地方南部		盛岡市周辺部		柿ノ木平遺跡（北西集落）										
		大木8b式	I群					1	2	3	4	1~3 RA188	4 RA272	
II群					5	6	7	RA162						
III群							8	9	10	11	12	RA194		
								13	14	15	16	17	18	RA153
IV群							19	20	21	22	23	24	RA040	





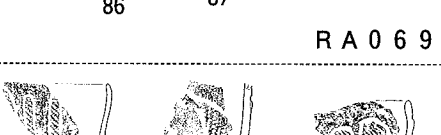
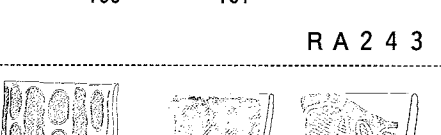
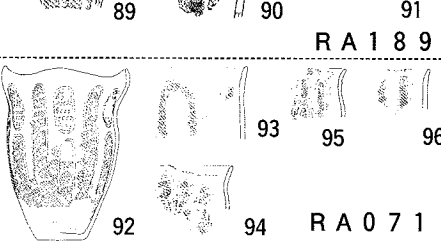

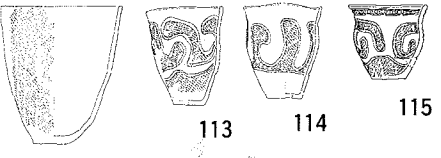
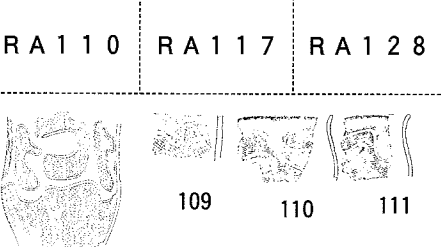
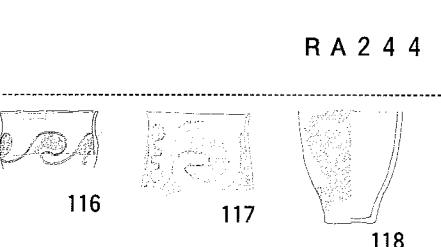
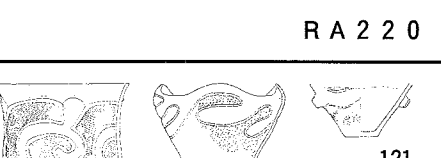
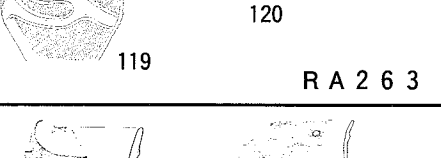
第Ⅲ-10図 縄文時代中期土器変遷図（1）

東北地方南部	盛岡市周辺部	柿ノ木平遺跡	
		(北西集落)	(南東集落)
大木9式	IV群 (大木8b-3式の特徴を残す土器群)	 <p>25 26 27 28 29 RA177</p>	 <p>40 41 RA265</p>
		 <p>30 31 RA037</p>	 <p>42 43 RA258</p>
		 <p>32 33 RA184</p>	 <p>44 45 46 47 RA261</p>
		 <p>34 35 36 37 RA050</p>	 <p>48 49 50 51</p>
		 <p>38 39</p>	 <p>52 53 RA229</p>

第Ⅲ-11図 縄文時代中期土器変遷図(2)

東北地方南部		盛岡市周辺部		柿ノ木平遺跡		
				(北西集落)	(南東集落)	
大木9式	大木9式	V群	 <p>53 54 55 56 57 58 59 60 61</p>	 <p>75 76 77 78 79 80</p>	RA 1 6 0	RA 2 4 1
			 <p>62 63 64 65</p>	 <p>66 67 68</p>	RA 1 5 8	RA 1 6 5
		VI群	 <p>69 70 71 72 73 74</p>	 <p>81</p>	RA 1 6 9	

第Ⅲ-12図 縄文時代中期土器変遷図(3)

東北地方南部		盛岡市周辺部		柿ノ木平遺跡					
		(北西集落)			(南東集落)				
大木9式	大木9式	Ⅶ群	 83 84 85	 97 98 99					
			 86 87 88	 100 101					
			 89 90 91	 102 103 104					
			 92 93 94 95 96	<p>RA 0 6 9</p> <p>RA 2 4 3</p> <p>RA 1 8 9</p> <p>RA 2 4 3 (102・103)</p> <p>RA 2 4 7 (104)</p> <p>RA 0 7 1</p>					
大木10式	大木10式	Ⅷ群	 105 106 107	 112 113 114 115					
			 108 109 110 111	 116 117 118					
		Ⅸ群	 119 120 121						
		Ⅹ群	 122 123						
			<p>RA 1 1 0</p> <p>RA 1 1 7</p> <p>RA 1 2 8</p> <p>RA 2 4 4</p> <p>RA 1 5 5</p> <p>RA 2 2 0</p> <p>RA 2 6 3</p> <p>RA 2 4 1 A層</p>						

第Ⅲ—13図 縄文時代中期土器変遷図(4)

柿ノ木平遺跡
堰根遺跡

－浅岸地区区画整理事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅳ－

第1分冊 柿ノ木平遺跡 本文編

2008年3月31日 発行

- 編集 盛岡市遺跡の学び館
〒020-0866 岩手県盛岡市本宮字荒屋13番地1
電話 019-635-6600 FAX 019-635-6605
- 発行 盛岡市都市整備部区画整理課
〒020-8531 岩手県盛岡市若園町2-18
電話 019-651-4111
- 印刷 河北印刷株式会社
〒020-0155 岩手県盛岡市本町通2-8-7
電話 019-623-4256



付図1 浅岸遺跡群全体図